

2017年（平成29年）

兵庫県感染症発生動向調査事業

年 報

兵庫県立健康科学研究所  
（兵庫県感染症情報センター）



## はじめに

2017年はロタウイルスによる感染性胃腸炎が4月に、咽頭結膜熱が6月に、手足口病が7月に過去5年間で最大の流行を呈したほか、例年冬に流行していたRSウイルス感染症が9月に流行のピークを示しました。さらに、2017年からの季節性インフルエンザシーズンでは、例年と異なりA型とB型のウイルスが同時流行するなど、流行傾向に変化が見られます。

また、2015年から2年連続で倍増しておりました梅毒患者は、引き続き患者数が多い状況が続いており、侵襲性肺炎球菌感染症患者やA型肝炎患者にも増加が見られることから、感染症発生動向調査において、感染原因やワクチン接種歴を把握することが重要となっております。

県民の健康を守り、地域医療、公衆衛生行政を支えていくためには、感染症の流行状況を正確に把握する必要があり、2016年4月から、改正された「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」が全面施行され、サーベイランス体制の充実強化、検査の信頼性を確保する制度（感染症GLP）の導入が図られました。

今後も的確な感染症対策のための適切な情報提供が迅速に行えるよう、よりいっそう努力して参りますので、関係機関の皆様方には、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに2017年の事業年報をとりまとめました。本書を感染症対策の資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

なお、この事業の実施にあたり、兵庫県医師会、郡市医師会、定点医療機関をはじめとする関係機関各位には、ひとかたならぬご理解とご尽力を賜っておりますことに心からお礼申し上げます。

2018年12月

兵庫県立健康科学研究所  
所長 大橋 秀隆

## 2017年報告週対応表

報告週	期 間	報告週	期 間
1	1月2日～1月8日	27	7月3日～7月9日
2	1月9日～1月15日	28	7月10日～7月16日
3	1月16日～1月22日	29	7月17日～7月23日
4	1月23日～1月29日	30	7月24日～7月30日
5	1月30日～2月5日	31	7月31日～8月6日
6	2月6日～2月12日	32	8月7日～8月13日
7	2月13日～2月19日	33	8月14日～8月20日
8	2月20日～2月26日	34	8月21日～8月27日
9	2月27日～3月5日	35	8月28日～9月3日
10	3月6日～3月12日	36	9月4日～9月10日
11	3月13日～3月19日	37	9月11日～9月17日
12	3月20日～3月26日	38	9月18日～9月24日
13	3月27日～4月2日	39	9月25日～10月1日
14	4月3日～4月9日	40	10月2日～10月8日
15	4月10日～4月16日	41	10月9日～10月15日
16	4月17日～4月23日	42	10月16日～10月22日
17	4月24日～4月30日	43	10月23日～10月29日
18	5月1日～5月7日	44	10月30日～11月5日
19	5月8日～5月14日	45	11月6日～11月12日
20	5月15日～5月21日	46	11月13日～11月19日
21	5月22日～5月28日	47	11月20日～11月26日
22	5月29日～6月4日	48	11月27日～12月3日
23	6月5日～6月11日	49	12月4日～12月10日
24	6月12日～6月18日	50	12月11日～12月17日
25	6月19日～6月25日	51	12月18日～12月24日
26	6月26日～7月2日	52	12月25日～12月31日

# 目 次

## 1. 事業の概要

- 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム ..... 1
- 1. 2 地域の区分と地域別定点数 ..... 4

## 2. 患者発生状況

- 2. 1 概要 ..... 6
- 2. 2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び  
定点把握対象疾病の動向 ..... 8
  - (1) 結核 ..... 9
  - (2) 腸管出血性大腸菌感染症 ..... 10
  - (3) 侵襲性肺炎球菌感染症 ..... 11
  - (4) 梅毒 ..... 12
  - (5) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く） ..... 14
  - (6) RS ウイルス感染症 ..... 15
  - (7) 咽頭結膜熱 ..... 16
  - (8) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ..... 17
  - (9) 感染性胃腸炎 ..... 18
  - (10) 水痘 ..... 19
  - (11) 手足口病 ..... 20
  - (12) 伝染性紅斑 ..... 21
  - (13) 突発性発しん ..... 22
  - (14) 百日咳 ..... 23
  - (15) ヘルパンギーナ ..... 24
  - (16) 流行性耳下腺炎 ..... 25
  - (17) 急性出血性結膜炎 ..... 26
  - (18) 流行性角結膜炎 ..... 27
  - (19) 細菌性髄膜炎  
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) ..... 28
  - (20) 無菌性髄膜炎 ..... 29
  - (21) マイコプラズマ肺炎 ..... 30
  - (22) クラミジア肺炎（オウム病を除く） ..... 31
  - (23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） ..... 32
  - (24) 性器クラミジア感染症 ..... 33
  - (25) 性器ヘルペスウイルス感染症 ..... 35
  - (26) 尖圭コンジローマ ..... 37
  - (27) 淋菌感染症 ..... 39

(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4 1
(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4 2
(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症	4 3

### 3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例	4 4
(2) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症事例	4 4
(3) 侵襲性肺炎球菌感染症事例	4 5
(4) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症事例	4 5
(5) その他の細菌検査	4 5
(6) 結核 QFT 検査	4 5
(7) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査	4 6
(8) インフルエンザ流行予測調査検査成績	4 9
(9) 日本脳炎流行予測調査結果	4 9
(10) 蚊媒介感染症の検査	4 9
(11) リケッチア等の検査	4 9
(12) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果	5 0
(13) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数	5 0

### 4. 資料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	5 3
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	5 7
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	6 0
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	6 3
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	6 5

## 兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

# 1. 事業の概要

## 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム

図1に患者情報に関する兵庫県感染症発生動向調査システムを示す。コンピュータ・オンライン・システムは、結核及びその他の感染症の患者情報を迅速に収集、解析、還元することにより、適切な予防措置を講じ、流行を未然に防止することを目的として、1987年に結核・感染症サーベイランスシステムとして導入された。1992年以降は厚生行政総合情報システム（WISH）上での運用となり、1998年に対象疾病の若干の増加と一部疾病名の変更及び患者の年齢階級区分の変更が行われた。同時にシステムの名称も兵庫県結核・感染症発生動向調査システムと改められた。

1999年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」が施行された。これに伴い、当研究所内に基幹地方感染症情報センターが設置され、政令市を含む兵庫県全域の感染症情報の集計・解析・情報還元の中核を担うこととなった。

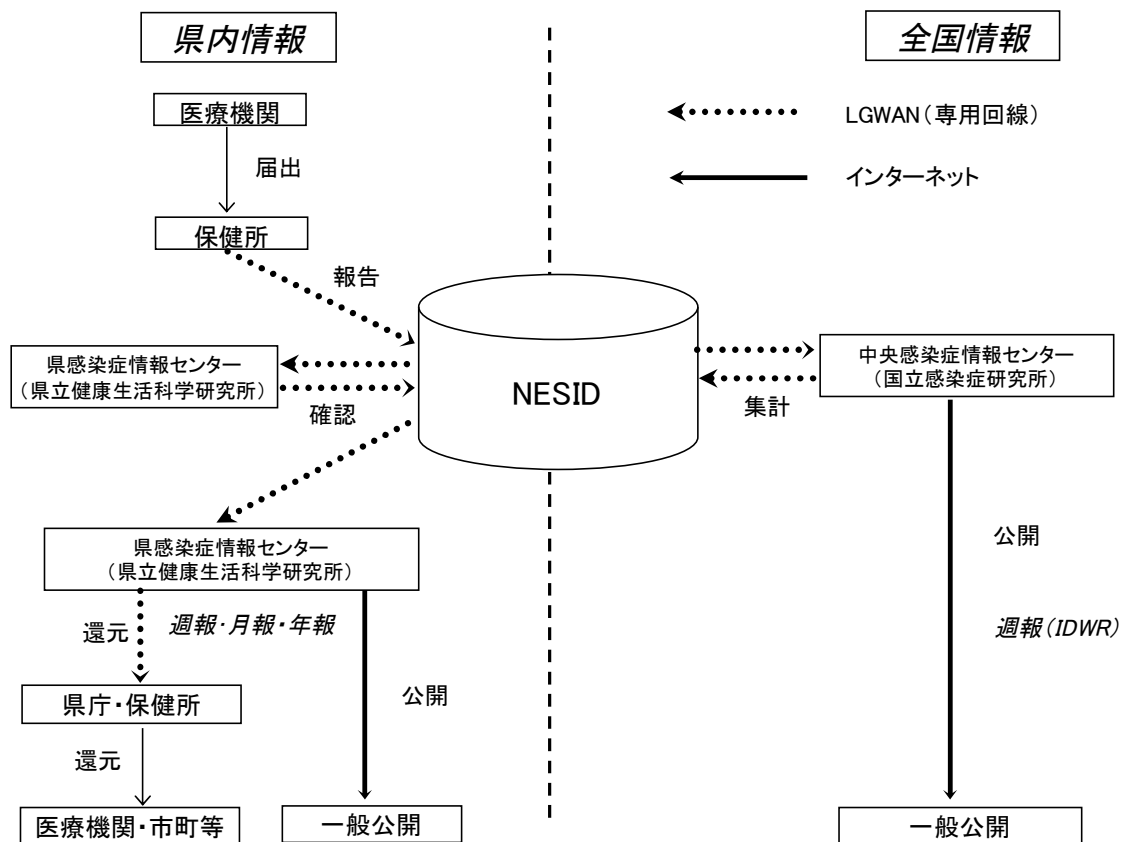
なお、この時点では結核予防法は感染症法に一元化されず、結核は感染症発生動向調査の対象疾病とはならなかった。2003年11月5日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」の施行に伴い感染症発生動向調査も一部変更された。

2006年4月からは感染症発生動向調査システムが全面的に新しくなった。従来、収集された情報は全国の保健所、都道府県及び政令市、国の各レベルで集積され、そのためのデータベースプログラムが各組織に配布されていたが、新システム（NESID）では、これらの情報はブラウザで取り扱われて、国レベルで一元管理されることになった。ネットワークは従来どおりWISHを用い、インターネットからは隔離されたクローズドなイントラネットとなっている。回線は国と全国の地方自治体を相互接続した広域ネットワークであるLGWAN（総合行政ネットワーク）を用いている。新システムにより、情報伝達の迅速化、セキュリティ向上、対象疾病等に変更があった場合の迅速対応（全国にプログラムを配布し、インストールする必要がないため）が図られた。

2007年4月の感染症法の改正では、発生動向調査対象疾病の類型分けの変更や結核予防法の統合等がなされた。感染症法の改正がその後も行われた結果、2017年12月31日現在の対象疾病は疑似症を含めて114疾病（表1、表2）となっている。

当感染症情報センターでは、表1、表2に示す感染症発生動向調査システムの対象疾病である一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症の合計112疾病（疑似症を除く）のうち、全数把握対象疾病（87疾病）については県内すべての医療機関からの患者発生届出を、定点把握対象疾病（25疾病）については県内に指定された医療機関（全294定点）からの報告を、保健所を通じて集計・解析し、感染症の動向に関するコメント・グラフを付し週報、月報及び年報として保健所、市町、医師会、医療機関等に還元するとともに、ホームページを通じて広く県民に公開している。

図1 兵庫県感染症発生動向調査システム（2017年）



NESID : National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases 厚生労働省感染症サーベイランスシステム

県立健康生活科学研究所は、2018年4月から県立健康科学研究所に名称変更



表1 全数把握の対象疾病（87疾病）

（2017年12月31日現在）

	対象疾病
一類感染症(7疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症(7疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群 <sup>A</sup> 、(12)中東呼吸器症候群 <sup>B</sup> 、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症(5疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症(44疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱 <sup>C</sup> 、(22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群 <sup>D</sup> 、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ <sup>E</sup> 、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兔病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症(22疾病)	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎 <sup>F</sup> 、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎 <sup>G</sup> 、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘(入院例に限る)、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症(2疾病)	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ

<sup>A</sup> 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。<sup>B</sup> 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。<sup>C</sup> ウエストナイル脳炎を含む。<sup>D</sup> 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。<sup>E</sup> H5N1及びH7N9を除く。<sup>F</sup> E型肝炎及びA型肝炎を除く。<sup>G</sup> ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表2 定点把握対象疾病（五類感染症、疑似症）

（2017年12月31日現在）

患者定点	対象疾病
小児科定点(週報) 129定点、11疾病	(86)RSウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎
インフルエンザ定点(週報) 199定点、1疾病	(97)インフルエンザ <sup>H</sup>
眼科定点(週報) 35定点、2疾病	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎
STD定点(月報) 46定点、4疾病	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症
基幹定点(週報) 14定点、6疾病	(97)インフルエンザ <sup>H</sup> ※ただし、入院患者に限定する。 (89)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(105)細菌性髄膜炎 <sup>I</sup> 、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎
基幹定点(月報) 14定点、3疾病	(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症 <sup>2</sup> 295定点	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (113)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(114)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

<sup>H</sup> 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。<sup>I</sup> インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。<sup>2</sup> 汎用サーベイランスシステムで実施。

## 1. 2 地域の区分と地域別定点数

図2に、二次医療圏を単位とする地域の区分を示す。表3に、五類感染症の地域別定点数と人口の関係を示す。

2017年の定点数は、インフルエンザ199定点、小児科129定点、眼科35定点、STD46定点、基幹14定点である。

図2 地域の区分

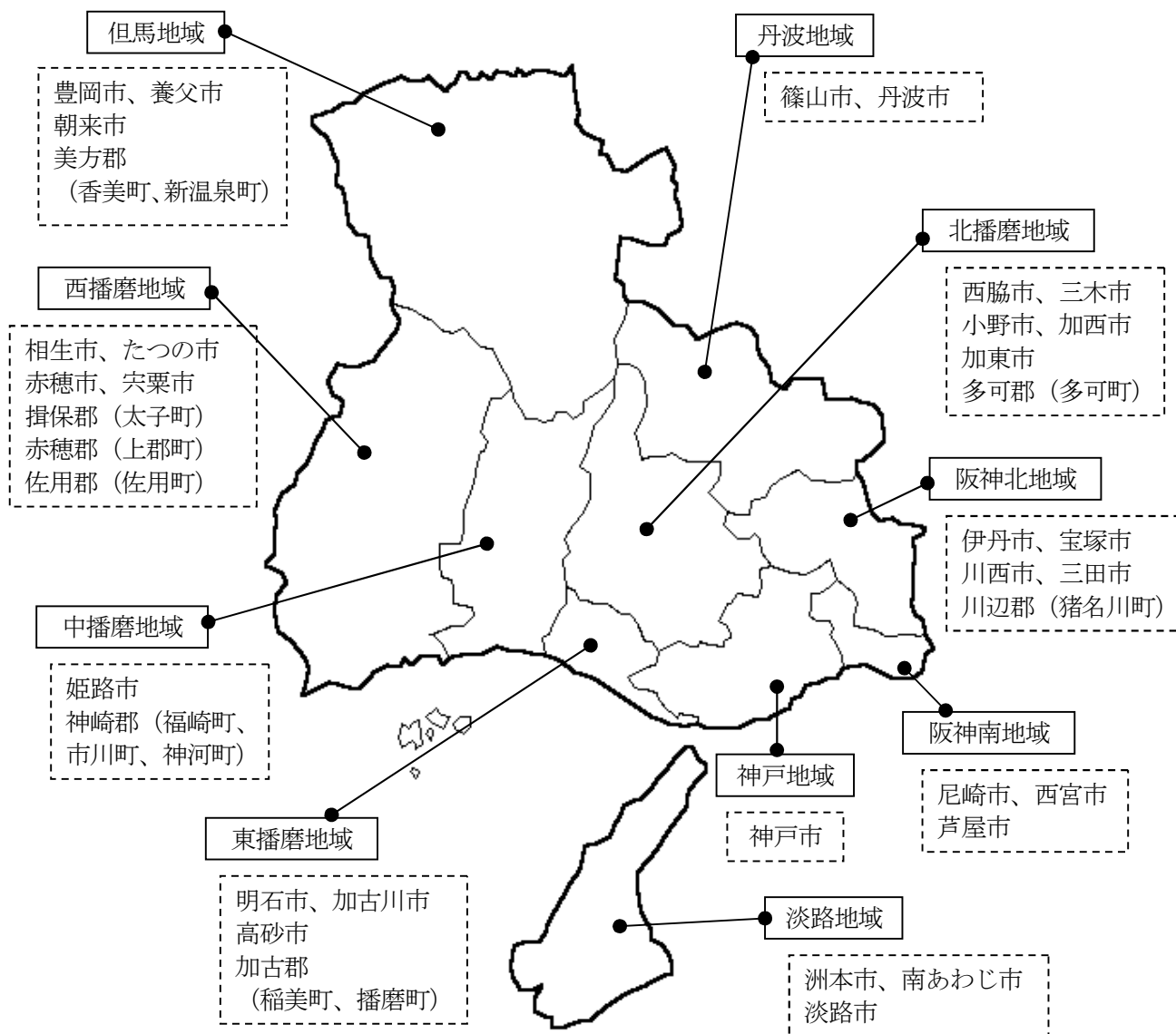


表3 地域別定点数と人口の関係

区 分	人 口 (万人)	人口比 (%)	インフルエンザ <sup>a</sup> 定点		小児科定点		眼科定点		STD定点		基幹定点	
			定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)
神戸地域	153.4	27.8	48	3.2	31	4.9	10	15.3	12	12.8	3	51.1
阪神南地域	103.5	18.8	32	3.2	21	4.9	7	14.8	8	12.9	2	51.7
阪神北地域	72.0	13.1	21	3.4	14	5.1	4	18.0	5	14.4	0	—
東播磨地域	71.5	13.0	25	2.9	16	4.5	5	14.3	6	11.9	1	71.5
北播磨地域	27.0	4.9	13	2.1	8	3.4	2	13.5	3	9.0	1	27.0
中播磨地域	57.6	10.5	21	2.7	14	4.1	4	14.4	5	11.5	1	57.6
西播磨地域	25.5	4.6	14	1.8	9	2.8	1	25.5	2	12.8	2	12.8
但馬地域	16.6	3.0	11	1.5	7	2.4	1	16.6	2	8.3	2	8.3
丹波地域	10.4	1.9	6	1.7	4	2.6	0	—	1	10.4	1	10.4
淡路地域	13.2	2.4	8	1.7	5	2.6	1	13.2	2	6.6	1	13.2
合 計	550.7	100.0	199	2.8	129	4.3	35	15.7	46	12.0	14	39.3

(人口:2017年7月1日推計人口)

## 2. 患者発生状況

### 2. 1 概要

#### 2. 1. 1 全数把握対象疾病

表 4 に全数把握対象疾病の年間患者数を示す。2017 年は、一類感染症は報告がなく、二類感染症は結核 1,166 人であった。患者数の多い疾病は、三類感染症では腸管出血性大腸菌感染症 96 人、四類感染症ではレジオネラ症 71 人、五類感染症ではカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 64 人、侵襲性肺炎球菌感染症 188 人、梅毒 198 人であった。

2016 年と比較すると、2017 年は A 型肝炎、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒等の患者数が増加した。A 型肝炎の感染経路として、経口感染のほかに性的接触の報告も増えている。侵襲性肺炎球菌感染症は、届出対象となった 2013 年 4 月 1 日以降、年々患者数が増えている。乳幼児には 13 価のワクチン、高齢者には 23 価のワクチンが準備されているが、肺炎球菌には 90 種以上の血清型が存在するため、ワクチンで予防できない感染例も認められている。梅毒は、全国的に患者数の増加が継続している。兵庫県内では、増加の伸びは鈍ったものの、昨年比が男性 0.9 に対して、女性 1.5 となり、女性の占める割合が 22%から 32%に増加した。

蚊媒介性感染症のうち、ジカウイルス感染症は 2016 年 2 月 15 日に届出対象となって以来、県内で最初の患者がフィリピンからの帰国者から報告された。マラリアは、いずれも海外での感染であるが、3 年ぶりに 4 人の報告があった。

#### 2. 1. 2 定点把握対象疾病

表 5 に週報疾病別年間患者数を、表 6 に月報疾病別年間患者数を示す。

週報対象疾病のうち、インフルエンザ定点及び小児科定点対象疾病で 2017 年の患者数が多い疾病は、インフルエンザ 51,814 人、感染性胃腸炎 41,139 人、手足口病 15,180 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9,588 人、RS ウイルス感染症 6,485 人の順であった。2016 年と比較すると、手足口病 [1,475 人→15,180 人] 及び RS ウイルス感染症 [4,068 人→6,485 人] は患者数が増加し、伝染性紅斑 [1,723 人→556 人]、百日咳 [102 人→45 人] 及び流行性耳下腺炎 [7,799 人→3,395 人] は患者数が減少した。眼科定点対象疾病では、顕著な変動は見られなかった。基幹定点対象疾病では、クラミジア肺炎（オウム病を除く）[1 人→11 人] の患者数が増加し、マイコプラズマ肺炎 [508 人→170 人] の患者数が減少した。

月報対象疾病のうち性感染症では、性器クラミジア感染症 [862 人→1,025 人] 及び尖圭コンジローマ [171 人→203 人] の患者数がやや増加傾向を示した。薬剤耐性菌感染症では、顕著な変動は見られなかった。

表4 全数把握対象疾病の年間患者数（届出のあった疾病）

（2018年10月30日現在の兵庫県感染症情報センターにおける把握）

	疾 病 名	2015年患者数	2016年患者数	2017年患者数
二類	結核	1,215	1,158	1,166
三類	コレラ	1	0	0
	細菌性赤痢	3	5	6
	腸管出血性大腸菌感染症	103	129	96
	腸チフス	2	0	2
	パラチフス	3	0	0
四類	E型肝炎	6	3	3
	A型肝炎	11	8	21
	オウム病	0	0	1
	ジカウイルス感染症 <sup>*1</sup>	—	0	1
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	1
	チクングニア熱	1	0	0
	つつが虫病	5	9	1
	デング熱	9	16	7
	日本紅斑熱	9	13	7
	マラリア	0	0	4
	レジオネラ症	63	71	71
	レプトスピラ症	1	0	0
五類	アメーバ赤痢	44	48	40
	ウイルス性肝炎 <sup>*A</sup>	21	16	12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	75	75	64
	急性脳炎 <sup>*B</sup>	18	52	34
	クリプトスポリジウム症	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	7	10	7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17	27	29
	後天性免疫不全症候群	28	34	36
	ジアルジア症	2	2	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	11	17	14
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	3	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	108	142	188
	水痘(入院例)	13	9	12
	梅毒	89	184	198
	播種性クリプトコックス症	2	3	6
	破傷風	3	0	3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	3
	風しん	5	9	7
	麻しん	4	20	3

<sup>\*A</sup>E型肝炎及びA型肝炎を除く。<sup>\*B</sup>ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

<sup>\*1</sup>2016年2月15日より追加。

表5 疾病別年間患者数（週報）

疾 病 名	2015 年		2016 年		2017 年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
インフルエンザ <sup>*A</sup>	43,699	219.72	66,751	335.48	<b>51,814</b>	260.38
RS ウイルス感染症	5,112	39.64	4,068	31.53	<b>6,485</b>	50.30
咽頭結膜熱	3,402	26.42	3,023	23.42	<b>3,737</b>	29.00
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13,444	104.38	9,984	77.33	<b>9,588</b>	74.40
感染性胃腸炎	49,328	382.97	53,815	416.92	<b>41,139</b>	319.22
水痘	3,258	25.29	2,903	22.49	<b>2,255</b>	17.49
手足口病	18,344	142.42	1,475	11.43	<b>15,180</b>	117.88
伝染性紅斑	2,867	22.26	1,723	13.35	<b>556</b>	4.32
突発性発しん	3,040	23.60	2,680	20.76	<b>2,542</b>	19.73
百日咳	132	1.02	102	0.79	<b>45</b>	0.35
ヘルパンギーナ	2,883	22.36	4,276	33.16	<b>3,338</b>	25.92
流行性耳下腺炎	2,624	20.36	7,799	60.43	<b>3,395</b>	26.34
急性出血性結膜炎	19	0.54	15	0.43	<b>17</b>	0.49
流行性角結膜炎	1,473	42.09	706	20.20	<b>858</b>	24.51
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	18	1.29	33	2.36	<b>32</b>	2.34
無菌性髄膜炎	42	3.01	50	3.57	<b>50</b>	3.62
マイコプラズマ肺炎	191	13.67	508	36.29	<b>170</b>	12.34
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0.07	1	0.07	<b>11</b>	0.79
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス)	94	6.71	200	14.29	<b>164</b>	12.09

<sup>\*A</sup>鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。<sup>\*B</sup>インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表6 疾病別年間患者数（月報）

疾 病 名	2015 年		2016 年		2017 年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
性器クラミジア感染症	880	19.13	862	18.74	<b>1,025</b>	<b>22.28</b>
性器ヘルペスウイルス感染症	303	6.59	310	6.74	<b>304</b>	<b>6.61</b>
尖圭コンジローマ	185	4.02	171	3.72	<b>203</b>	<b>4.41</b>
淋菌感染症	348	7.57	297	6.46	<b>309</b>	<b>6.72</b>
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	408	29.14	451	32.21	<b>458</b>	<b>32.71</b>
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	69	4.93	71	5.07	<b>78</b>	<b>5.57</b>
薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.29	9	0.64	<b>6</b>	<b>0.43</b>

## 2. 2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病の動向

2017年の感染症発生动向調査事業における週報及び月報の患者情報を解析し、週（月）別患者数、保健所別患者数及び年齢階級別患者数を求めた。STD 対象疾病では性別・年齢階級別患者数を求めた。これらの統計表は付表として本誌 53～65 ページに掲載した。

全数把握対象疾病のうち患者数の多い結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病について、各疾病の動向を以下に示す。

### (1) 結核

結核の年間患者数は1,166人で、2016年の1,158人よりわずかに増加した。2010～2013年は年間1,500人前後で推移していたが、2014年以降はやや減少傾向を示し、2015～2017年は年間1,200人前後となっている。性別分布は男性640人、女性526人であった。

患者の年齢階級別割合は10歳未満3%、10歳代1%、20歳代6%、30歳代7%、40歳代7%、50歳代7%、60歳代13%、70歳代20%、80歳代27%、90歳以上10%と、70歳以上の高齢者が全体の57%を占めていた。

病型別では、肺結核が614人(53%)、肺結核及びその他の結核が59人(5%)、その他の結核が211人(18%)、無症状病原体保有者が279人(24%)、疑似症患者が3人であった。

図 3-1 結核の週別患者数

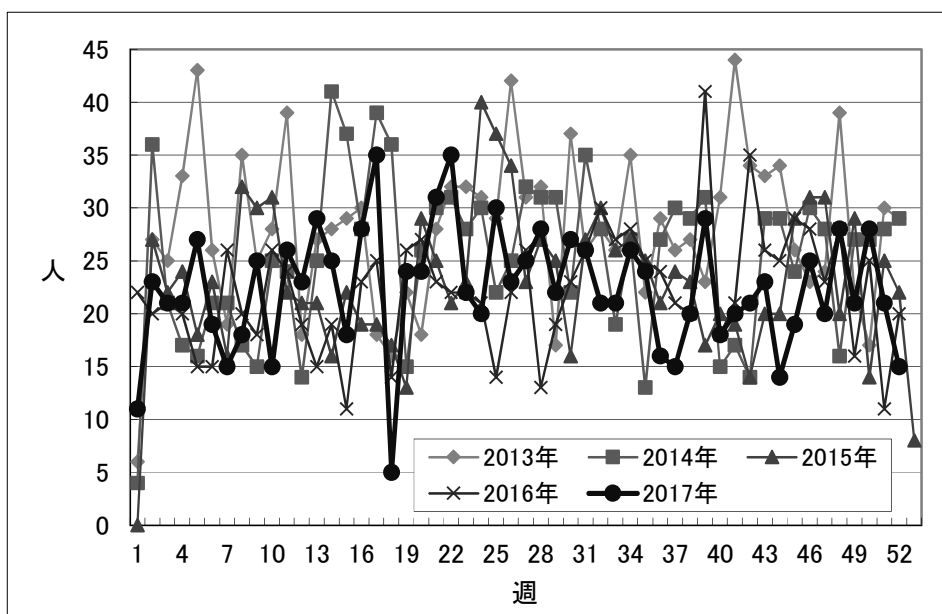
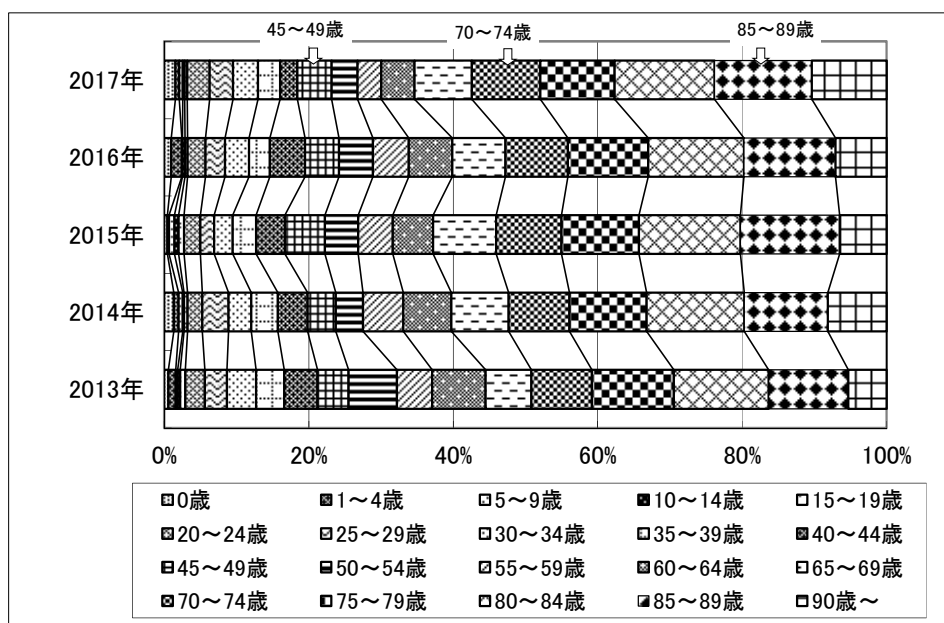


図 3-2 結核患者の年齢階級別割合



## (2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の年間患者数は96人で、2016年の129人より減少した。25週（6月下旬）と30週（7月下旬）に患者発生のピークが見られた。性別分布は男性38人、女性58人であった。

患者の年齢階級別割合は10歳未満26%、10歳代17%、20歳代11%、30歳代14%、40歳代16%、50歳代8%、60歳代2%、70歳以上6%であった。

有症者は63人で、うち3人が溶血性尿毒症症候群を発症し、無症状病原体保有者は33人であった。O血清型別では、O157が60人、O26が21人の順で多くなった。

図 4-1 腸管出血性大腸菌感染症の週別患者数

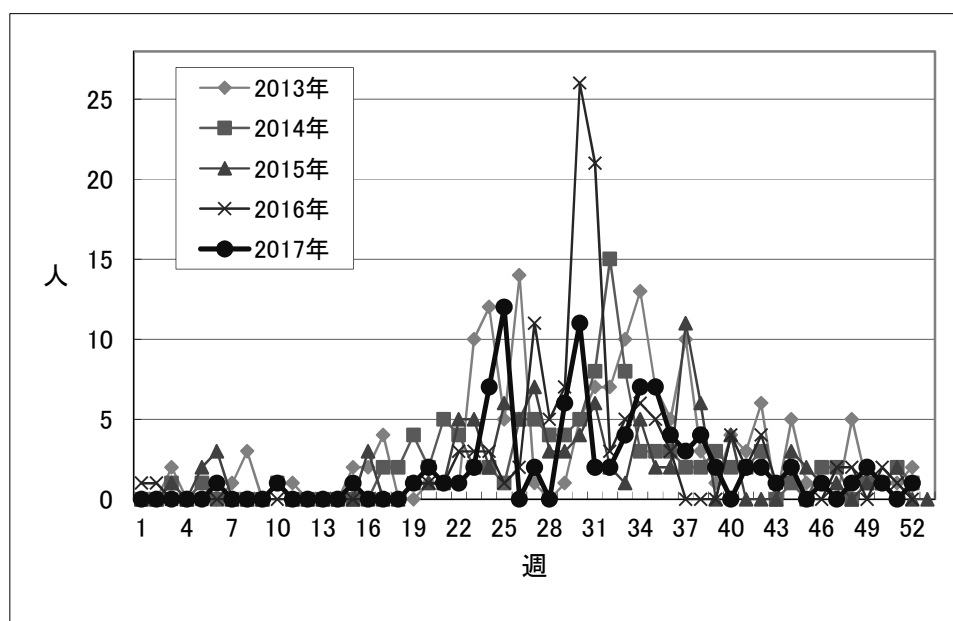
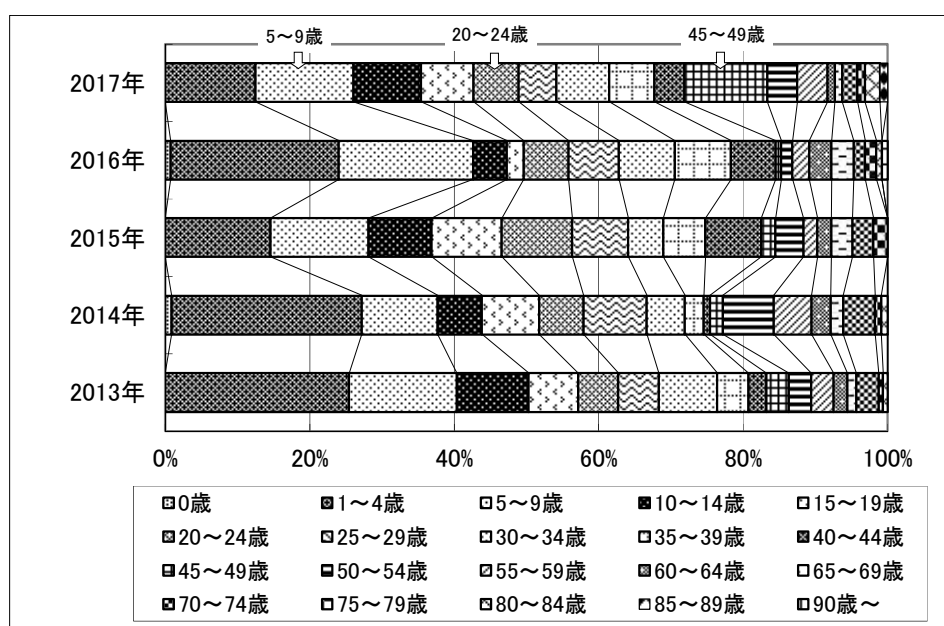


図 4-2 腸管出血性大腸菌感染症患者の年齢階級別割合





### (3) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症の年間患者数は188人で、2016年の142人より増加した。性別分布は男性110人、女性78人であった。本疾病は、2013年4月1日より全数把握対象疾病に追加され、冬から初夏にかけて患者発生が増加する傾向が見られる。

患者の年齢階級別割合は10歳未満19%、10歳代1%、20歳代2%、30歳代5%、40歳代2%、50歳代7%、60歳代19%、70歳代20%、80歳代19%、90歳以上7%となり、4歳以下の乳幼児と65歳以上の高齢者とで全体の74%を占めていた。

4歳以下の患者30人中29人はワクチン接種をしていたが、65歳以上の患者109人中、ワクチン接種有りは23人、接種無しが54人、不明が32人であった。

図5-1 侵襲性肺炎球菌感染症の週別患者数

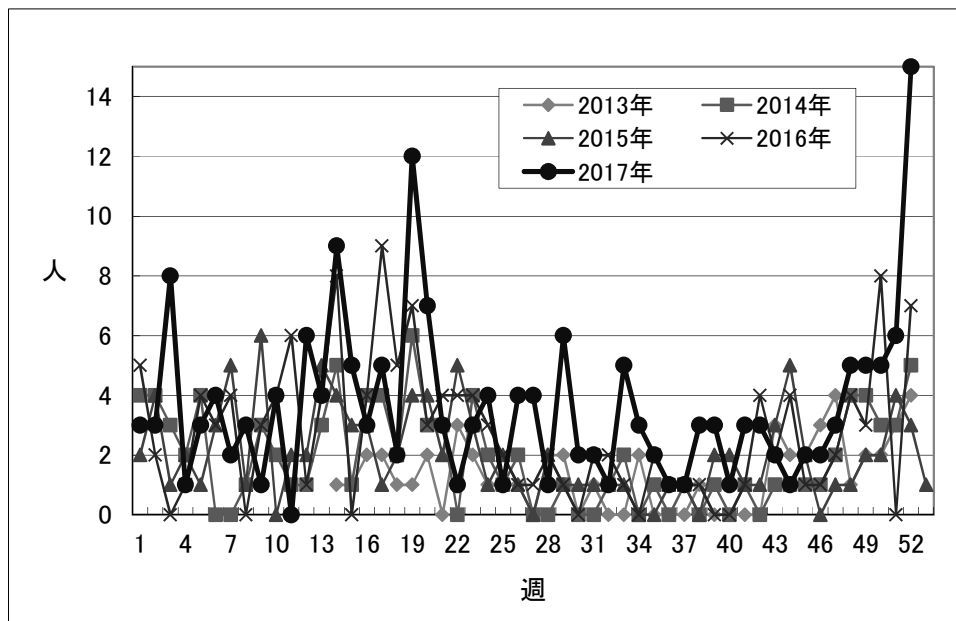
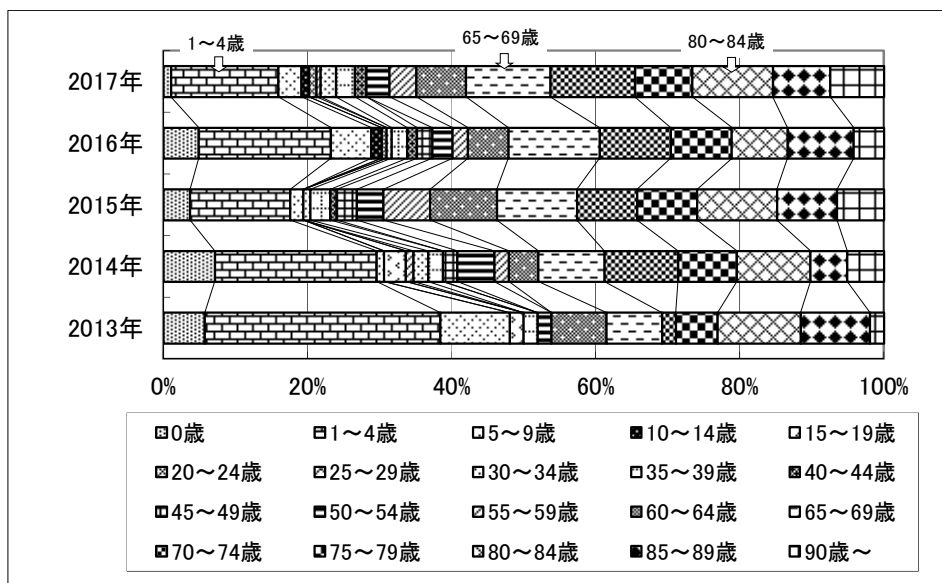


図5-2 侵襲性肺炎球菌感染症患者の年齢階級別割合



#### (4) 梅毒

梅毒の年間患者数は198人で、2016年の184人より増加した。特に、若い女性患者の増加が著しく、性別分布は男性135人、女性63人となった。

患者の年齢階級別割合は10歳代5%、20歳代33%、30歳代23%、40歳代16%、50歳代11%、60歳代10%、70歳代3%、80歳以上1%となり、20～40歳代の患者数が多くなっている。

感染原因として、9割が性的接触を報告しており、感染地域は兵庫県内が133人、その他国内が64人、国外が1人であった。

図 6-1 梅毒の週別患者数

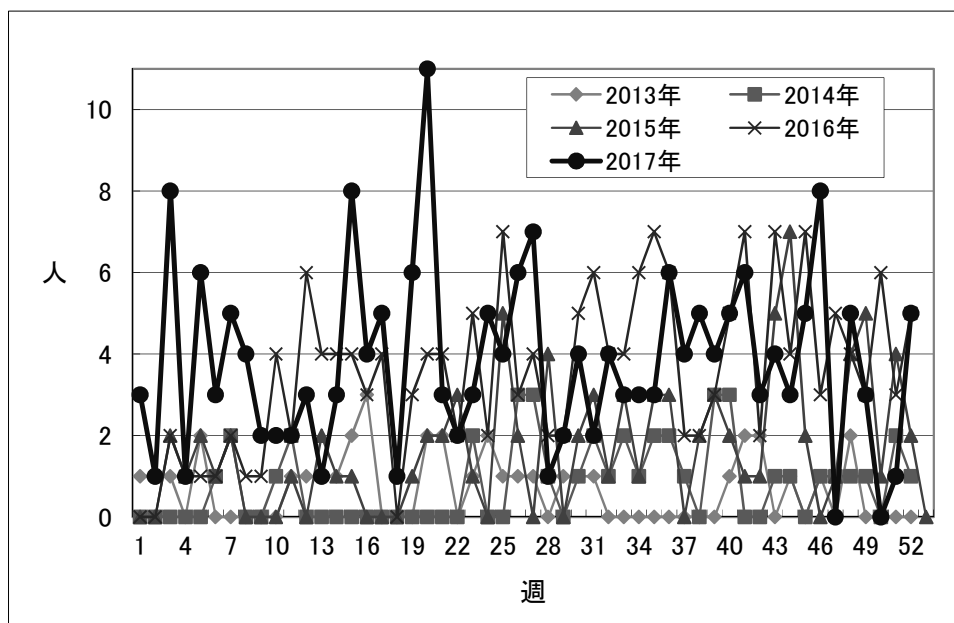


図 6-2 梅毒患者の年齢階級別割合

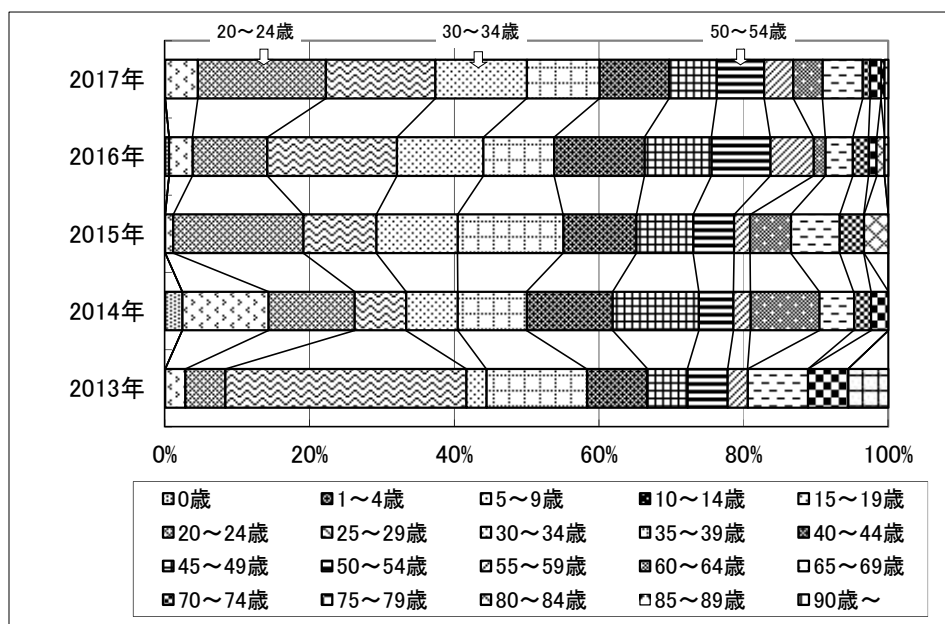


図 6-3 梅毒の年齢階級別患者数（男性）

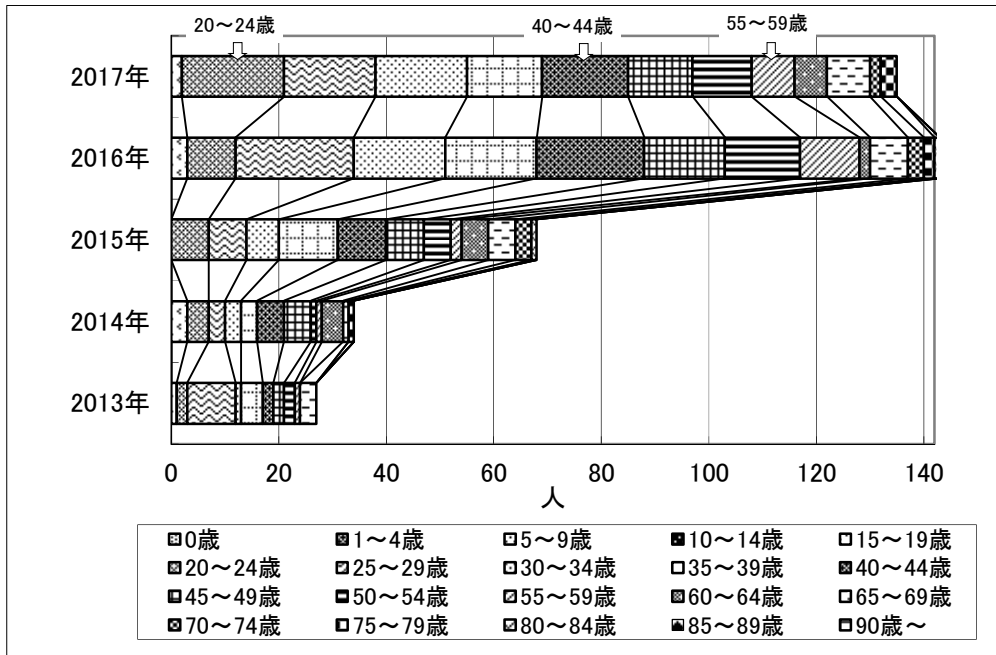
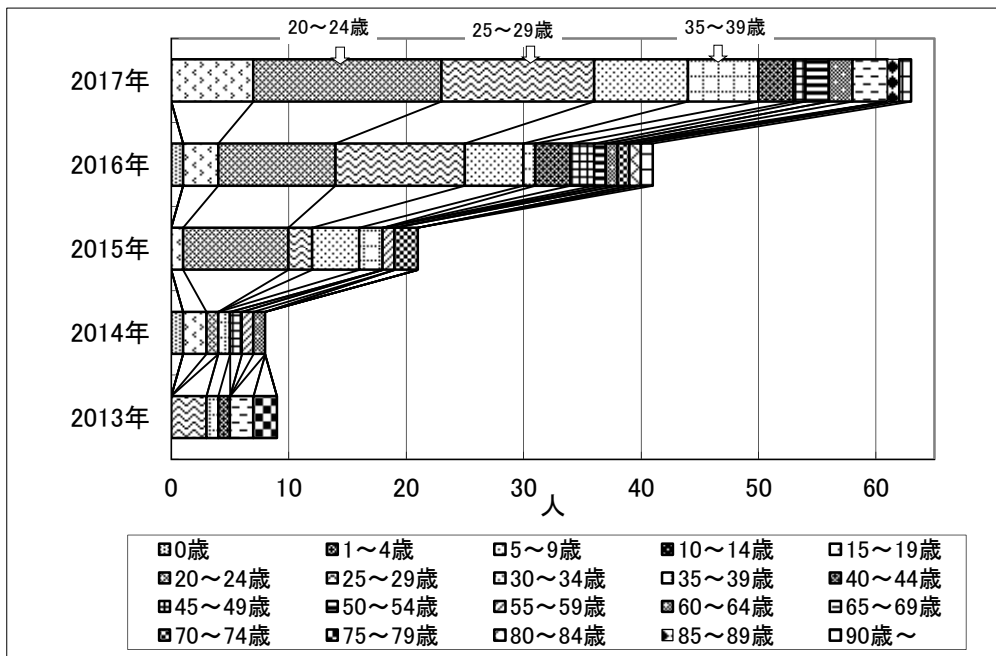


図 6-4 梅毒の年齢階級別患者数（女性）



(5) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間患者数は51,814人（定点あたり260.38人）で、2016年の66,751人（335.48人）より減少した。週別定点あたり患者数は、2週（1月中旬）に定点あたり10人を超えて注意報レベルとなり、4週（1月下旬）には定点あたり30人を超えて警報レベルとなるとともに、最大のピーク（39.25人）を示した。その後、9週（3月上旬）には定点あたり10人を、19週（5月中旬）には定点あたり1.0人下回った。また、年末47週（11月下旬）から流行開始の目安とされる定点あたり1.0人を超えて流行期に入り、52週（12月下旬）に定点あたり10人を超えて注意報レベルとなった。

当研究所で行った検査ではA(H1N1)pdm09、A(H3N2)型、B型（Yamagata系統）及びB型（Victoria系統）のインフルエンザウイルスを299件検出した。年初から3月までは主にA(H3N2)型を検出し、その後5月にかけてA(H3N2)型に加えてB型の検出が継続した。また、11月から年末までは、A(H1N1)pdm09、A(H3N2)型及びB型（Yamagata系統）を同時に検出した。

患者の年齢階級別割合では、9歳以下の患者が全体の49%、14歳以下の患者が全体の68%を占めていた。

図 7-1 インフルエンザの週別定点あたり患者数

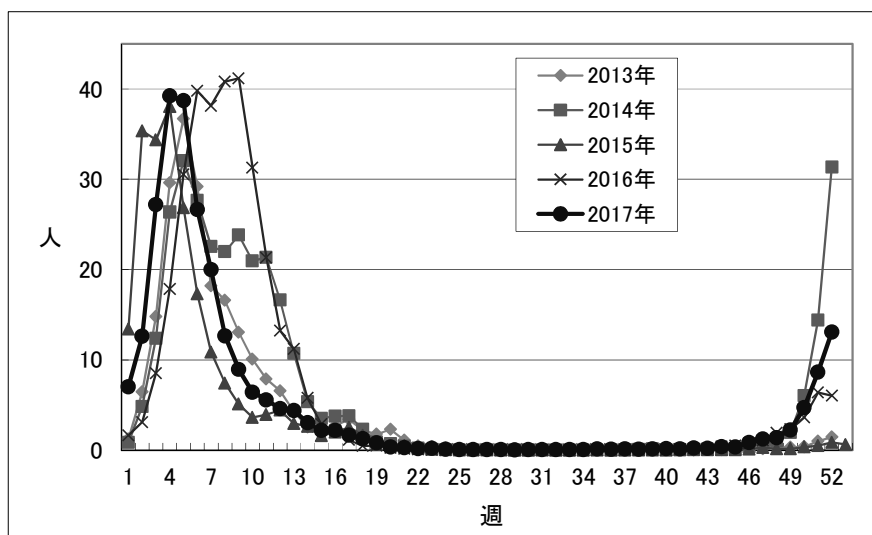
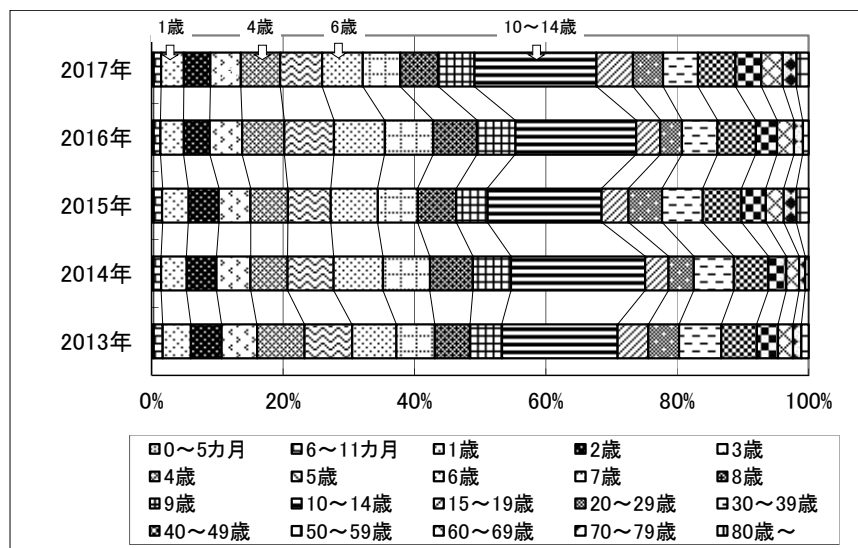


図 7-2 インフルエンザ患者の年齢階級別割合



### (6) RS ウイルス感染症

本疾病は2003年11月に小児科定点対象疾病となった。患者報告には検査診断が必要だが、2011年10月より迅速診断キットによる抗原検査の保険適用が拡大され、従来入院患者に加えて外来患者の乳児（1歳未満）等にも適用可能となっている。

2017年の年間患者数は6,485人（定点あたり50.30人）で、2016年の4,068人（31.53人）より増加し、過去最大であった2015年の5,112人（39.64人）を上回った。

週別定点あたり患者数は30週（7月下旬）から増加し始め、37週（9月中旬）に最大のピーク（3.20人）を示した後、年末まで患者数の多い状態で推移した。

患者の年齢階級別割合では、0歳の患者が全体の34%、1歳以下の患者が67%、2歳以下の患者が84%を占めていた。

図 8-1 RS ウイルス感染症の週別定点あたり患者数

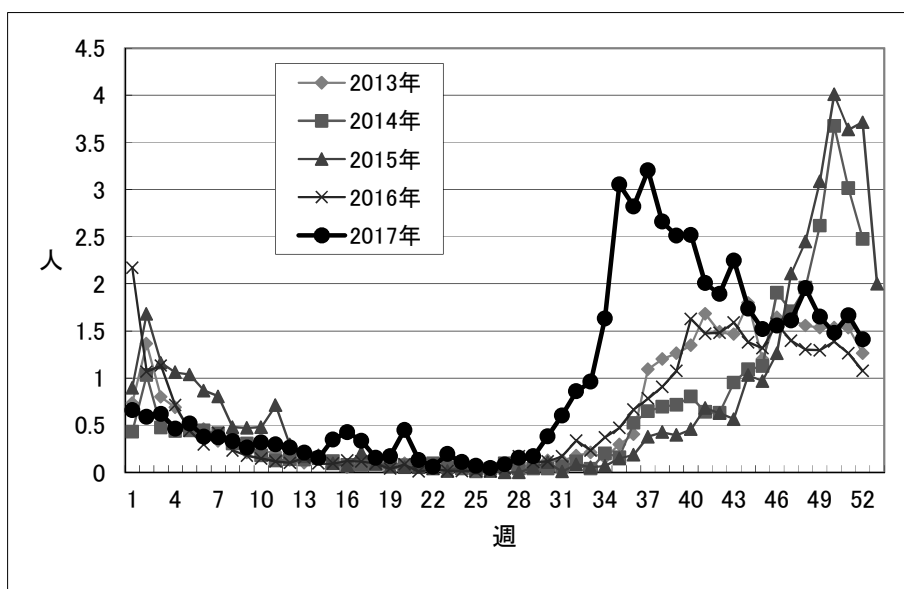
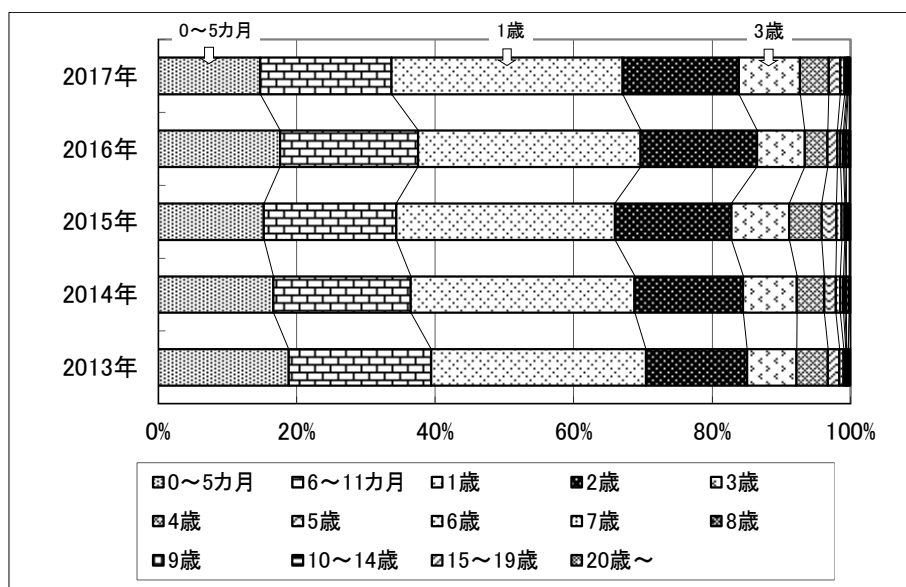


図 8-2 RS ウイルス感染症患者の年齢階級別割合



(7) 咽頭結膜熱

年間患者数は3,737人（定点あたり29.00人）で、2016年の3,023人（23.42人）より増加した。

週別定点あたり患者数は16週（4月中旬）から増加し始め、22週（6月上旬）に過去10年間で最大のピーク（1.40人）を示し、31週（8月上旬）頃まで患者数の多い状態が続いた。

患者の年齢階級別割合は1歳26%、2歳16%、3歳15%、4歳12%、5歳9%の順で多く、0～5歳の患者が全体の85%、0～9歳の患者が全体の97%を占めていた。

図9-1 咽頭結膜熱の週別定点あたり患者数

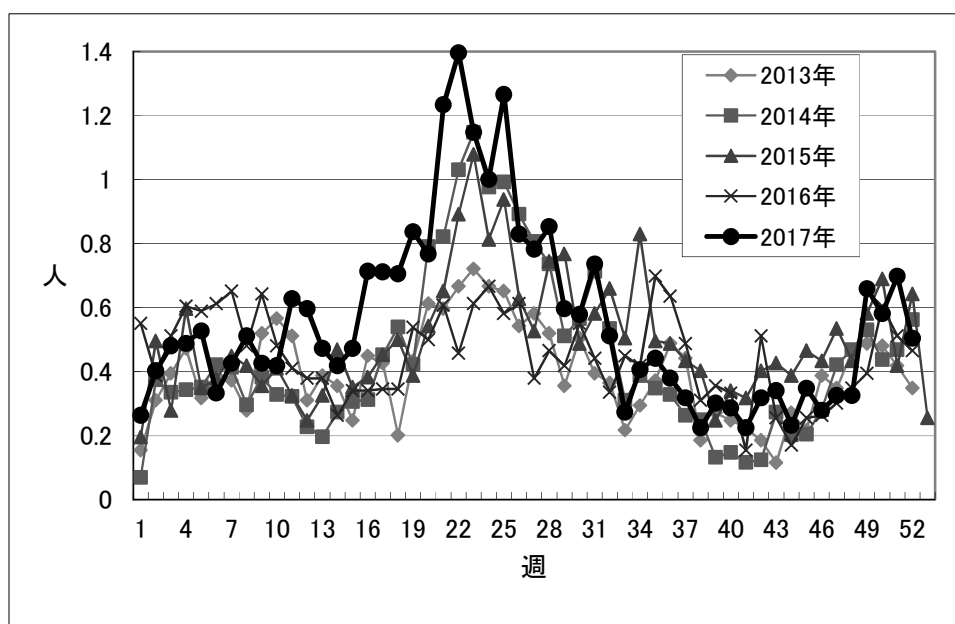
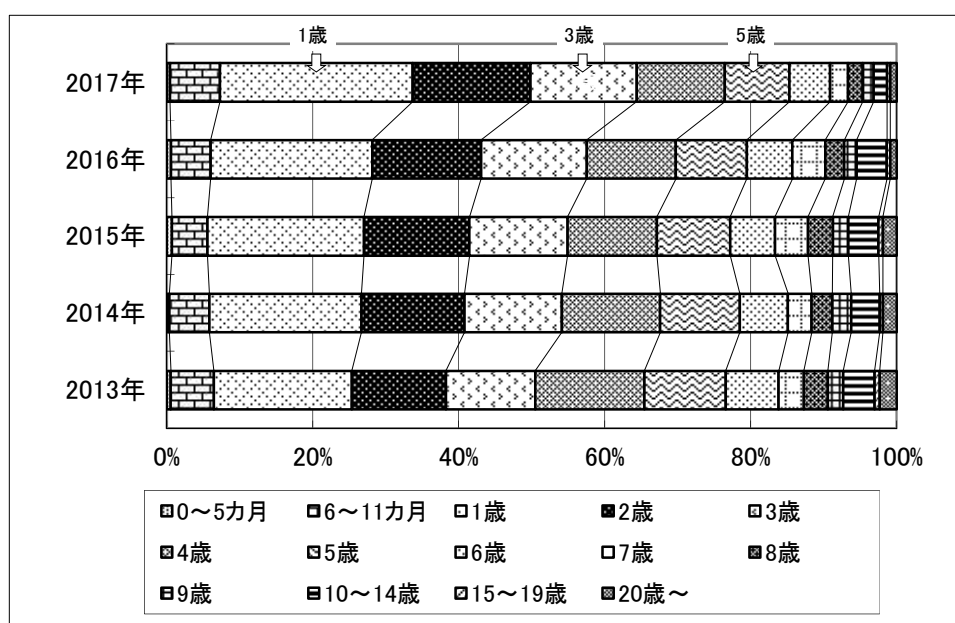


図9-2 咽頭結膜熱患者の年齢階級別割合



(8) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間患者数は9,588人(定点あたり74.40人)で、2016年の9,984人(77.33人)より減少した。

週別定点あたり患者数は7週(2月中旬)から増加し始め、24週(6月中旬)にピーク(2.77人)を示した後、29週(7月中旬)以降は、比較的患者数が少ない状態が続いたが、45週(11月中旬)以降に再び増加した。

患者の年齢階級別割合は5歳14%、4歳14%、6歳12%、7歳10%、3歳10%の順で多く、1～9歳の患者が全体の84%、1～14歳の患者が全体の94%を占めていた。

図10-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別定点あたり患者数

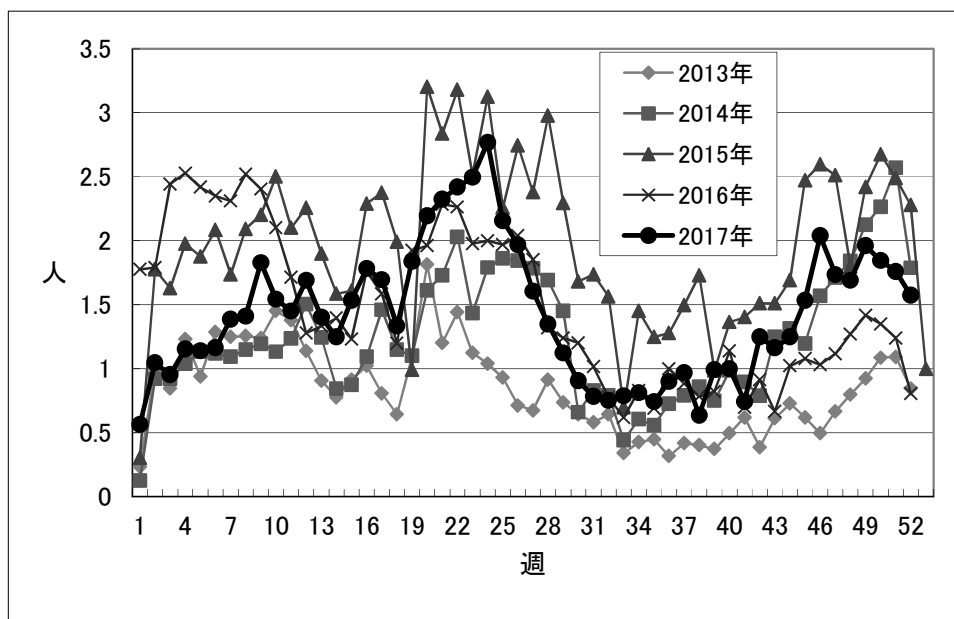
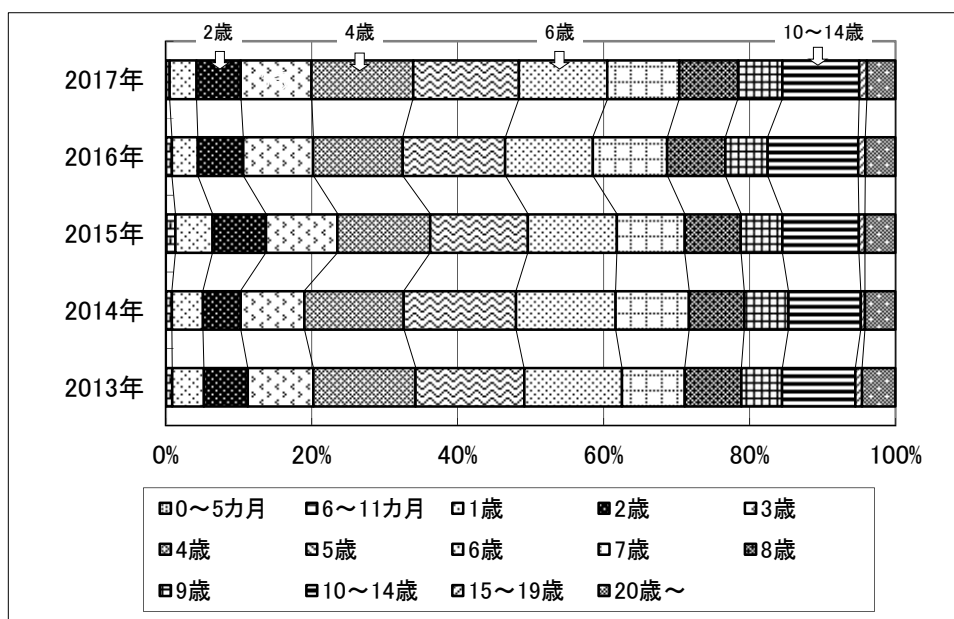


図10-2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の年齢階級別割合



### (9) 感染性胃腸炎

年間患者数は41,139人（定点あたり319.22人）で、2016年の53,815人（416.92人）より減少した。

週別定点あたり患者数は、大型連休明けの19週（5月中旬）から25週（6月下旬）に8.4～9.6人とやや多くなったが、その後、秋期に向けて減少し、年末にも大きな増加は見られなかった。

患者の年齢階級別割合は1歳15%、2歳12%、4歳10%、3歳10%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の62%、0～9歳の患者が全体の81%を占めていた。

図 11-1 感染性胃腸炎の週別定点あたり患者数

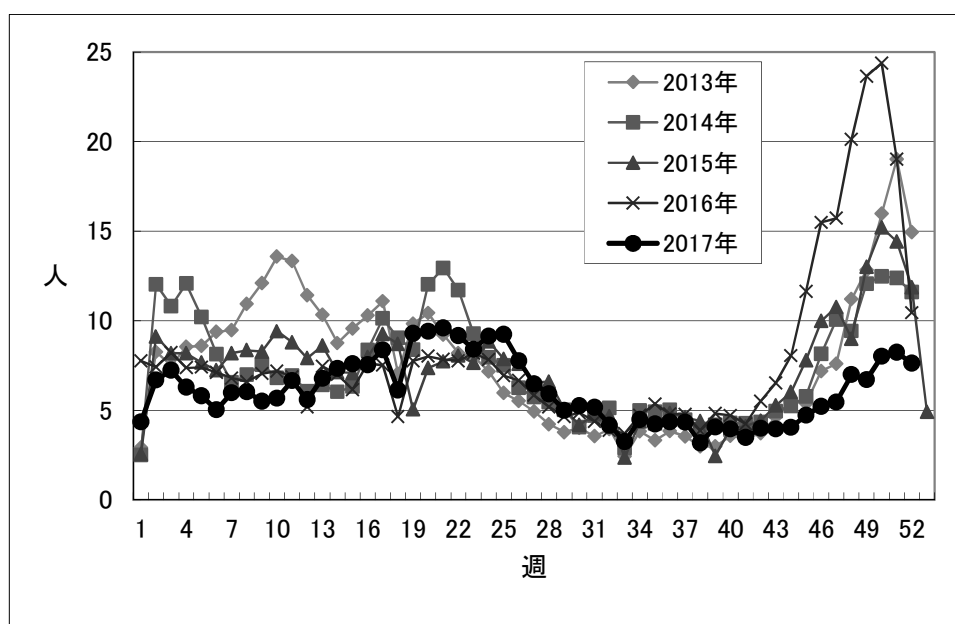
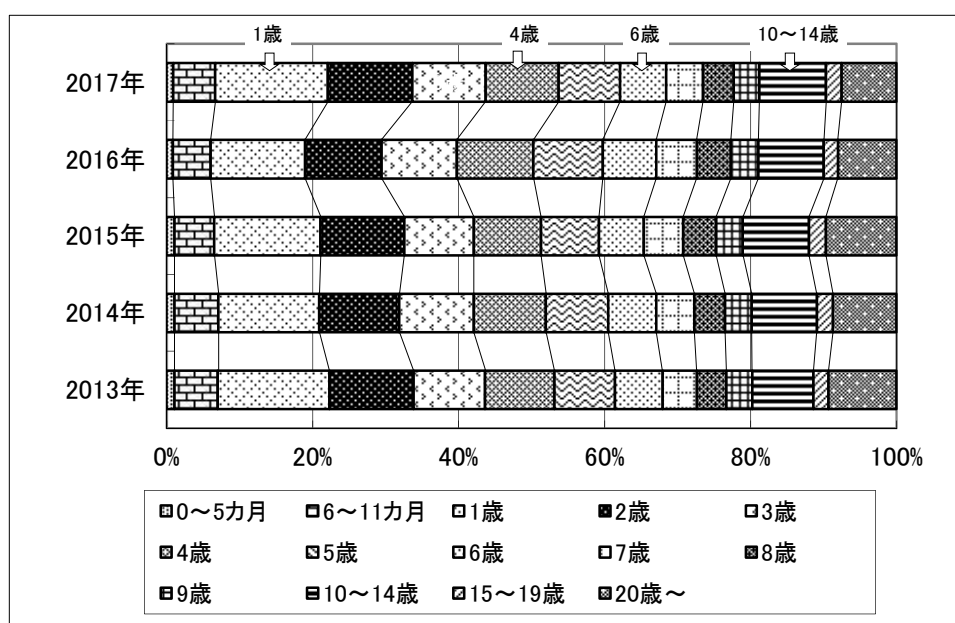


図 11-2 感染性胃腸炎患者の年齢階級別割合





(10) 水痘

年間患者数は2,255人（定点あたり17.49人）で、2016年の2,903人（22.49人）より減少した。

2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、これに先立って、2014年9月19日から24時間以上の入院を要した水痘症例が全数届出対象となった。

2015年以降の小児科定点からの週別定点あたり患者数は、ワクチン接種の効果によるものか、以前よりも少なく、小さい変動で推移している。

患者の年齢階級別割合は6歳14%、5歳14%、4歳10%、7歳10%、8歳9%の順で多く、0～8歳の患者が全体の84%を占めていた。2～4歳の患者割合が減少傾向にある。

図 12-1 水痘の週別定点あたり患者数

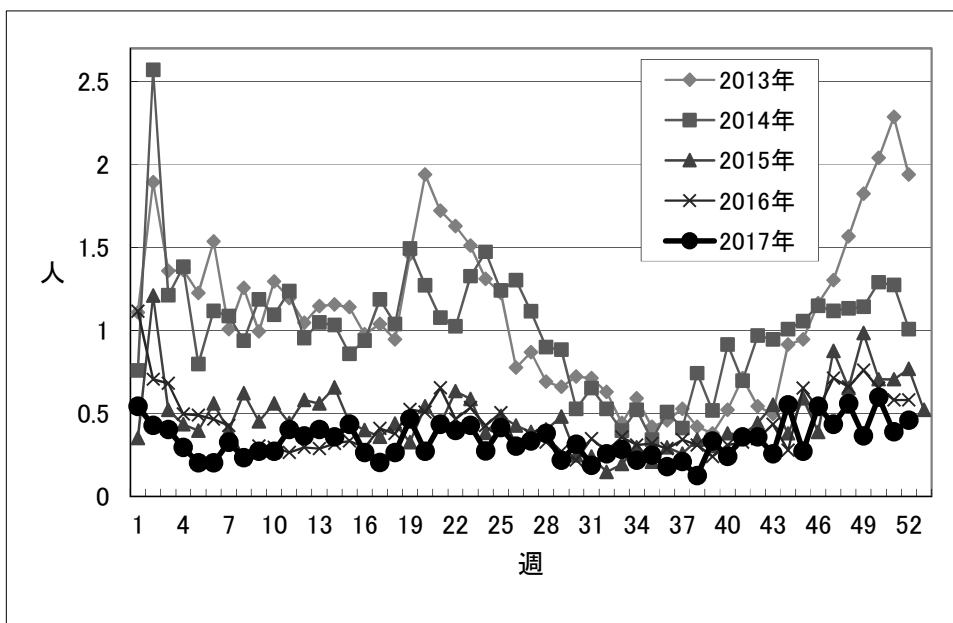
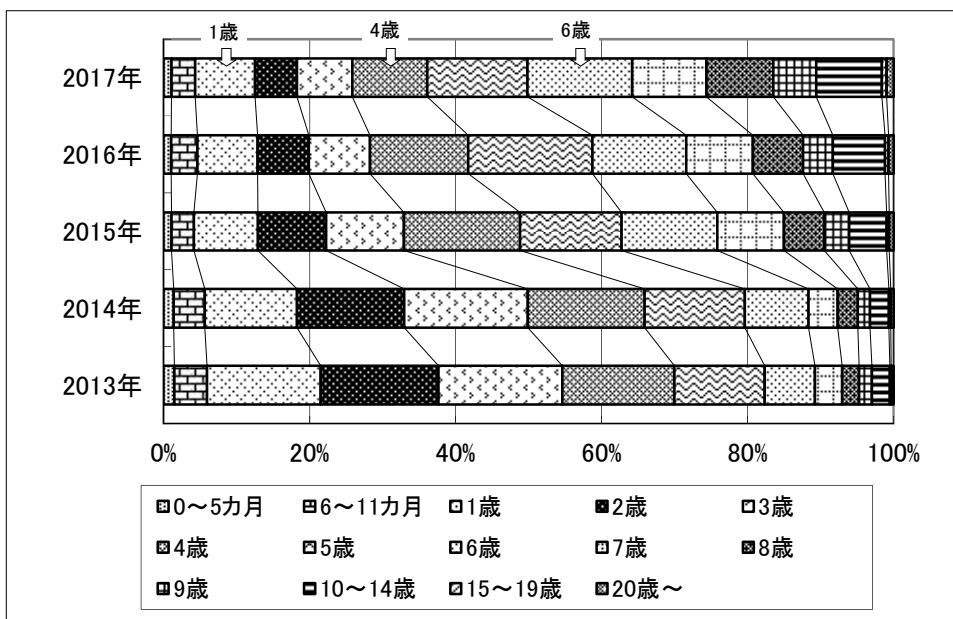


図 12-2 水痘患者の年齢階級別割合



(11) 手足口病

年間患者数は15,180人（定点あたり117.88人）で、2016年の患者数1,475人（11.43人）より大幅に増加した。年間患者数は2015年の18,344人を下回ったが、週別定点あたり患者数は、ピークとなった28週（7月中旬）に17.47人と過去5年間で最大の値を示した。

患者の年齢階級別割合は1歳31%、2歳20%、3歳13%、4歳10%、0歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の91%を占めていた。

当研究所で行った検査では、主にコクサッキーウイルスA6型（CA6）が検出された。

図 13-1 手足口病の週別定点あたり患者数

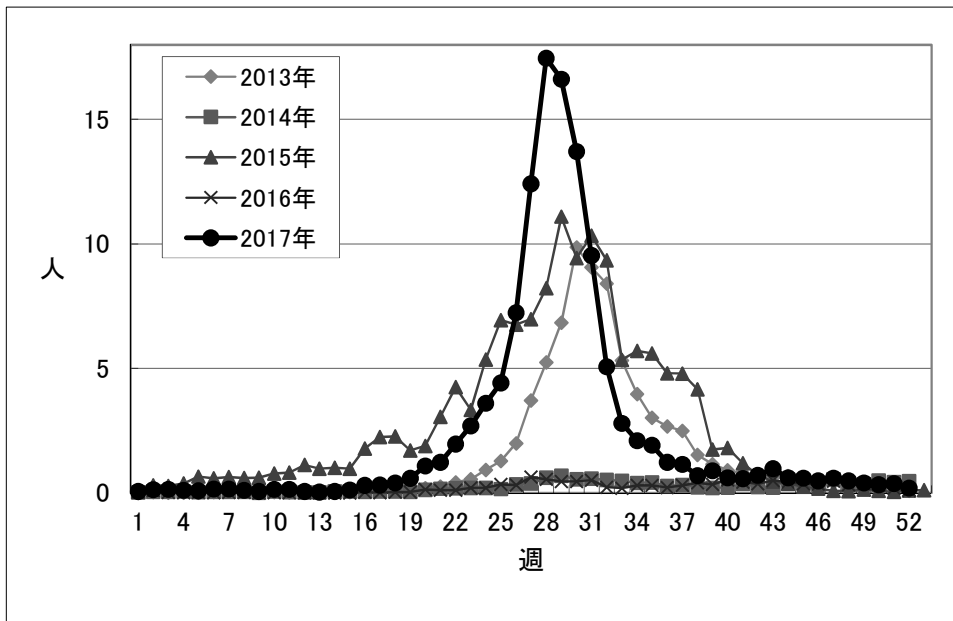
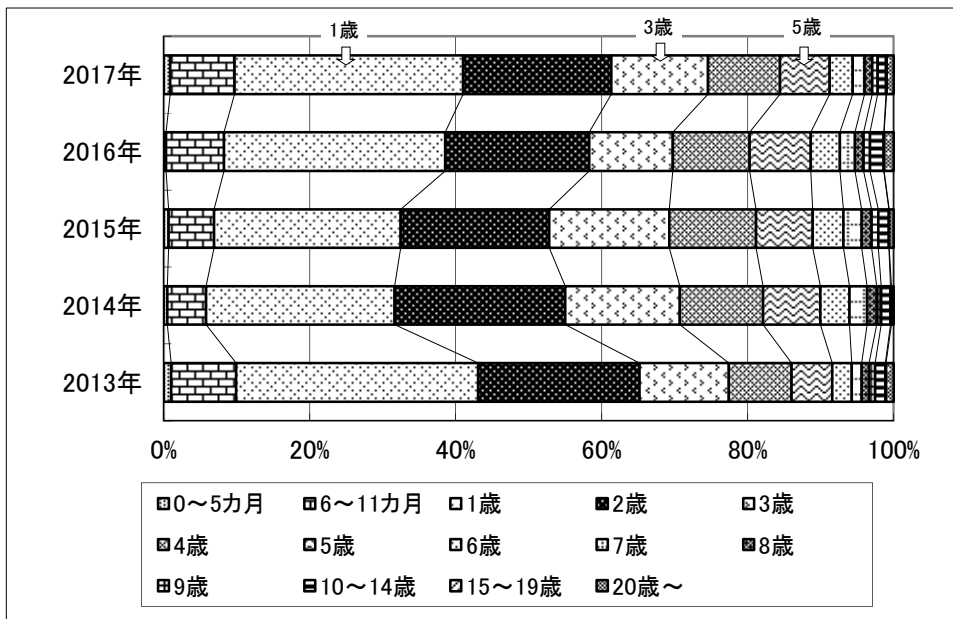


図 13-2 手足口病患者の年齢階級別割合



(12) 伝染性紅斑

年間患者数は556人(定点あたり4.32人)で、2016年の1,723人(13.35人)より減少した。週別定点あたり患者数は、22週(6月上旬)の0.25人をピークに、大きな流行はなく推移した。患者の年齢階級別割合は4歳14%、5歳13%、7歳12%、6歳11%、3歳10%の順で多く、0～9歳の患者が全体の89%を占めていた。

図 14-1 伝染性紅斑の週別定点あたり患者数

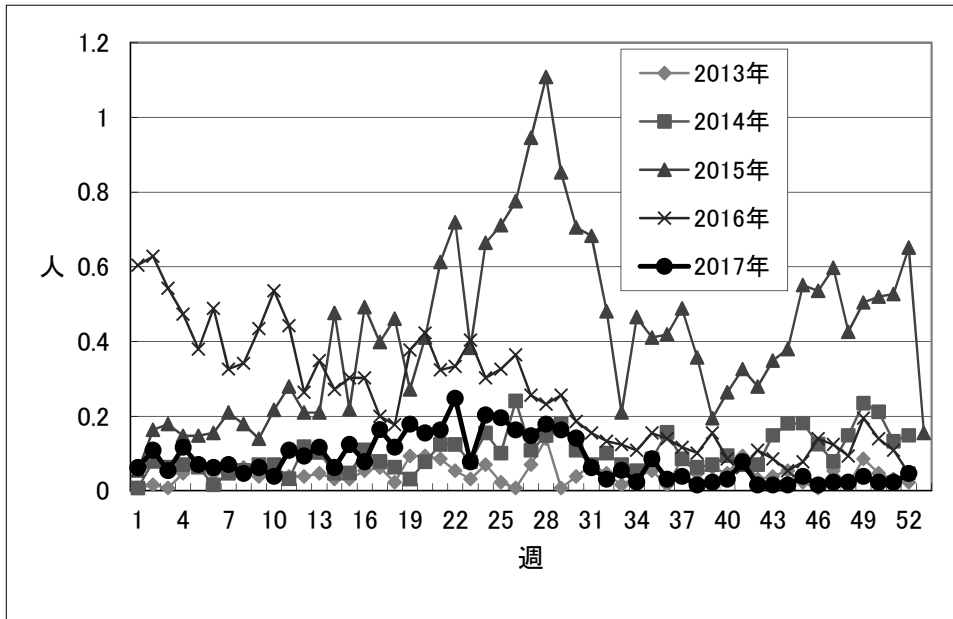
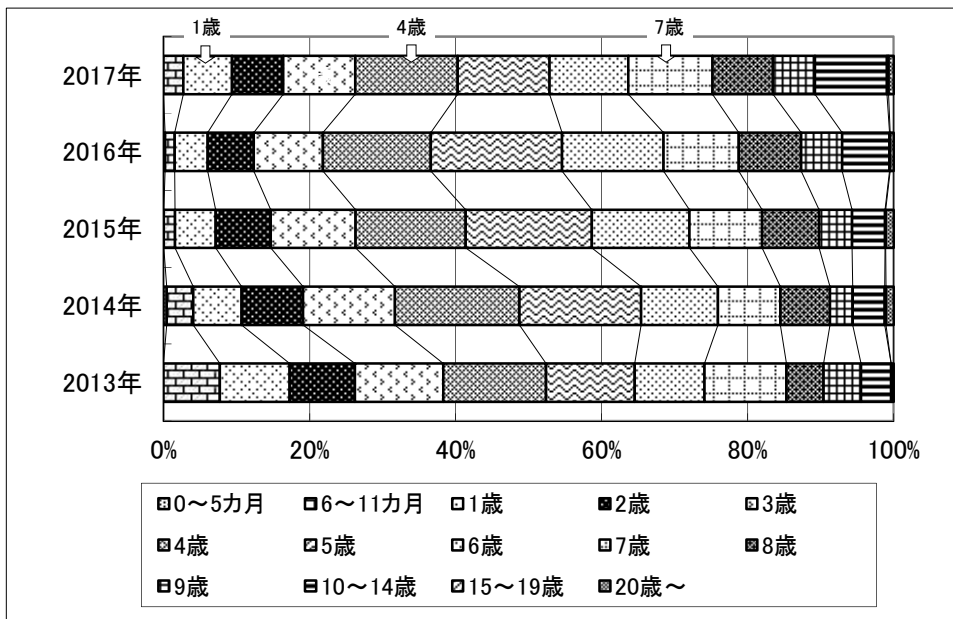


図 14-2 伝染性紅斑患者の年齢階級別割合



(13) 突発性発しん

年間患者数は2,542人（定点あたり19.73人）で、2016年の2,680人（20.76人）よりわずかに減少した。年間患者数の経年的推移に多少のバラツキはみられるが、2000年以降緩やかな減少傾向を続けている。本疾病は1年を通じて患者が発生し、季節性が明瞭でない。週別定点あたり患者数は、0.19～0.56人の中で推移した。

患者の年齢階級別割合は、0歳が39%、1歳が50%、2歳が8%を占めていた。

図 15-1 突発性発しんの週別定点あたり患者数

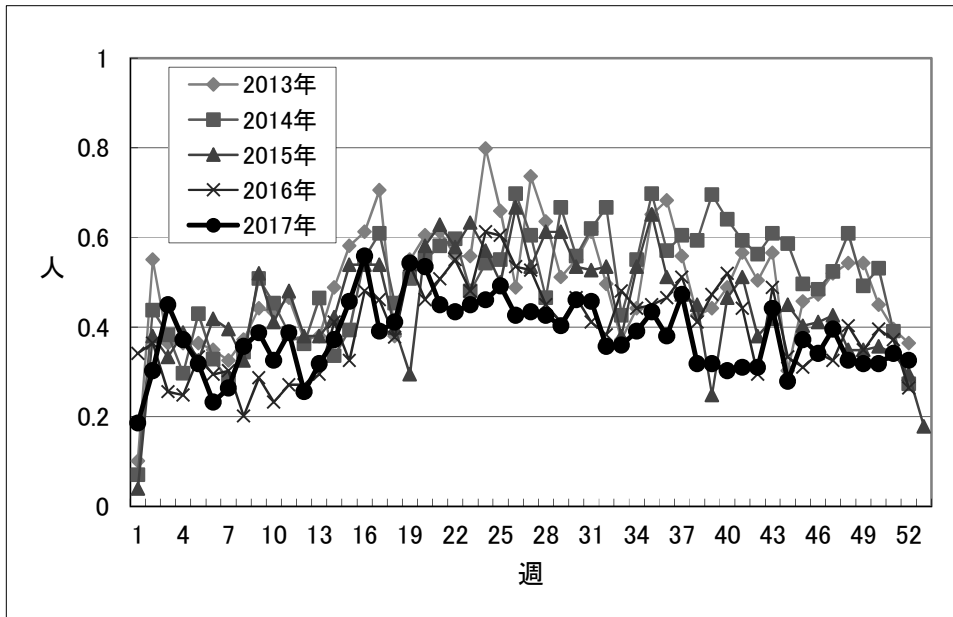
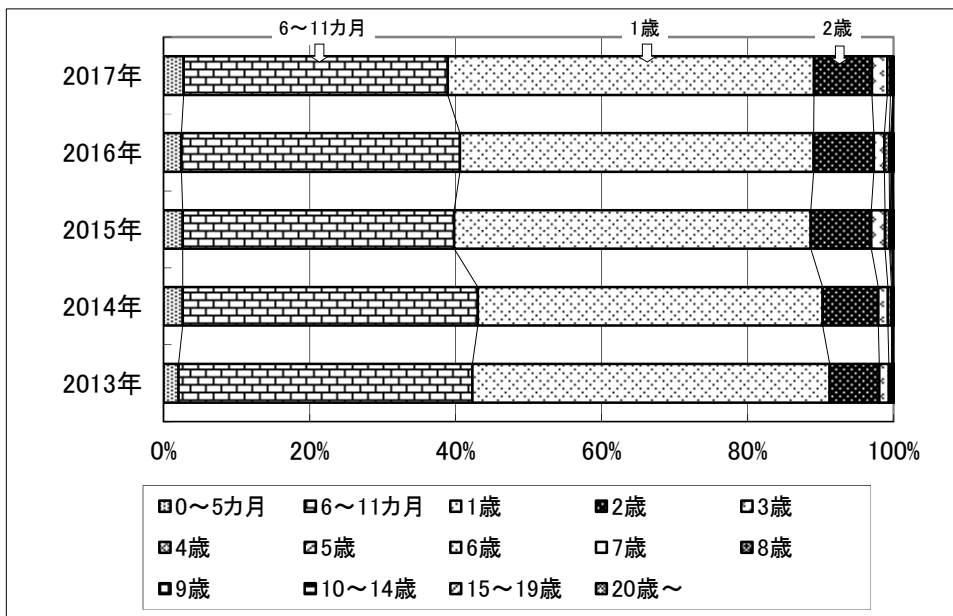


図 15-2 突発性発しん患者の年齢階級別割合



(14) 百日咳

本疾病は患者発生数が比較的少ない疾病である。2017年の年間患者数は45人(定点あたり0.35人)で、2016年の102人(0.79人)より減少した。

週別定点あたり患者数は、0.00~0.05人の間で推移した。

患者の年齢階級別割合は、0歳20%、1~4歳16%、5~9歳27%、10~14歳20%、15歳以上18%となり、小児科定点からの報告にもかかわらず成人患者の割合が16%を占めていた。

図 16-1 百日咳の週別定点あたり患者数

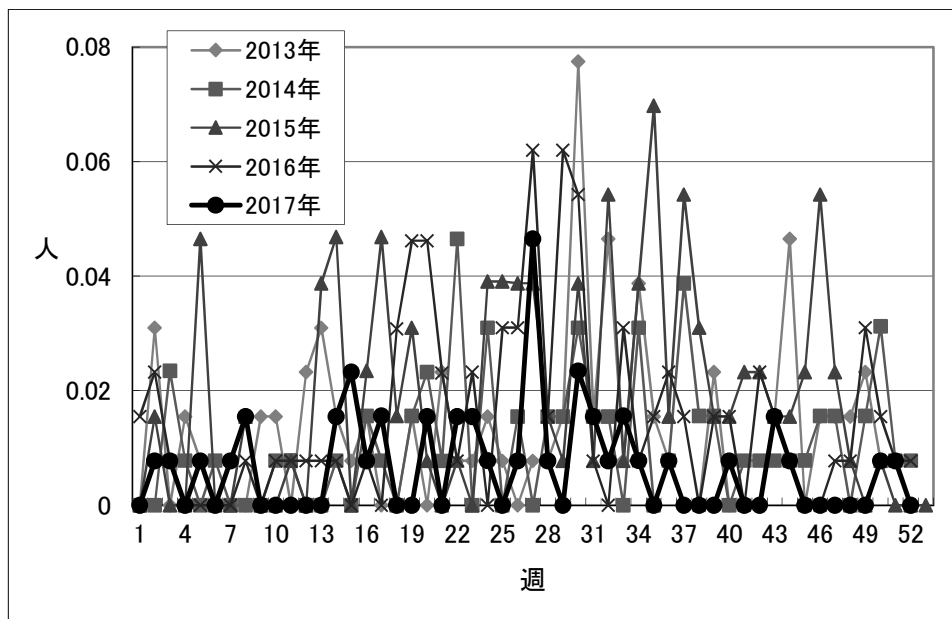
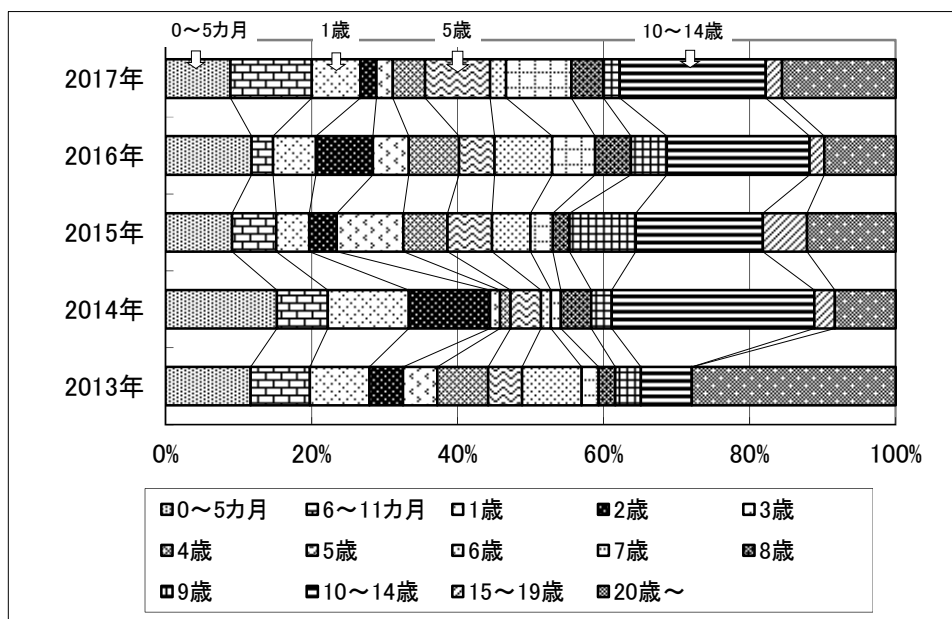


図 16-2 百日咳患者の年齢階級別割合



(15) ヘルパンギーナ

年間患者数は3,338人（定点あたり25.92人）で、2016年の4,276人（33.16人）より減少した。

週別定点あたり患者数は、21週（5月下旬）頃から増加が始まり、28週（7月中旬）にピーク（3.01人）を示した後減少に転じ、44週（11月上旬）頃に終息した。

患者の年齢階級別割合は1歳27%、2歳20%、3歳13%、4歳11%、0歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の88%を占めていた。

図 17-1 ヘルパンギーナの週別定点あたり患者数

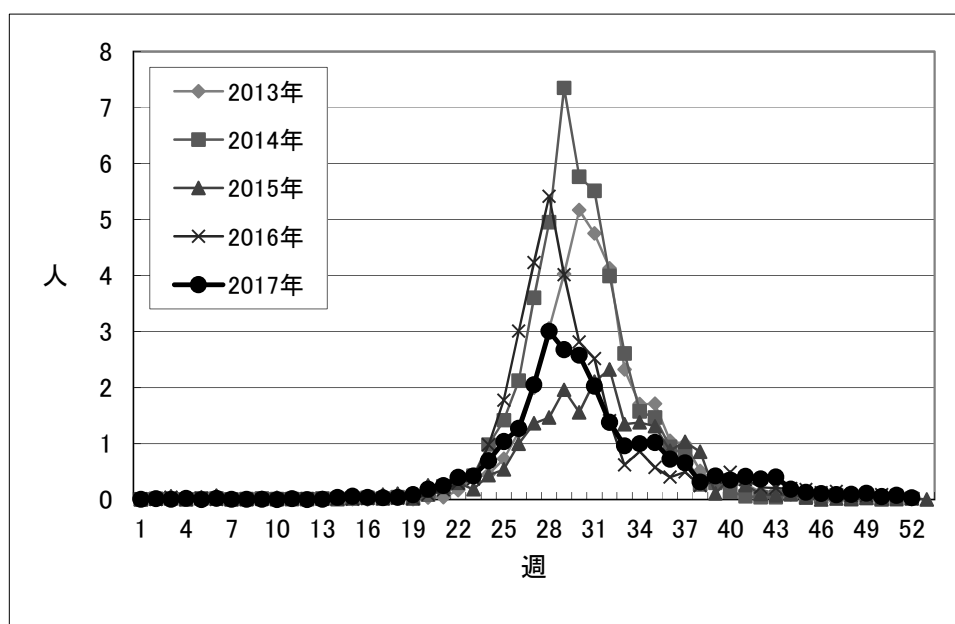
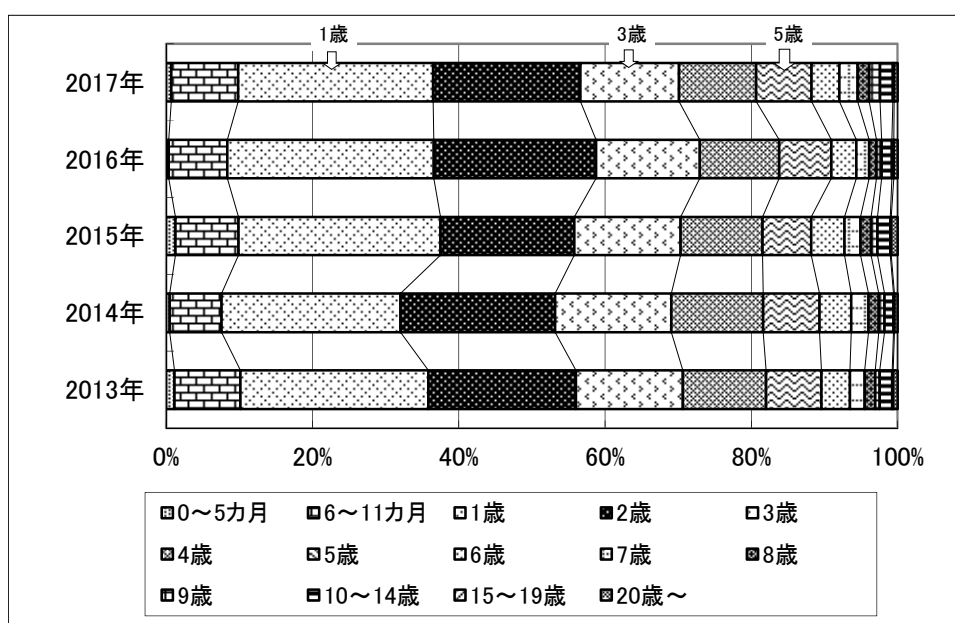


図 17-2 ヘルパンギーナ患者の年齢階級別割合



(16) 流行性耳下腺炎

年間患者数は3,395人（定点あたり26.34人）で、5年ぶりの流行となった2016年の7,799人（60.43人）より大きく減少した。

週別定点あたり患者数は、1週（1月上旬）の1.19人をピークに減少傾向を示し、32週（8月上旬）以降は0.40人未満で推移した。

患者の年齢階級別割合は5歳16%、4歳14%、6歳13%、7歳11%、8歳9%の順で多く、2～9歳の患者が全体の84%を占めていた。

図 18-1 流行性耳下腺炎の週別定点あたり患者数

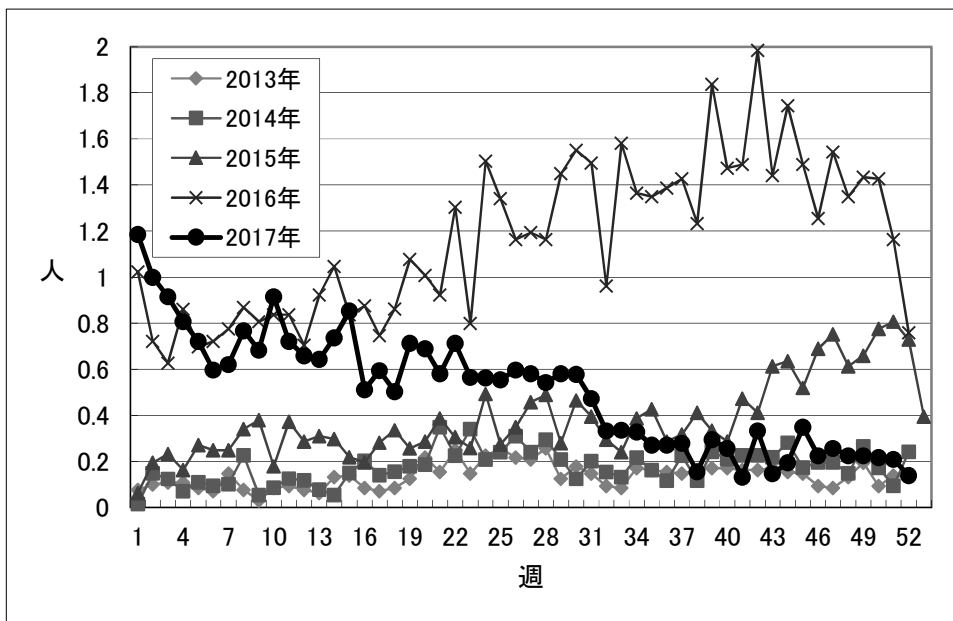
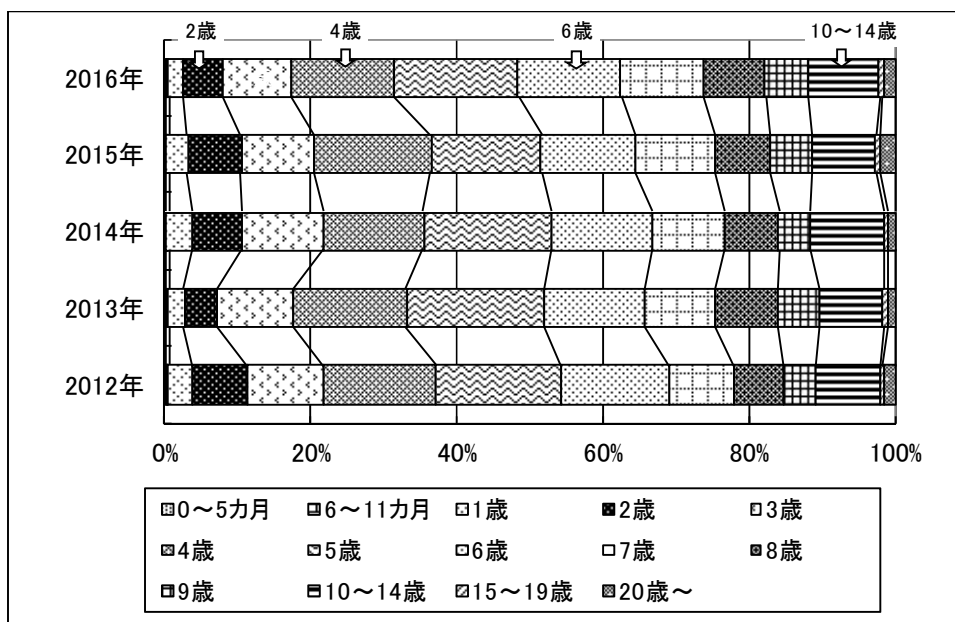


図 18-2 流行性耳下腺炎患者の年齢階級別割合



(17) 急性出血性結膜炎

本疾病は、2007年以降患者数の少ない状態で推移している。2017年の年間患者数は17人（定点あたり0.49人）で、2016年の15人（0.43人）よりわずかに増加した。

患者の年齢階級別割合は30歳代が29%と最も多くなり、20歳以上の患者が全体の71%を占めていた。

図 19-1 急性出血性結膜炎の週別定点あたり患者数

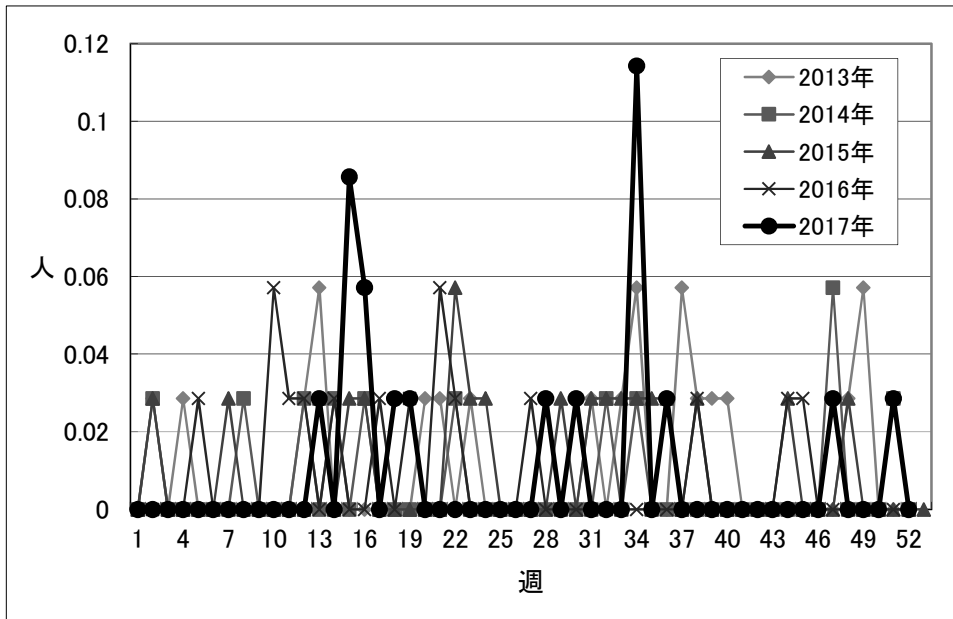
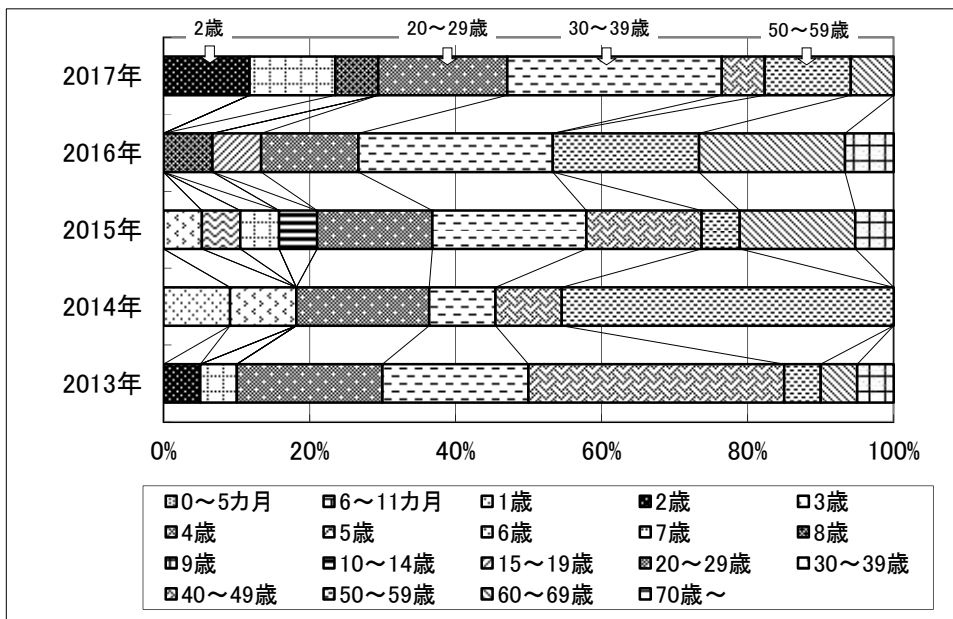


図 19-2 急性出血性結膜炎患者の年齢階級別割合





(18) 流行性角結膜炎

年間患者数は858人（定点あたり24.51人）で、2016年の706人（20.20人）より増加した。週別定点あたり患者数は、27週（7月上旬）にピーク（1.74人）を示したが、速やかに減少し、1～26週と29～52週は0.11～0.83人の中で推移した。

患者の年齢階級別割合は0～9歳25%、30歳代22%がやや多いが、各年齢層で患者が発生していた。

図 20-1 流行性角結膜炎の週別定点あたり患者数

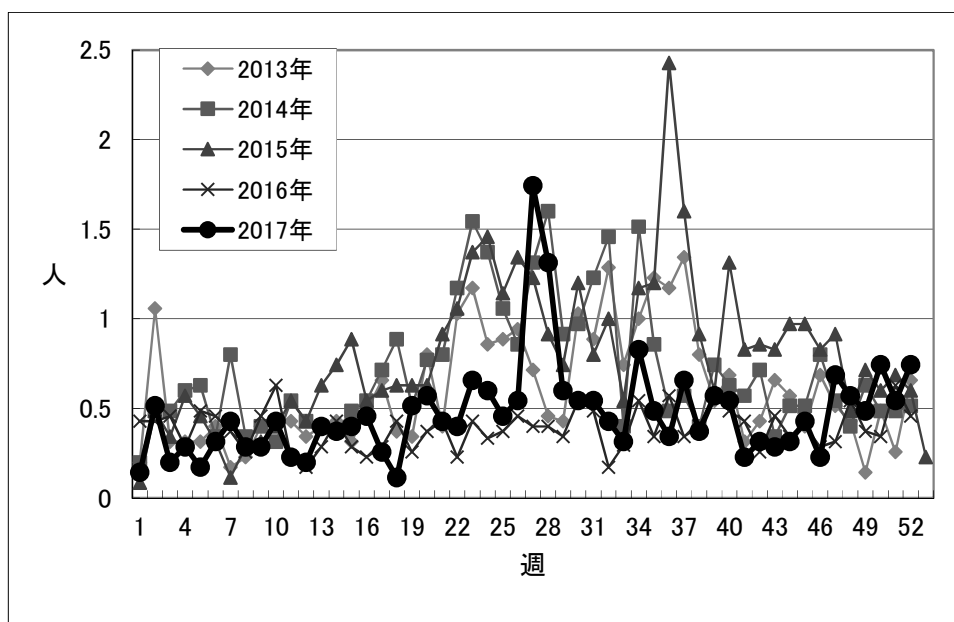
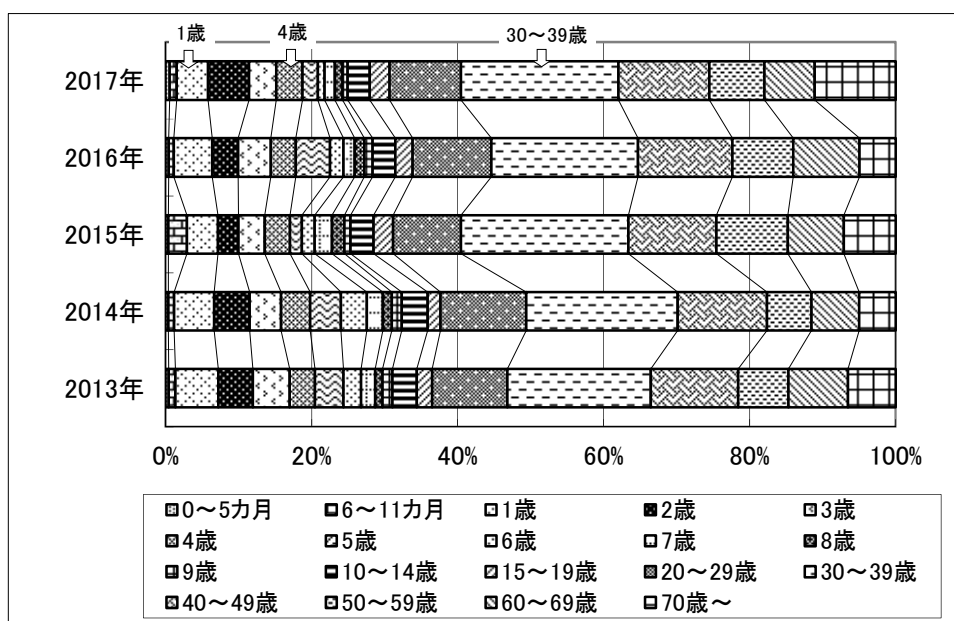


図 20-2 流行性角結膜炎患者の年齢階級別割合



(19) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）  
 年間患者数は32人（定点あたり2.34人）で、2016年の33人（2.36人）と同レベルであった。  
 患者の年齢分布は70歳以上が10人（31%）、60～64歳と65～69歳が各5人（16%）の順で  
 多くなっていた。

図 21-1 細菌性髄膜炎の週別定点あたり患者数

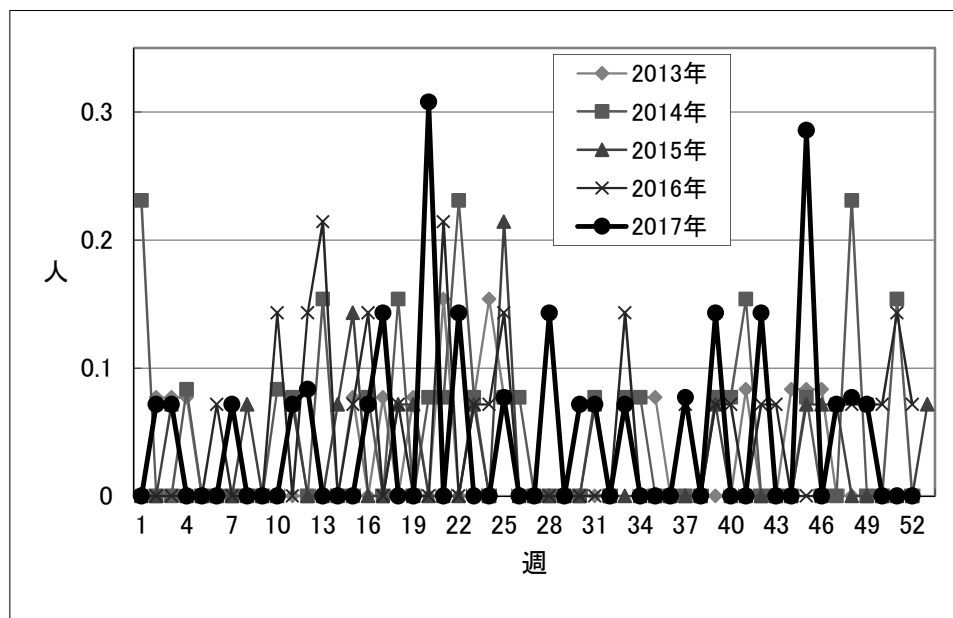
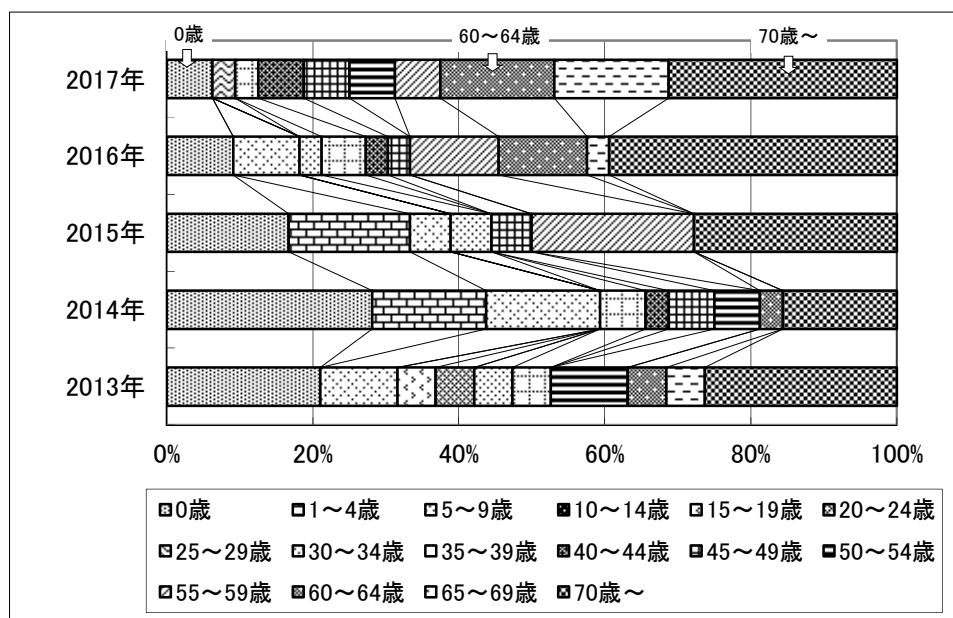


図 21-2 細菌性髄膜炎患者の年齢階級別割合



(20) 無菌性髄膜炎

年間患者数は2004年以降20～61人の範囲で増減を繰り返しており、2017年は50人（定点あたり3.62人）で、2016年の50人（3.57人）と同レベルであった。

患者の年齢分布は70歳以上が9人（18%）、25～29歳7人（14%）、1～4歳6人（12%）、5～9歳5人（10%）の順で多くなっていた。

図 22-1 無菌性髄膜炎の週別定点あたり患者数

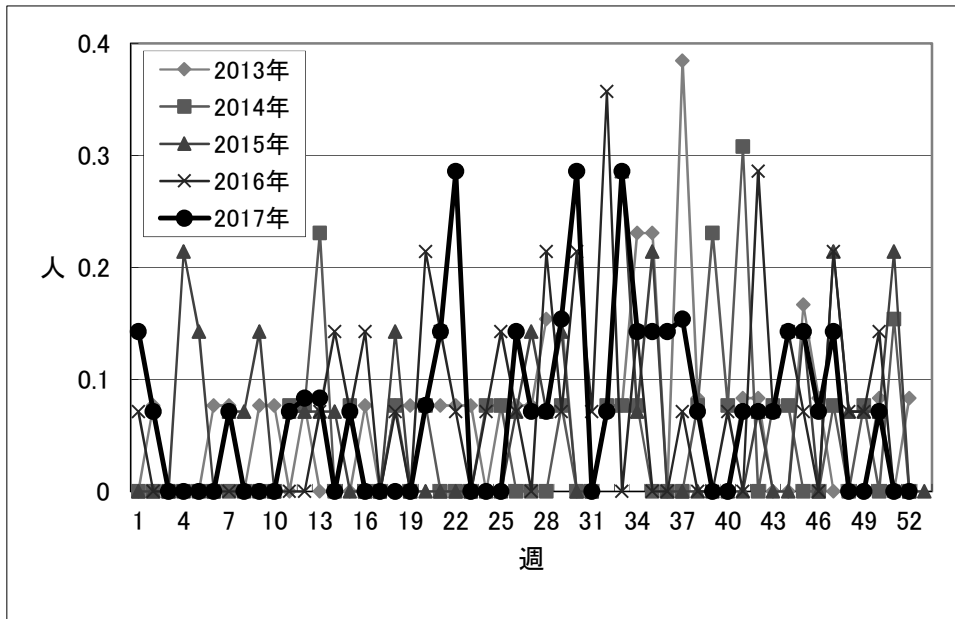
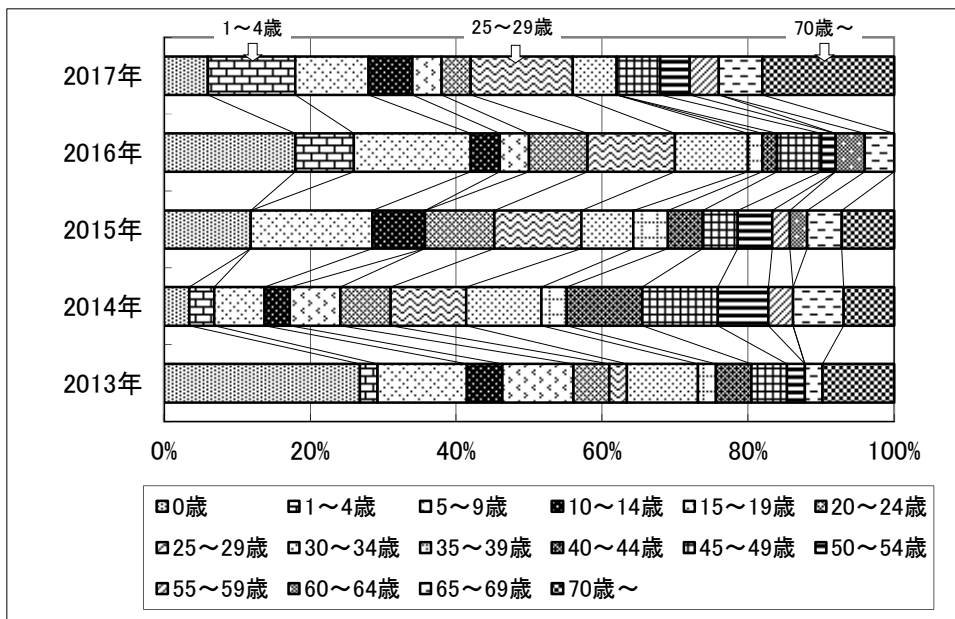


図 22-2 無菌性髄膜炎患者の年齢階級別割合



(21) マイコプラズマ肺炎

年間患者数は170人（定点あたり12.34人）で、2016年の508人（36.29人）より減少し、2015年と同レベルとなった。

週別定点あたり患者数は、6週（2月上旬）にピーク（0.93人）を示した後、減少に転じ、10週（3月上旬）以降は0.00～0.43人で推移した。

患者の年齢階級別割合は5～9歳27%、1～4歳24%、10～14歳17%の順で多く、15歳未満の患者が全体の69%を占めていた。

図 23-1 マイコプラズマ肺炎の週別定点あたり患者数

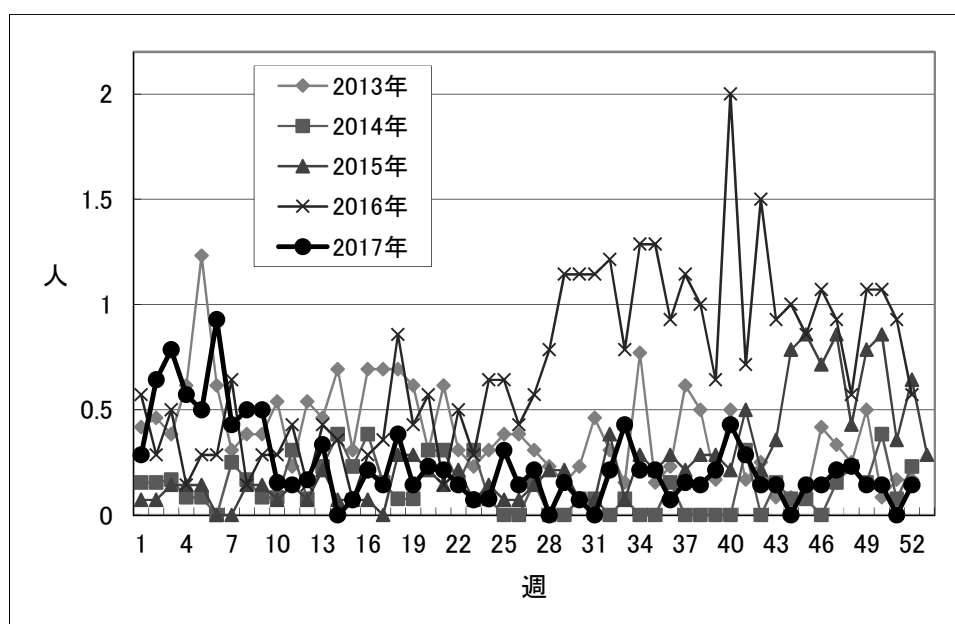
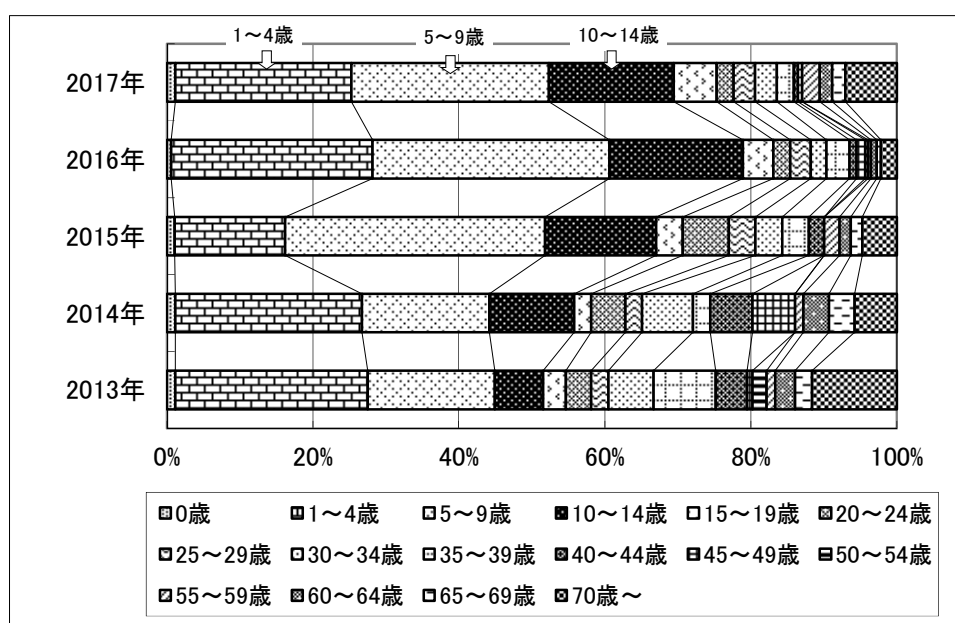


図 23-2 マイコプラズマ肺炎患者の年齢階級別割合



(22) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

年間患者数は2013年には8人、2014年は発生がなく、2015年、2016年は各1人と少ない状況が続いていたが、2017年は11人（定点あたり0.79人）に増加した。

患者の年齢分布は70歳以上が9人、60～64歳と65～69歳が各1人となっていた。

図 24-1 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の週別定点あたり患者数

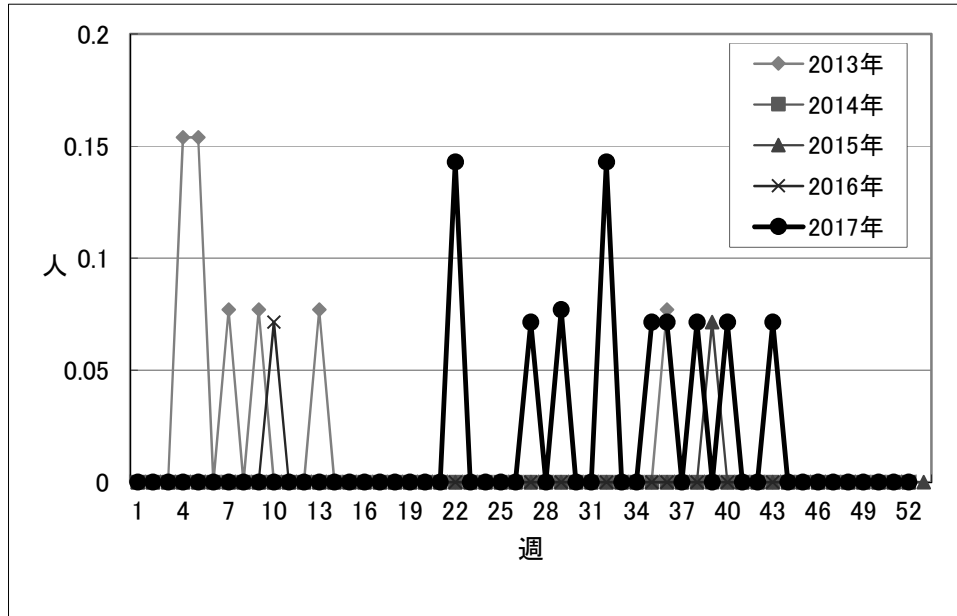
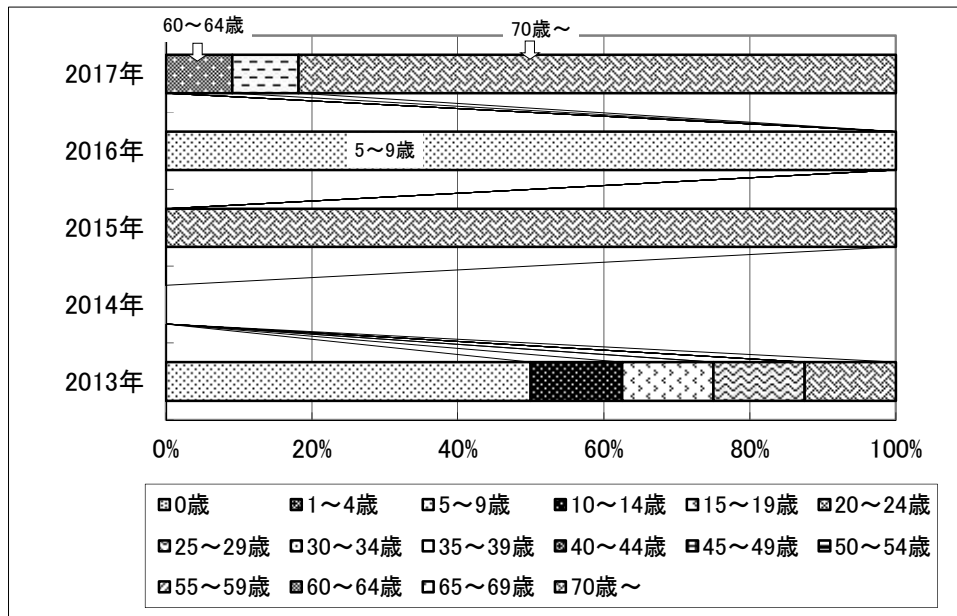


図 24-2 クラミジア肺炎（オウム病を除く）患者の年齢階級別割合



(23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

本疾病は2013年10月24日より基幹定点対象疾病に追加された。2017年の年間患者数は164人（定点あたり12.09人）で、2016年の200人（14.29人）より減少した。

週別定点あたり患者数は15週（4月中旬）に過去最大のピーク（2.14人）を示し、13週（3月下旬）から22週（6月上旬）まで、患者数の多い状態で推移した。

患者の年齢階級別割合は1～4歳72%、5～9歳15%、0歳13%の順で多く、10歳以上の患者の報告はなかった。

図 25-1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の週別定点あたり患者数

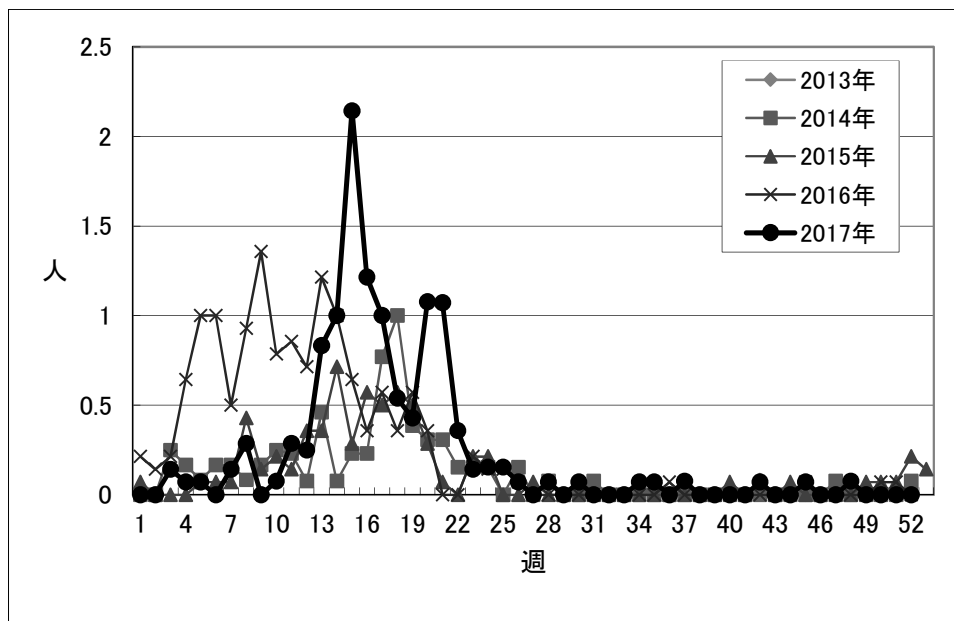
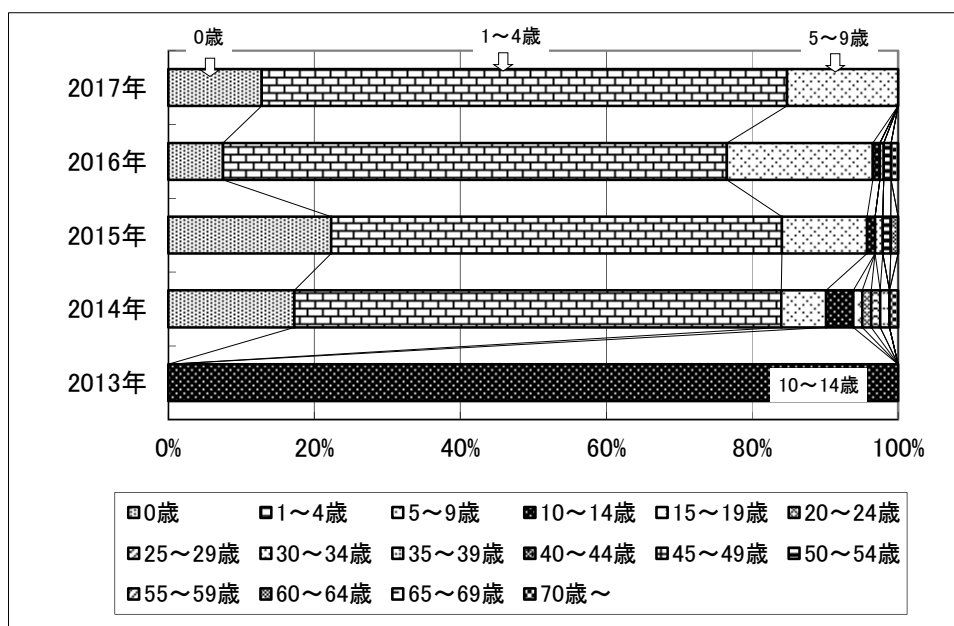


図 25-2 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）患者の年齢階級別割合



(24) 性器クラミジア感染症

年間患者数は1,025人(定点あたり22.28人)で、2016年の862人(18.74人)より増加した。患者の性別割合は、男性56%、女性44%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は20~24歳24%、25~29歳16%、30~34歳14%、35~39歳13%の順で多く、20~44歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は20~24歳36%、25~29歳21%、30~34歳16%、15~19歳13%の順で多く、15~34歳の患者が女性患者の86%を占めていた。

図 26-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者数

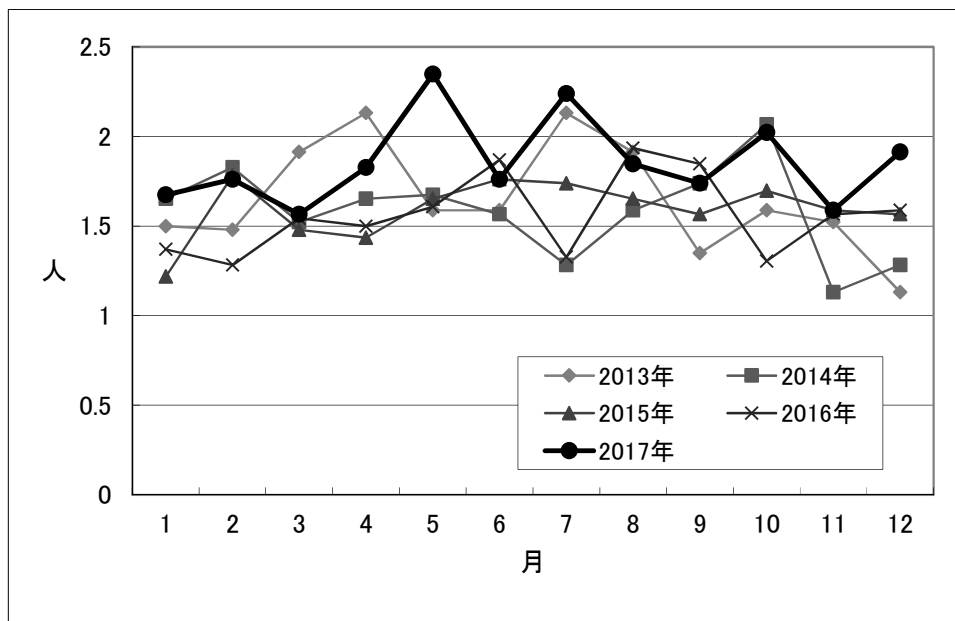


図 26-2 性器クラミジア感染症患者の性別割合

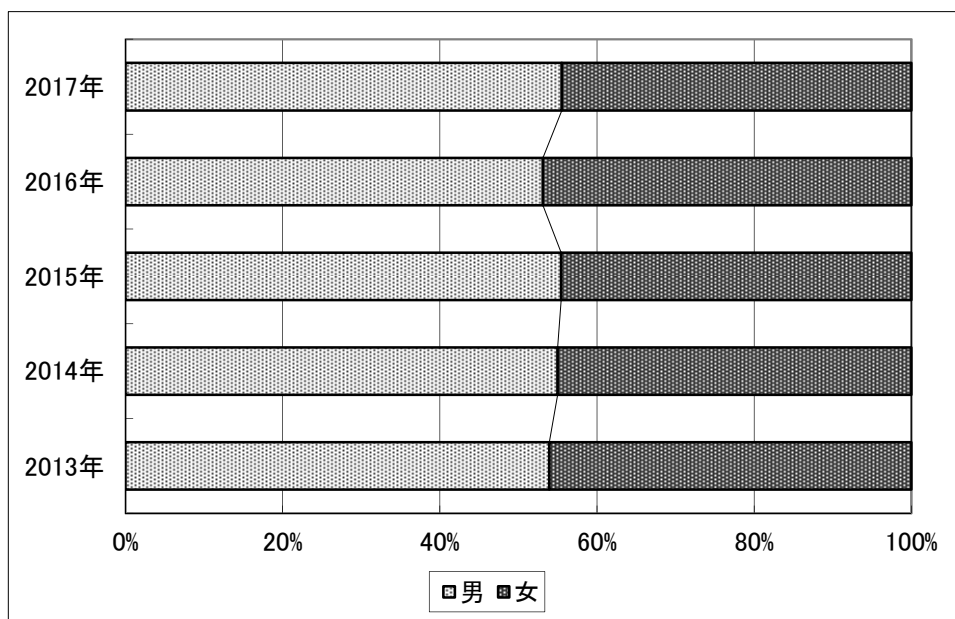


図 26-3 性器クラミジア感染症患者の年齢階級別割合（男性）

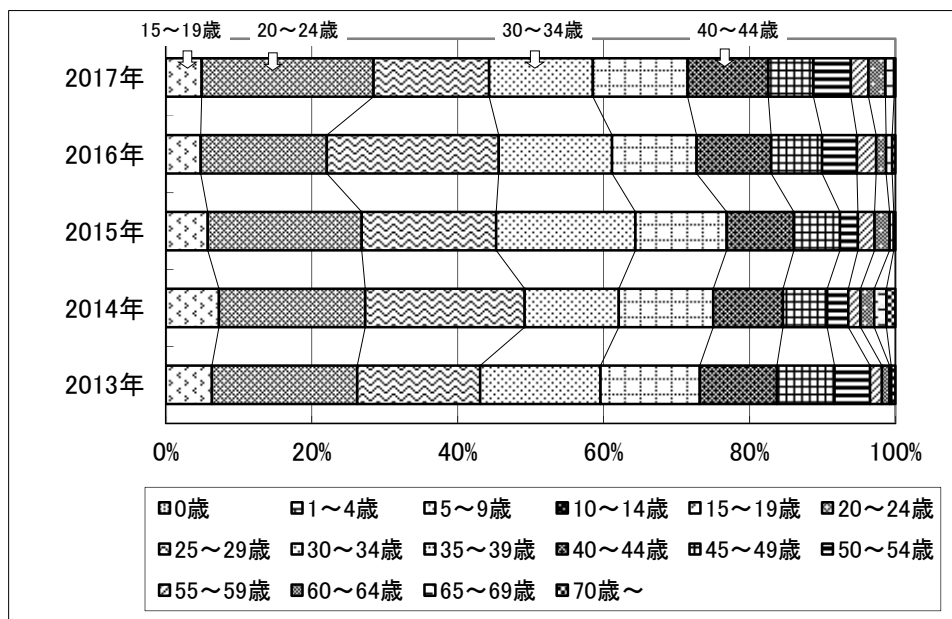
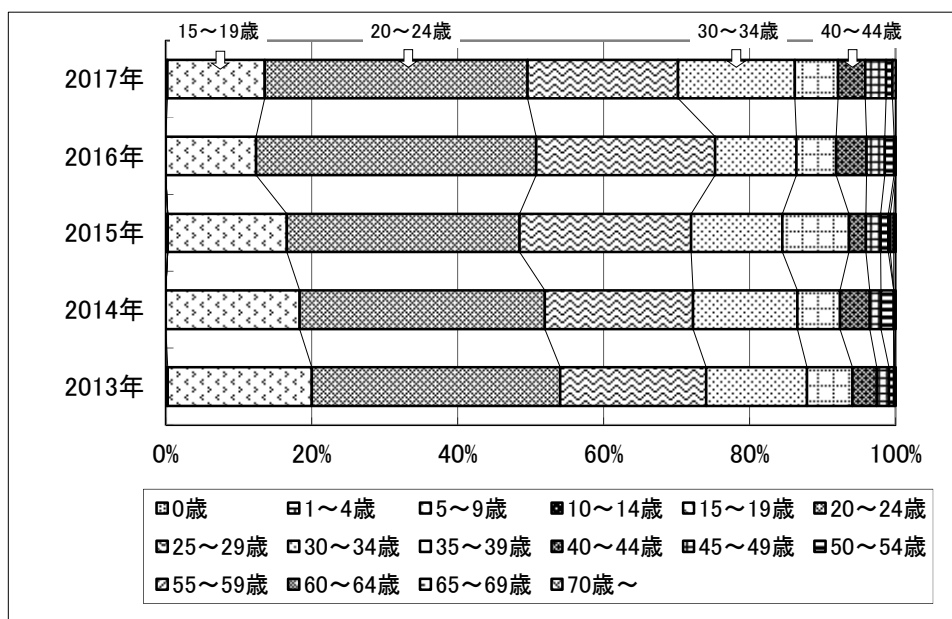


図 26-4 性器クラミジア感染症患者の年齢階級別割合（女性）





(25) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は304人（定点あたり6.61人）で、2016年の310人（6.74人）よりわずかに減少した。患者の性別割合は、男性33%、女性67%と女性の割合が大きくなった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は35～39歳19%、45～49歳16%、25～29歳16%、20～24歳13%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の84%を占めていた。女性は35～39歳15%、25～29歳14%、20～24歳13%、30～34歳11%の順で多く、20～49歳の患者が女性患者の71%を占めていた。

図 27-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者数

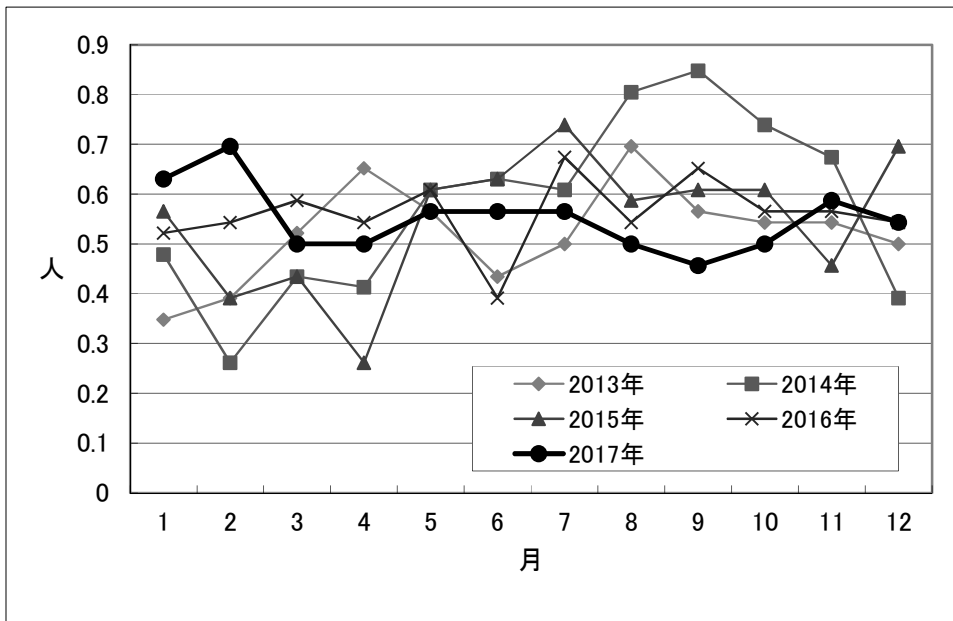


図 27-2 性器ヘルペスウイルス感染症患者の性別割合

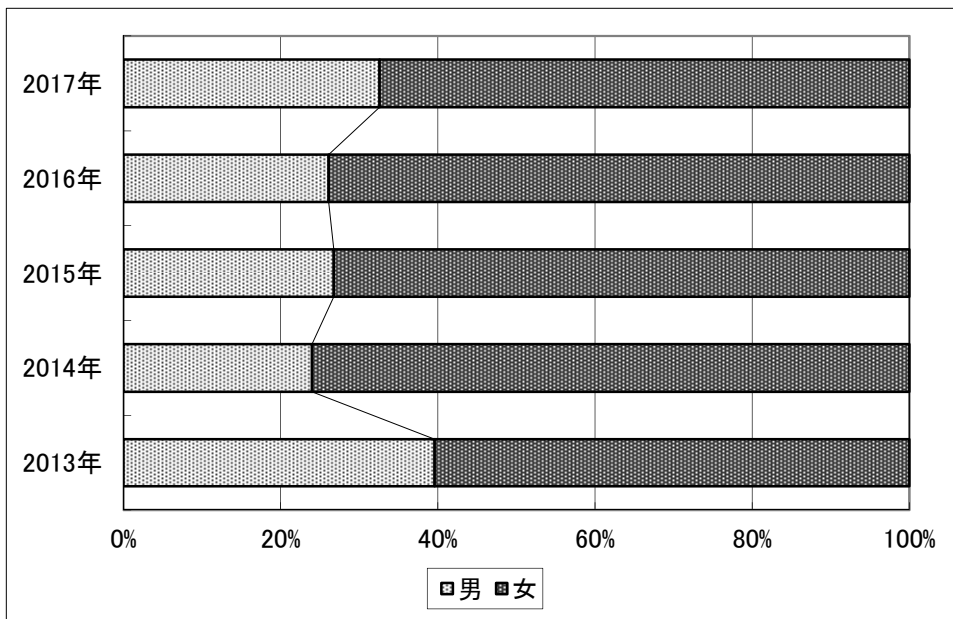


図 27-3 性器ヘルペスウイルス感染症患者の年齢階級別割合（男性）

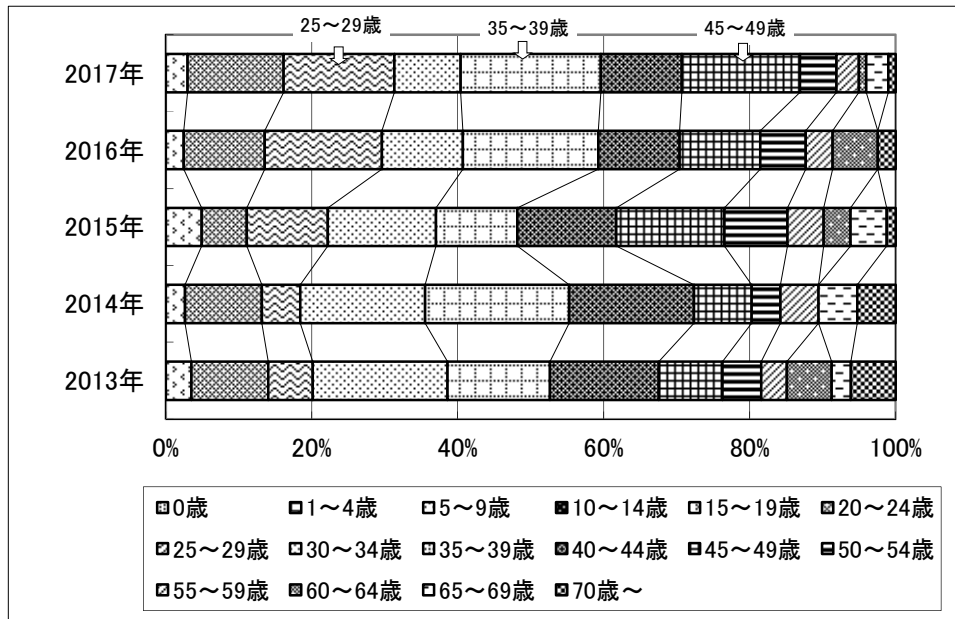
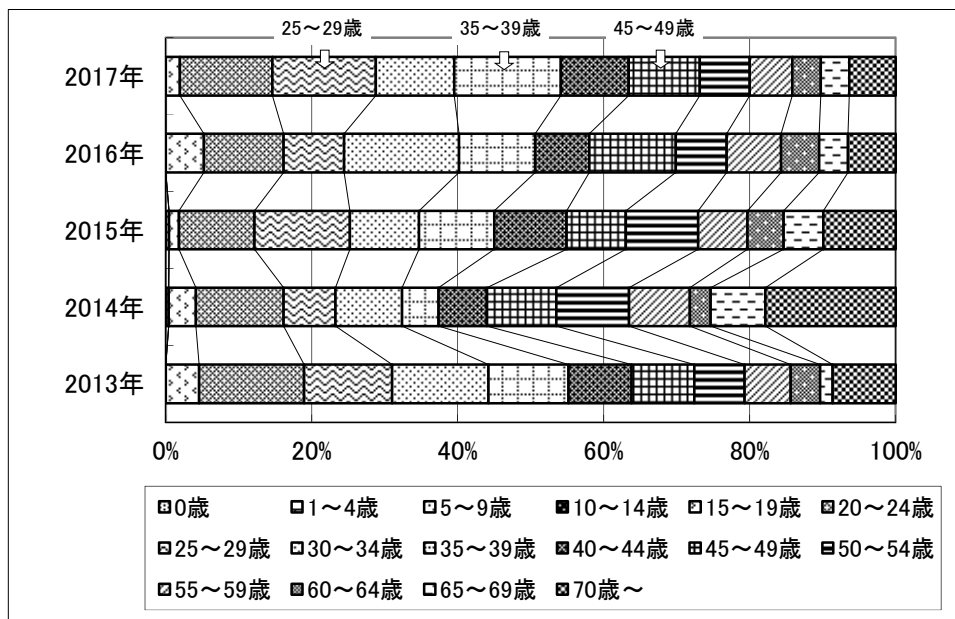


図 27-4 性器ヘルペスウイルス感染症患者の年齢階級別割合（女性）



(26) 尖圭コンジローマ

年間患者数は203人（定点あたり4.41人）で、2016年の171人（3.72人）より増加した。患者の性別割合は、男性64%、女性36%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は25～29歳18%、40～44歳17%、30～34歳14%、45～49歳13%の順で多く、20～54歳の患者が男性患者の91%を占めていた。女性は25～29歳25%、20～24歳と30～34歳21%、15～19歳11%、40～44歳10%の順で多く、15～44歳の患者が女性患者の92%を占めていた。

図 28-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者数

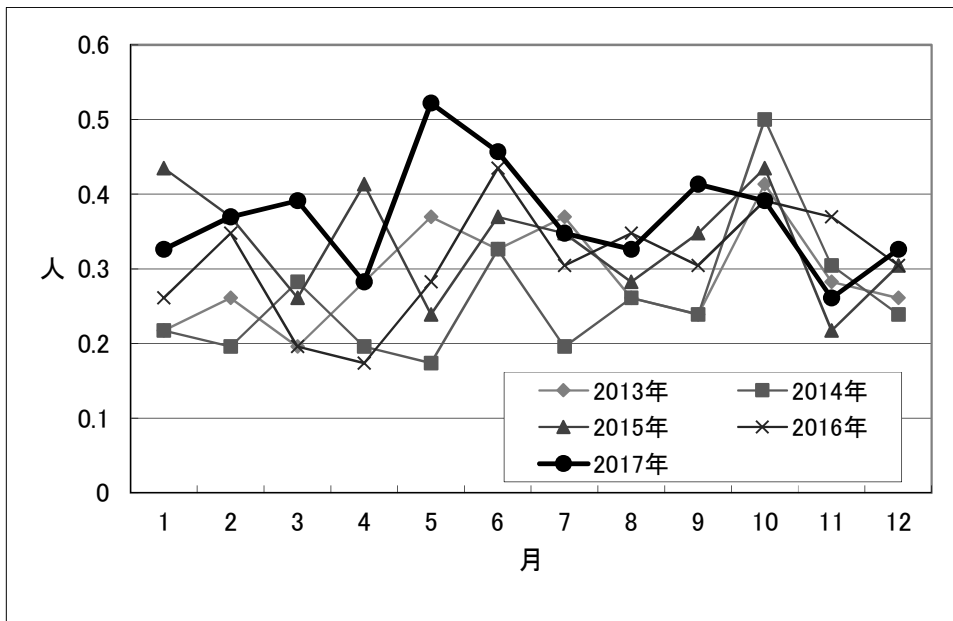


図 28-2 尖圭コンジローマ患者の性別割合

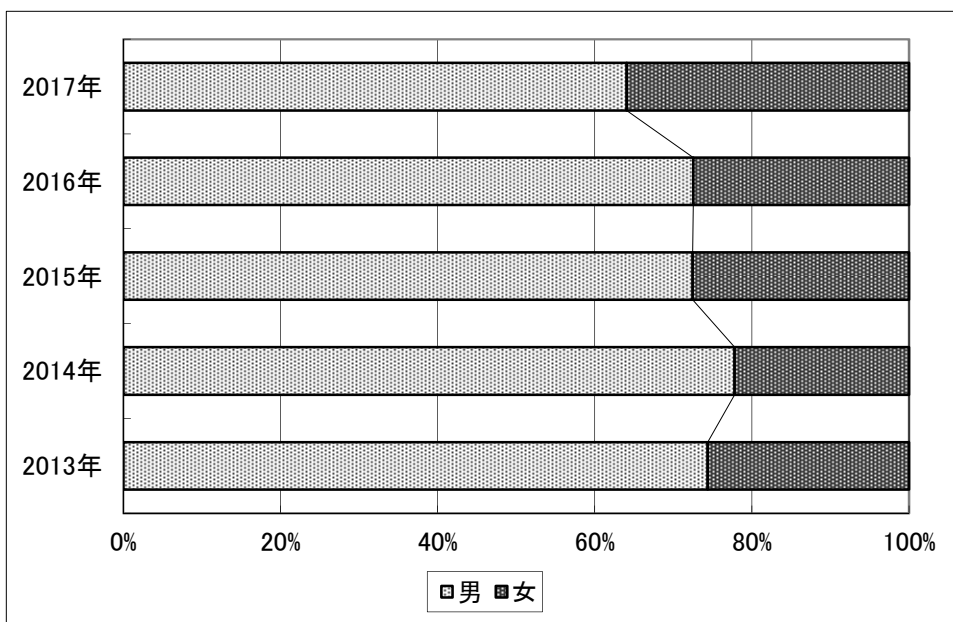


図 28-3 尖圭コンジローマ患者の年齢階級別割合（男性）

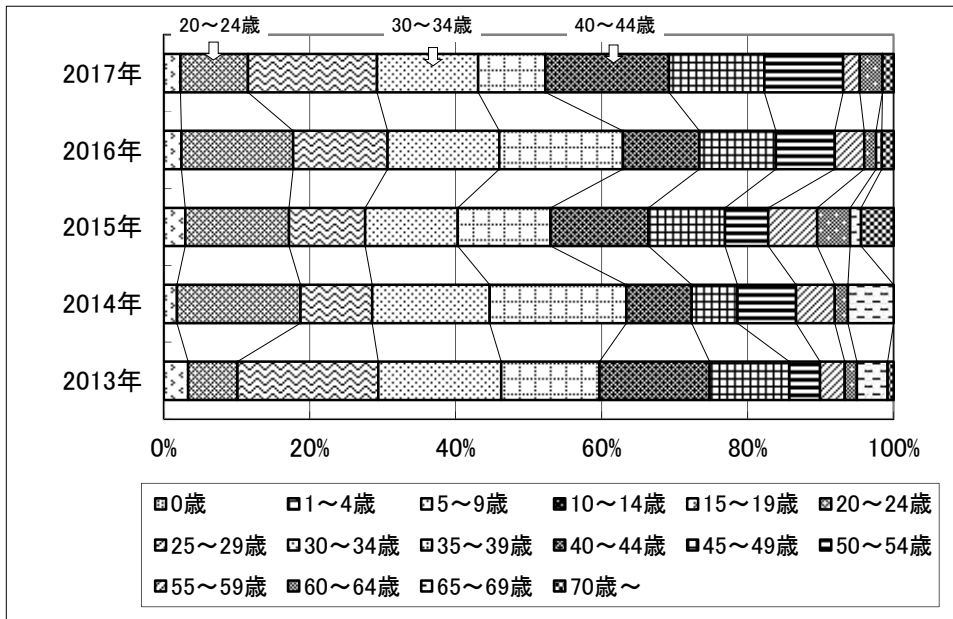
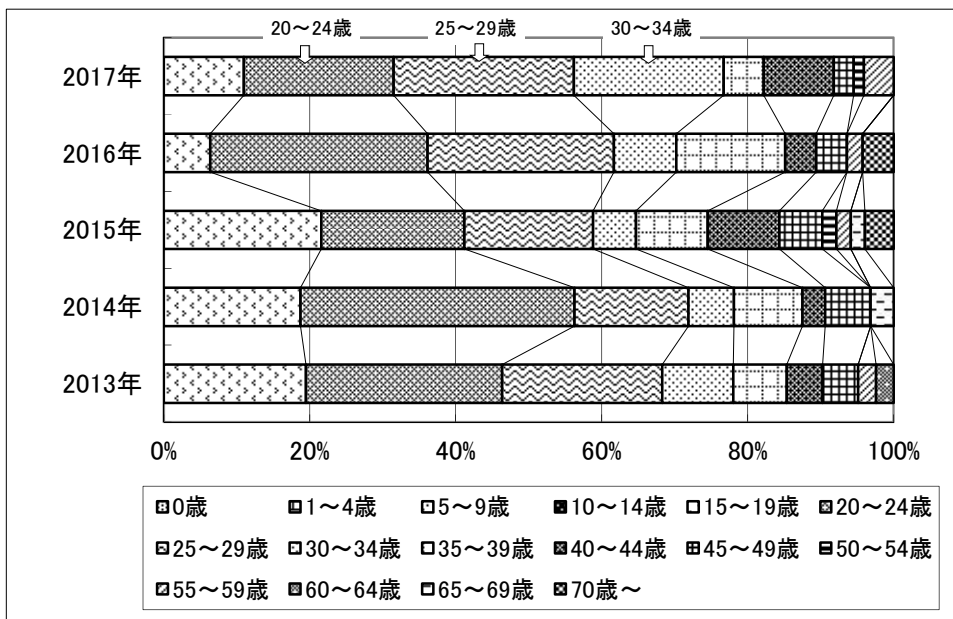


図 28-4 尖圭コンジローマ患者の年齢階級別割合（女性）



(27) 淋菌感染症

年間患者数は309人（定点あたり6.72人）で、2016年の297人（6.46人）よりわずかに増加した。患者の性別割合は、男性86%、女性14%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は20～24歳25%、25～29歳17%、30～34歳と35～39歳14%の順で多く、20～39歳の患者が男性患者の70%を占めていた。女性は20～24歳35%、15～19歳と25～29歳19%、30～34歳14%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の86%を占めていた。

図 29-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者数

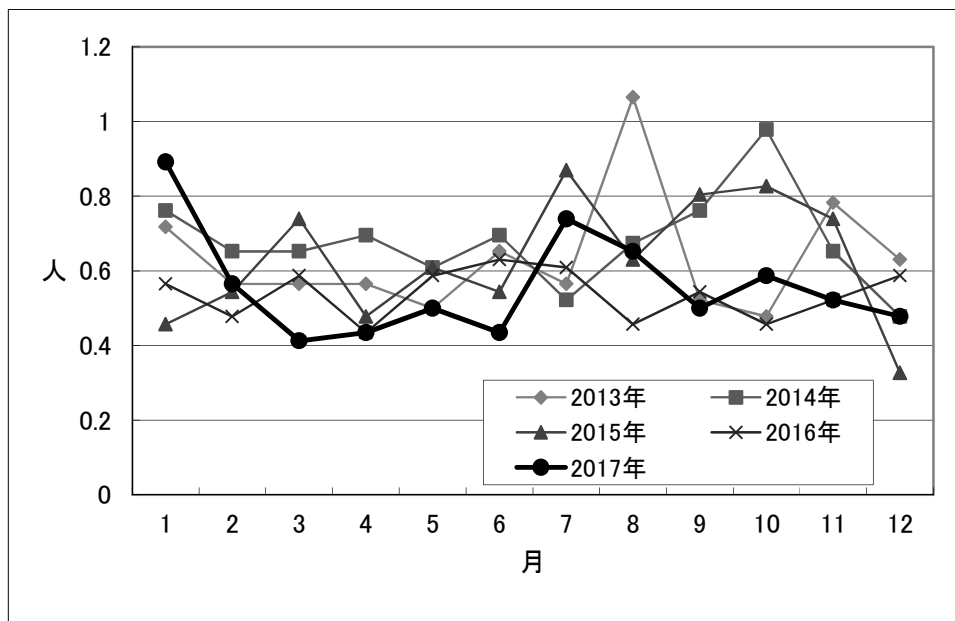


図 29-2 淋菌感染症患者の性別割合

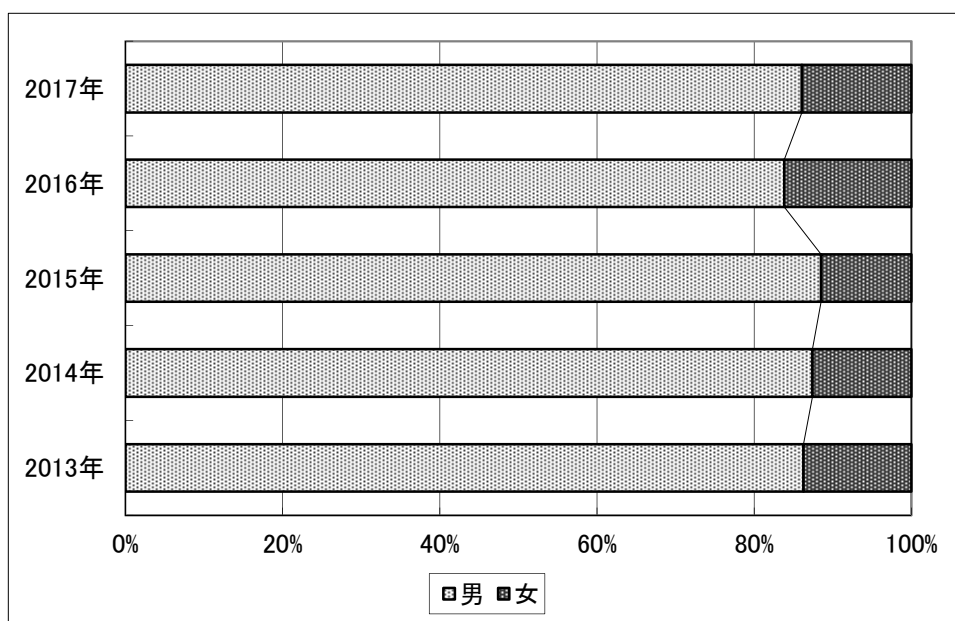


図 29-3 淋菌感染症患者の年齢階級別割合（男性）

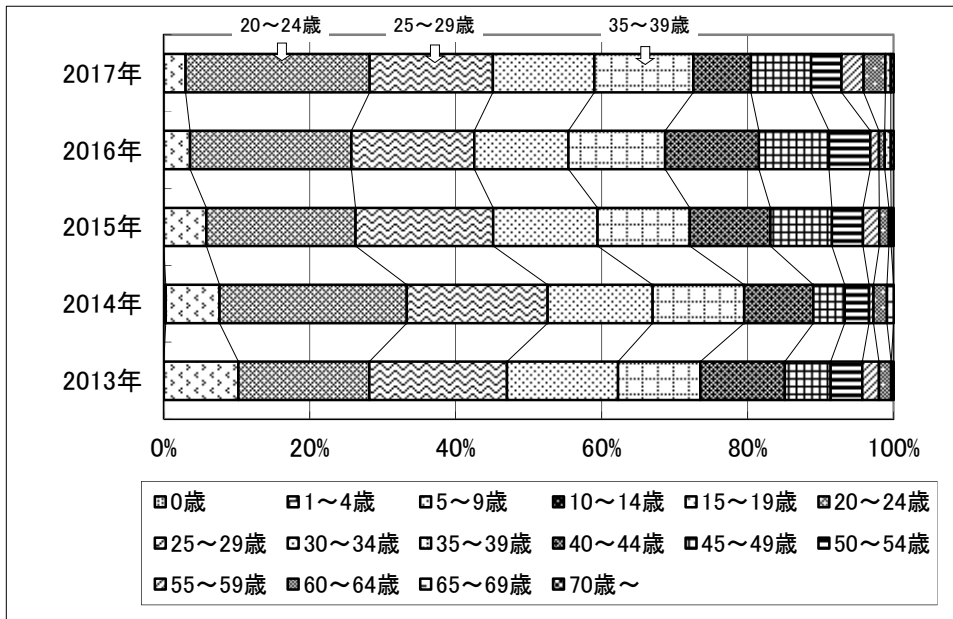
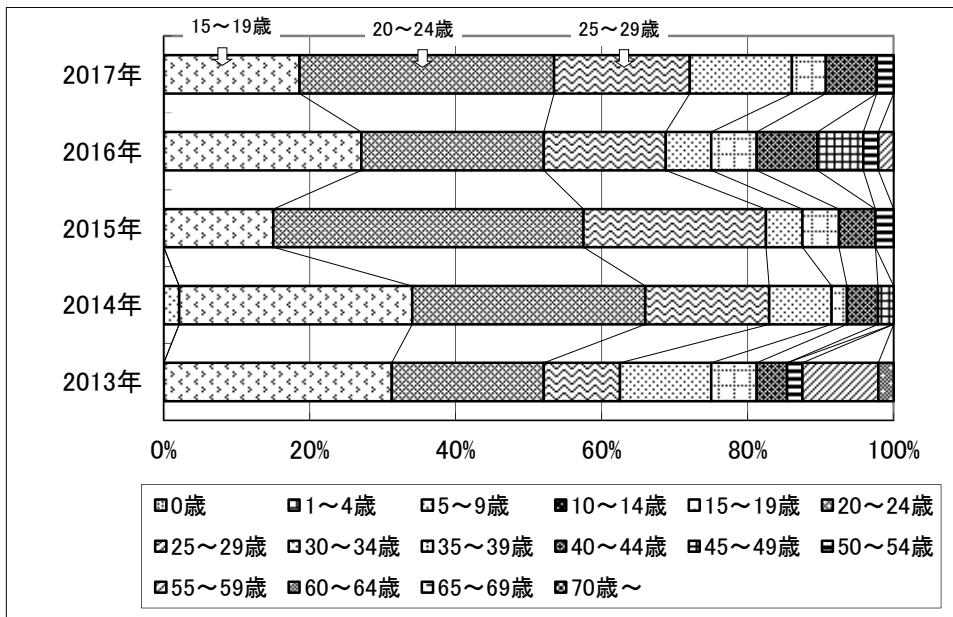


図 29-4 淋菌感染症患者の年齢階級別割合（女性）



(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は458人（定点あたり32.71人）で、2016年の451人（32.21人）よりわずかに増加した。

患者の年齢階級別割合は、70歳以上の患者が全体の69%、60歳以上が全体の81%を占めていた。

図 30-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者数

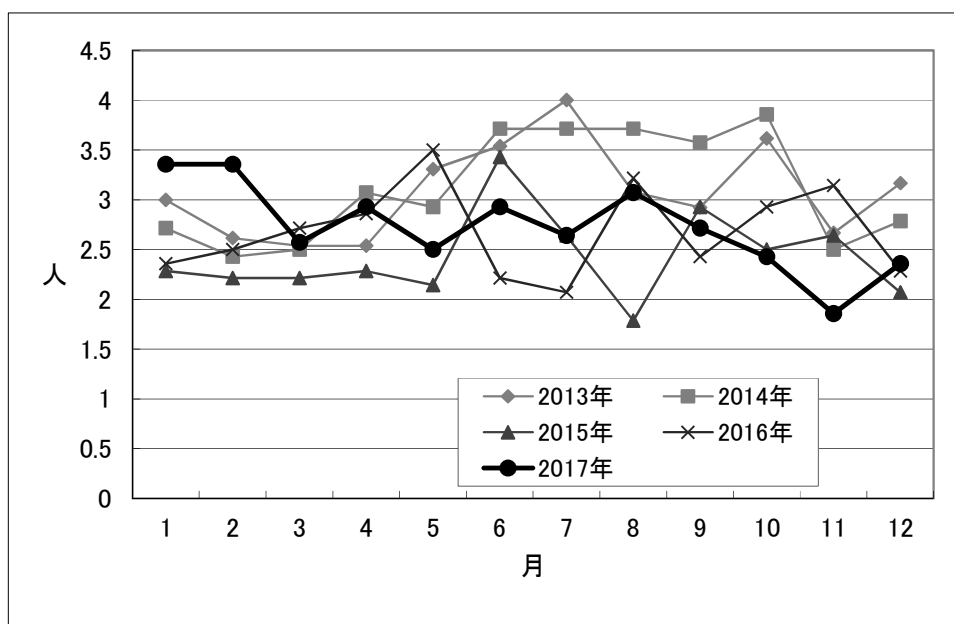
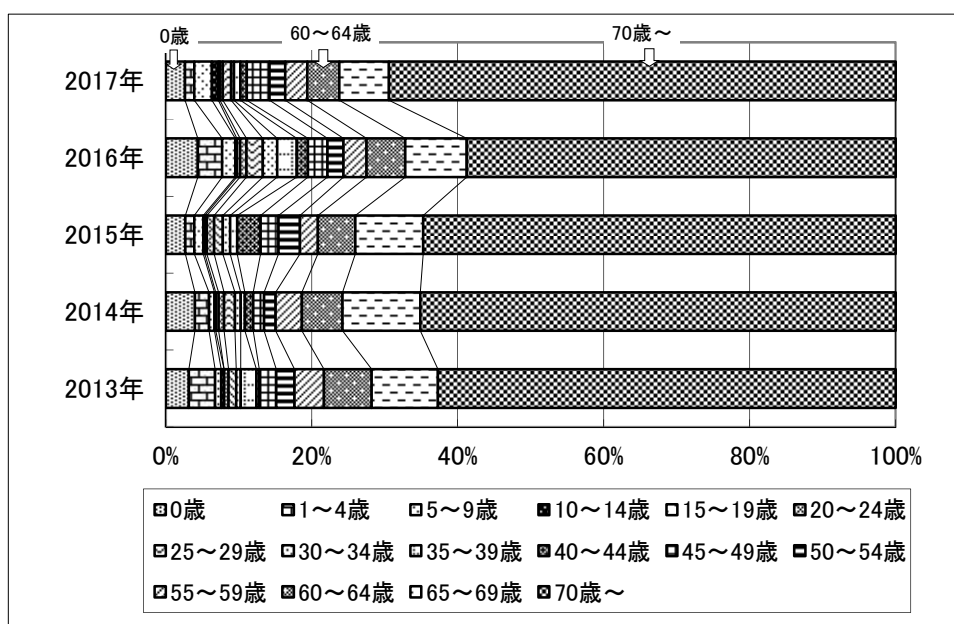


図 30-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症患者の年齢階級別割合



(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は78人（定点あたり5.57人）で、2016年の71人（5.07人）より増加した。患者の年齢階級別割合は、70歳以上の患者が全体の56%、60歳以上が全体の73%を占めていた。

図 31-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者数

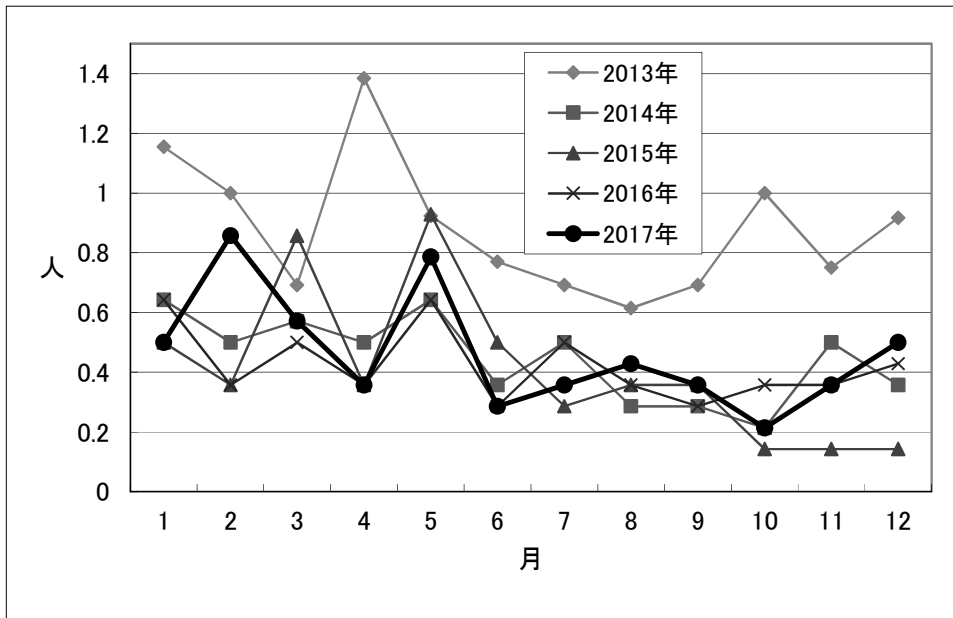
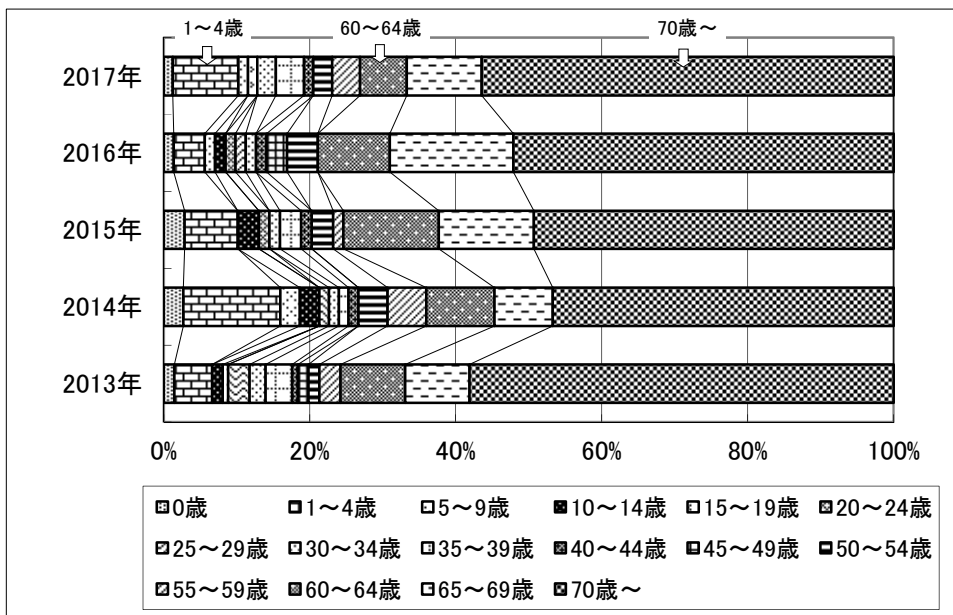


図 31-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症患者の年齢階級別割合





(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は6人（定点あたり0.43人）で、2016年の9人（0.64人）より減少した。患者の年齢分布は70歳以上が3人、50～54歳が2人、55～59歳が1人であった。

図 32-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者数

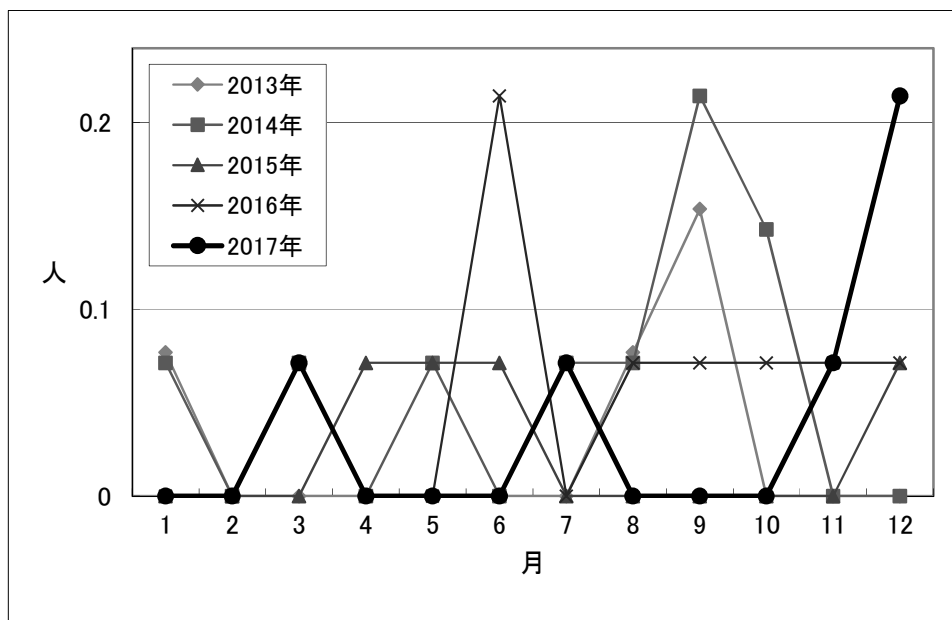
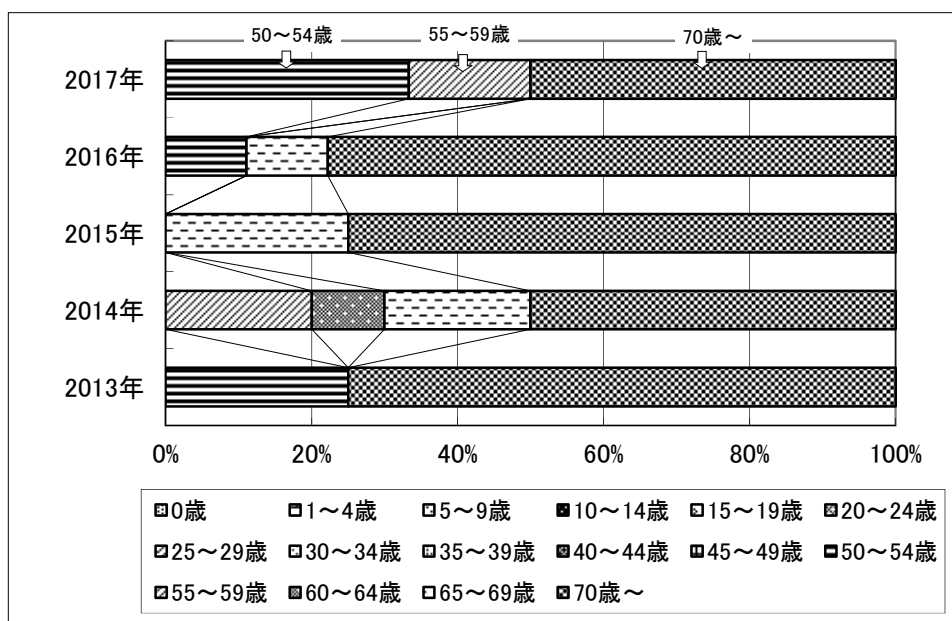


図 32-2 薬剤耐性緑膿菌感染症患者の年齢階級別割合



### 3. 病原微生物検出状況

#### (1) 腸管出血性大腸菌感染症事例 (2017年)

年月日	保健所	血清型	毒素型 (VT)	感染者数 (株数)	感染者間の関係等	PFGE型	MLVA型※
2017.02.23	加古川	O26:H11	1	1	—	—	17m2003
2017.06.16	加古川	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0053 (17c008)
2017.06.26	洲本	O26:H11	1	3	家族(保菌者2)	17026001	17m2034 (17c206)
2017.06.26	洲本	O26:H11	1	1	家族(保菌者1)	17026002	13m2015 (17c207)
2017.06.29	洲本	O26:H11	1	3		17026002	13m2015 (17c207)
2017.07.03	伊丹	O157:H-	2	1	—	—	13m0327
2017.07.28	芦屋	O157:H7	1&2	1	—	—	13m0625
2017.07.28	丹波	O157:H-	1&2	1	—	—	17m0203
2017.08.03	宝塚	O157:H7	2	1	—	—	17m0121 (17c013)
2017.08.10	朝来	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0196
2017.08.17	宝塚	O157:H7	2	1	—	—	17m0192 (17c013)
2017.08.25	加古川	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0204 (17c034)
2017.09.26	加東	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0370
2017.09.26	加東	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0129 (17c044)
2017.09.26	加東	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0370
2017.09.29	伊丹	O157:H-	2	1	—	—	17m0028
2017.09.29	伊丹	O157:H-	1&2	1	—	—	17m0371
2017.10.19	明石	O157:H7	1&2	1	—	—	15m0370
2017.10.26	加東	O157:H7	1&2	1	保菌者	—	17m0378
2017.11.20	伊丹	O157:H7	1&2	1	—	—	17m0471
2017.12.14	加東	O157:H-	2	1	—	—	17m0028
2017.12.19	明石	O128:H2	1&2	1	—	TN128※	—

※国立感染症研究所で実施

#### (2) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症事例 (2017年)

年月日	保健所	菌種	件数	薬剤耐性β-ラクタマーゼ遺伝子の型別
2017.05.09	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、TEM-1
2017.05.16	明石	<i>Enterobacter aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.06.09	加東	<i>Enterobacter aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.07.05	明石	<i>Enterobacter cloacae</i>	1	EBC型
2017.07.24	赤穂	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	IMP-6、CTX-M-2
2017.07.24	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、CTX-M-2、TEM-1
2017.08.22	加東	<i>Serratia marcescens</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.08.28	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、CTX-M-2、CTX-M-27
2017.08.31	加東	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、CTX-M-2
2017.10.10	赤穂	<i>Enterobacter aerogenes</i>	2	耐性遺伝子不検出
2017.10.13	豊岡	<i>Enterobacter cloacae</i>	1	EBC型
2017.10.19	明石	<i>Enterobacter aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.10.19	明石	<i>Enterobacter aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.10.27	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、CTX-M-2、CTX-M-14、TEM-1
2017.10.31	伊丹	<i>Enterobacter cloacae</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.11.10	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6、TEM-1
2017.11.15	加東	<i>Enterobacter aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2017.11.28	明石	<i>Citrobacter freundii</i>	1	耐性遺伝子不検出

## (3) 侵襲性肺炎球菌感染症事例 (2017年)

年月日	保健所	菌種	件数	血清型
2017.02.01	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	11A/11D/11E
2017.03.02	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	6C/6D
2017.04.07	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	22F/22A
2017.04.07	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	12F/(12A/44/46)
2017.04.07	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	12F/(12A/44/46)
2017.06.09	加東	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	1	12F/(12A/44/46)
2017.09.15	加古川	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2	6C/6D
2017.10.06	加古川	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2	35B
2017.10.06	加古川	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2	11A/11D/11E
2017.12.22	洲本	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2	15A/15F

## (4) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症事例 (2017年)

年月日	保健所	菌種	件数	群別※、T型別※、EMM型※
2017.02.07	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群、型別不能、EMM77.0
2017.05.26	赤穂	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群、TB3264、EMM89.0
2017.09.14	明石	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	1	G群、STG6792.3
2017.10.19	明石	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp. equisimilis</i>	1	G群、STG245.0
2017.11.15	加東	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群、TB3264、EMM89.0

※国立感染症研究所で実施

## (5) その他の細菌検査 (2017年)

年月日	保健所	検体	件数	当所での検査等
2017.01.27	伊丹	赤痢菌菌株	1	性状試験、血清型別、MLVA型*
2017.02.01	加東	赤痢菌菌株	1	性状試験、血清型別、MLVA型*
2017.05.16	伊丹	<i>Clostridium difficile</i> 菌株	1	毒素遺伝子の検出、PCR-ribotyping解析※
2017.06.19	伊丹	<i>Clostridium difficile</i> 菌株	1	毒素遺伝子の検出※、PCR-ribotyping解析※
		患者便	10	
2017.07.11	伊丹	<i>Clostridium difficile</i> 菌株	2	毒素遺伝子の検出、PCR-ribotyping解析※
2017.08.07	明石	<i>Aeromonas hydrophila</i> 菌株	1	薬剤耐性遺伝子の検出
2017.08.21	加古川	患者便及び血清	2	ボツリヌス菌の分離、ボツリヌス毒素及び毒素遺伝子の検出
2017.09.22	洲本	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別
2017.10.13	洲本	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別
2017.12.21	龍野	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別

※国立感染症研究所で実施

## (6) 結核 QFT 検査 (2017年)

年月日	保健所	件数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
2017.01.06	龍野	32	0	0	32	0
2017.01.23	芦屋	12	2	0	10	0
2017.01.27	芦屋	9	4	0	5	0
2017.02.03	芦屋	4	1	0	3	0
2017.05.01	加東	20	2	2	16	0
2017.05.15	芦屋	5	0	1	4	0
2017.05.16	芦屋	9	0	1	8	0
2017.05.30	芦屋	4	0	0	4	0
2017.07.25	加東	14	1	0	13	0
2017.09.14	芦屋	13	2	1	10	0
2017.10.13	豊岡	36	1	2	33	0
2017.10.25	芦屋	9	1	0	8	0

## (7) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査 (2017年)

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験	
			JATA(12)-VNTR <sup>1</sup> <sup>※1</sup>	ロファイル <sup>2</sup> <sup>※2</sup>	耐性を示した薬剤 <sup>3</sup>	PZA <sup>4</sup>
2017.01.16	洲本	MY16083	333353625B94		INH, TH	
2017.02.01	加東	MY16084	4332X37457A5			耐性なし
2017.02.01	加東	MY16085	122242543583	A		耐性なし
2017.02.01	加東	MY16086	122242543583	A		耐性なし
2017.02.01	加東	MY16088	2223X2543972			耐性なし
2017.02.01	加東	MY16090	232133122D84	B		
2017.02.13	加東	MY16091	412262745785			耐性なし
2017.02.13	加東	MY16092	333453755725			耐性なし
2017.02.14	豊岡	MY16093	433333743774			
2017.02.22	加古川	MY16094	483283743A82			
2017.03.10	伊丹	MY16095	433333643774			
2017.03.10	伊丹	MY16096	483273844A82			
2017.03.10	伊丹	MY16097	242463543A74			
2017.03.06	加古川	MY16098	232233543874			
2017.03.06	加古川	MY16099	413264743885	C		
2017.03.06	加古川	MY16100	434363845783			
2017.03.06	加古川	MY16101	413274745785	D		
2017.03.06	加古川	MY16102	463283744862			
2017.03.06	加古川	MY16103	436343744783			
2017.03.06	加古川	MY16104	232324522A63			
2017.03.10	加古川	MY16105	2223X2543B72			
2017.03.02	加東	MY16106	334353745783			耐性なし
2017.03.02	加東	MY16107	252123123A81			耐性なし
2017.03.08	赤穂	MY16108	433333742484	E		
2017.03.08	赤穂	MY16109	333463755725			
2017.03.08	赤穂	MY16110	14D391244772			
2017.03.08	赤穂	MY16111	433363745875			
2017.03.22	赤穂	MY16112	413274745793	F		
2017.03.22	伊丹	MY16113	434323746794		耐性なし	
2017.03.28	赤穂	MY16114	4332736457A5			
2017.03.28	赤穂	MY16115	333473755725	G	耐性なし	
2017.03.28	赤穂	MY16116	22232243973			
2017.03.30	洲本	MY16118	413264745785	H		
2017.03.30	洲本	MY16119	534364724783			
2017.03.30	洲本	MY16120	231332553D53	I		
2017.05.11	龍野	MY17001	3223X2543B72			
2017.05.18	豊岡	MY17002	433333742484	E		
2017.05.19	加古川	MY17003	413264745765	J		
2017.05.19	加古川	MY17004	434362745783			
2017.05.19	加古川	MY17005	433363744885			
2017.05.19	加古川	MY17006	413264745765	J		
2017.06.09	洲本	MY17007	333474755725			
2017.06.09	加東	MY17008	231332553D53	I		
2017.06.09	加東	MY17009	433333643772			耐性なし
2017.06.26	加東	MY17010	433333445794			
2017.06.09	加東	MY17011	434353745783	K		
2017.06.09	加東	MY17012	231342233853			
2017.06.09	加東	MY17013	231342543953			
2017.06.09	加東	MY17014	121342443A43			判定不能
2017.06.09	加東	MY17015	231342543553			
2017.06.26	洲本	MY17016	148381244782			
2017.06.26	洲本	MY17017	483283742A82			
2017.06.26	洲本	MY17018	433574745775			
2017.06.28	赤穂	MY17019	4343X3745783		耐性なし	
2017.06.28	赤穂	MY17020	433333A45794		耐性なし	
2017.07.04	伊丹	MY17021	413264945785	L		
2017.07.04	伊丹	MY17022	413264945785	L		
2017.07.05	豊岡	MY17023	434353745783	K		
2017.07.05	朝来	MY17024	020331553A51			
2017.07.05	朝来	MY17025	4332637457A5	M		
2017.07.05	朝来	MY17026	123333725A84			
2017.07.05	龍野	MY17027	234333745774			
2017.07.05	龍野	MY17028	4332737457A5			

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験	
			JATA(12)-VNTR <sup>+</sup> ロファイル <sup>※1</sup>	※2	耐性を示した薬剤 <sup>※3</sup>	PZA <sup>※4</sup>
2017.07.05	龍野	MY17029	434353745783	K		
2017.07.05	龍野	MY17030	252125123985			
2017.07.05	丹波	MY17031	434353745783	K		
2017.07.05	丹波	MY17032	4332637457A5	M		
2017.07.05	丹波	MY17033	231342342443		耐性なし	
2017.07.07	加古川	MY17034	4132K4645885			
2017.07.07	加古川	MY17035	241332642C53			
2017.07.07	加古川	MY17036	4344637455A3			
2017.07.07	加古川	MY17037	433333845784			
2017.07.07	加古川	MY17038	149391244872			
2017.07.27	加東	MY17039	434363745883		耐性なし	
2017.07.27	加東	MY17040	232133122D84	B	耐性なし	
2017.08.10	加東	MY17041	333473755725	G		
2017.08.07	洲本	MY17042	252123124E64			
2017.08.07	洲本	MY17043	483271744B82			
2017.08.07	洲本	MY17044	2223X2543B73			
2017.08.07	洲本	MY17045	413264745485			
2017.08.24	明石	MY17046	413264745785	H		
2017.08.24	明石	MY17047	424361945763			
2017.08.24	明石	MY17048	433333734784			
2017.09.19	丹波	MY17049	433333845594			
2017.09.19	丹波	MY17050	444353745K83			
2017.10.10	龍野	MY17051	413266745A85			
2017.10.10	龍野	MY17052	333473655725			
2017.10.10	龍野	MY17053	431333743574			
2017.10.10	龍野	MY17054	221332544643		耐性なし	
2017.10.02	龍野	MY17055	430333744184			
2017.10.02	龍野	MY17056	221332543A53			
2017.10.02	龍野	MY17057	2203X2543873		耐性なし	
2017.10.02	龍野	MY17058	413274745785	D	耐性なし	
2017.10.02	福崎	MY17059	231332542E53		耐性なし	
2017.10.05	芦屋	MY17060	2223X2542G72			
2017.10.10	加東	MY17061	133373744785			
2017.10.10	加東	MY17062	431333744794			
2017.10.10	加東	MY17063	413263545785			
2017.10.16	洲本	MY17066	242123123D84			
2017.11.09	洲本	MY17068	413277745785			
2017.11.01	加東	MY17069	413274745793	F		
2017.11.20	龍野	MY17070	434363744783	N	INH, RFP, SM, EB, TH	
2017.11.16	加東	MY17071	434355744783			耐性なし
2017.11.16	加東	MY17072	413244745785			耐性なし
2017.11.16	加東	MY17073	433323745774	O		耐性なし
2017.11.21	加東	MY17074	213254744765			耐性なし
2017.11.21	加東	MY17075	222432443763			耐性なし
2017.11.21	加東	MY17076	413264743885	C		耐性なし
2017.11.21	加東	MY17077	533373645775			耐性なし
2017.11.20	加古川	MY17078	252122123D74			
2017.11.20	加古川	MY17079	414264745785			
2017.11.20	加古川	MY17080	413255745785			
2017.12.12	加古川	MY17081	433333745484			
2017.12.12	加古川	MY17082	434383745783	P		
2017.12.12	加古川	MY17083	430333744194			
2017.12.12	加古川	MY17084	4333X3745784			
2017.12.12	加古川	MY17085	434353745783	K		
2017.12.12	加古川	MY17086	131342543H53			
2017.12.07	洲本	MY17087	433363745785			
2017.12.07	洲本	MY17088	433323745774	O		
2017.12.07	洲本	MY17089	433423745774			
2017.12.22	明石	MY17090	4132B4745785			
2017.12.22	明石	MY17091	413274735775			
2017.12.22	明石	MY17092	433373645785			
2017.12.22	明石	MY17093	434353844783			
2017.12.22	明石	MY17094	433363745783			
2017.12.22	明石	MY17095	14C371244772			
2017.12.21	豊岡	MY17096	231332543D33			

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験	
			JATA(12)-VNTR <sup>2</sup> プロファイル <sup>※1</sup> ※2		耐性を示した薬剤 <sup>※3</sup>	PZA <sup>※4</sup>
2017.12.21	朝来	MY17097	433383745765			
2017.12.21	朝来	MY17098	433333845884			
2017.09.19	尼崎市	MY17201	413264945785	L		
2017.09.19	尼崎市	MY17202	149371244772			
2017.09.19	尼崎市	MY17203	231342543B53			
2017.09.19	尼崎市	MY17204	533325747684			
2017.09.19	尼崎市	MY17205	133373745785			
2017.09.29	尼崎市	MY17206	333473755725	G		
2017.09.29	尼崎市	MY17207	433323645764			
2017.09.29	尼崎市	MY17208	333473715725			
2017.09.29	尼崎市	MY17209	233353725B84			
2017.09.29	尼崎市	MY17210	333473755725	G		
2017.09.29	尼崎市	MY17211	149391244772			
2017.09.29	尼崎市	MY17212	434363645793			
2017.09.29	尼崎市	MY17213	433324745A85			
2017.10.18	尼崎市	MY17214	434363744783	N		
2017.12.12	尼崎市	MY17216	434363445783	Q		
2017.12.20	尼崎市	MY17217	413264743885	C		
2017.12.20	尼崎市	MY17218	231332543C43			
2017.12.20	尼崎市	MY17219	231332543E33			
2017.12.20	尼崎市	MY17220	333473555725			
2017.12.20	尼崎市	MY17221	413274955795			
2017.12.20	尼崎市	MY17222	434363445783	Q		
2017.12.20	尼崎市	MY17223	434383745783	P		
2017.12.20	尼崎市	MY17224	244322246762			
2017.12.20	尼崎市	MY17225	413274745785	D		
2017.12.20	尼崎市	MY17226	413274744785			
2017.12.20	尼崎市	MY17227	426361745783			
2017.12.20	尼崎市	MY17228	413274745785	D		
2017.12.20	尼崎市	MY17229	413264743885	C		
2017.12.20	尼崎市	MY17230	334353624E92			
2017.09.27	西宮市	MY17301	413264945785	L		
2017.11.16	西宮市	MY17302	413264743885	C		
2017.12.20	西宮市	MY17303	231222543743			

\*1: JATA(12)-VNTRプロファイルの桁数をそろえるために、反復数が2桁の場合、10=A、11=B、・・・、20以上=Kとした。また、増幅産物が得られなかった場合はXとした。

\*2: JATA(12)-VNTRプロファイルが一致する菌株を同じアルファベットで表示した。

\*3: 検査対象薬剤: INH(イソニアジド)、RFP(リファンピシン)、SM(硫酸ストレプトマイシン)、EB(塩酸エタンブロール)、KM(硫酸カナマイシン) TH(エチオナミド)、EVM(硫酸エンピオマイシン)、PAS(パラアミノサリチル酸ナトリウム)、GS(サイクロセリン)、LVFX(レボフロキサシン)

\*4: 検査対象薬剤: PZA(ピラジナミド)

## (8) インフルエンザ流行予測調査検査成績 (2017年)

検体採取年月	検体数	ウイルス検出数				陰性
		A(H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	
2017.01	85	0	83	0	0	2
2017.02	59	1	49	4	4	1
2017.03	41	2	25	11	2	1
2017.04	38	1	17	13	7	0
2017.05	12	2	3	5	2	0
2017.06	3	1	1	1	0	0
2017.07	2	1	0	0	0	1
2017.08	0	0	0	0	0	0
2017.09	5	2	1	0	0	2
2017.10	2	0	0	0	1	1
2017.11	14	1	7	0	6	0
2017.12	48	19	9	0	18	2
合計	309	30	195	34	40	10

## (9) 日本脳炎流行予測調査結果：ブタ血清中の HI 抗体価 (2017年)

採血 年月日	検査頭数	HI抗体価								陽性率 (%)	2ME 感受性(%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
2017.07.05	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.07.19	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.07.26	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.08.02	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.08.09	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.08.23	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.09.06	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017.09.13	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## (10) 蚊媒介感染症の検査 (2017年)

疾患名	検体数 (患者数)	陽性 患者数	ウイルス型	渡航先
デング熱	24 (12)	1	デングウイルス1型	ミャンマー
		2	デングウイルス2型	カンボジア、ベトナム、タイ、ラオス、マレーシア
チクングニア熱		0	—	—
ジカウイルス感染症		1	—	フィリピン

## (11) リケッチア等の検査 (2017年)

疾患名	検体数	患者数 (陽性数)	備考
日本紅斑熱	21	12 (1)	遺伝子及び抗体検査
つつが虫病	6	3 (0)	遺伝子及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	8	7 (0)	遺伝子検査
A型肝炎	4	4 (4)	遺伝子検査

(12) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果 (2017年)

事例No.	月	日	保健所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1	1	12	伊丹	仕出し	食品疑い	不明	35	21	有症者便	10	0	-
2	2	2	宝塚 加東	飲食店	食品疑い	不明	6	5	有症者便	1	1	NoV G II
									有症者便	1	1	NoV G II
3	2	9	朝来	仕出し	食品疑い	不明	7	7	有症者便	2	2	NoV G II
									調理従事者便	2	2	NoV G II
									拭き取り	5	1	NoV G II
4		22	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	27	10	有症者便	2	2	NoV G II
5	3	8	明石 加古川	仕出し	食品疑い	不明	1035	36	有症者便	13	13	NoV G II
									調理従事者便	7	1	NoV G II
									拭き取り	5	0	-
									有症者便	1	0	-
6		27	洲本	旅館	食品疑い	不明	不明	不明	有症者便	1	1	NoV G II
7		30	明石	ホテル	食品疑い	不明	58	18	有症者便	1	1	NoV G II
8	4	12	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	10	8	有症者便	1	0	-
9	5	23	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	33	12	有症者便	4	0	-
10		2	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	169	40	有症者便	1	1	NoV G II
11	6	3	龍野	野外活動 センター	ヒトヒト 疑い	-	不明	15	調理従事者便	3	0	-
12		15	龍野	飲食店	食品疑い	不明	20	7	有症者便	1	0	-
13		18	宝塚 明石	飲食店	食品疑い	不明	30	15	有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
14	8	26	宝塚 伊丹 丹波 明石 龍野	飲食店	食品疑い	不明	367	不明	有症者便	3	0	-
									有症者便	4	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	2	0	-
									有症者便	1	0	-
15	9	26	芦屋 宝塚 伊丹 明石 赤穂	飲食店	食品疑い	不明	42	30	有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
16		13	伊丹	仕出し	食品疑い	不明	200	20	有症者便	1	0	-
17		21	加古川	仕出し	食品疑い	不明	110	38	有症者便	2	2	NoV G II
18	12	28	加東	飲食店	食品疑い	不明	不明	不明	有症者便	6	3	NoV G II
19		31	宝塚 伊丹	飲食店	食品疑い	不明	不明	28	有症者便	1	0	-
									有症者便	3	3	NoV G II

NoV G I : ノロウイルスG I、NoV G II : ノロウイルスG II

(13) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数 (2017年)

(インフルエンザの検体を除く)

(検体数)

		2017年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		20	46	34	30	48	35	30	30	28	40	37	22	400
患者数		16	26	16	25	33	25	22	28	19	31	24	16	281
検査材料	咽頭ぬぐい液	3	12	5	12	10	11	14	12	9	5	12	2	107
	鼻腔ぬぐい液	9	13	7	4	9	10	4	13	8	22	11	10	120
	髄液	0	4	2	0	2	2	1	1	2	3	1	1	19
	便	3	9	7	11	17	5	7	1	3	6	3	3	75
	尿	1	3	6	1	1	4	2	2	4	1	3	2	30
	血液	4	4	7	1	3	2	2	1	2	2	5	4	37
	気管吸引液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
	その他	0	1	0	1	6	1	0	0	0	0	0	0	9



## (検出件数)

疾患名	検出病原体	2017年												合計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
咽頭結膜熱	アデノウイルス 2型	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	4	
	アデノウイルス 3型	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4	
手足口病	コクサッキーウイルス A6型	0	2	2	1	4	9	7	6	0	0	0	0	31	
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	エンテロウイルス 71型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0	5	
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	1	0	7	
	パルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
ヘルパンギーナ	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B2型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
	エコーウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	ムンプスウイルス	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
感染性胃腸炎	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	ノロウイルス GⅡ.2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	ノロウイルス GⅡ.4	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	1	6	
	A群ロタウイルスG2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	A群ロタウイルスG3	0	2	1	6	11	1	0	0	0	0	0	0	21	
	サボウイルス	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	4	
	アストロウイルス 1型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	RSウイルス	8	2	1	0	1	1	0	6	8	22	11	8	68	
RSウイルス感染症	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
	エンテロウイルス 71型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2		
	ボカウイルス	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	2	7	0	10		
百日咳	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2		
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
伝染性紅斑	パルボウイルスB19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
発疹症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2		
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
	エコーウイルス 9型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
	ライノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2		
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3		
	コクサッキーウイルス A6型	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2		
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
	アデノウイルス 1型	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2		
	アデノウイルス 2型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	アデノウイルス 3型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	アデノウイルス 54型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3		
	その他 (不明熱・けいれん等)	コクサッキーウイルス B1型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
		コクサッキーウイルス B2型	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
		エコーウイルス 9型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
エンテロウイルス 71型		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
パレコウイルス 3型		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2		
ライノウイルス		0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	5		
RSウイルス		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2		
EBウイルス		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2		
サイトメガロウイルス		0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3		
ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)		0	0	0	2	0	0	1	0	1	1	0	5		
パルボウイルスB19		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
ノロウイルス GⅡ.4		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
検出数(合計)			12	14	9	18	23	21	25	27	28	41	18	12	248

## 4. 資 料

### (1) 全数把握対象疾病の患者数

付表 1-1 : 全数把握対象疾病の年間患者数 (2017年)	5 3
付表 1-2 : 全数把握対象疾病の週別患者数 (届出のあった疾病)	5 4
付表 1-3 : 全数把握対象疾病の保健所別患者数 (届出のあった疾病)	5 5
付表 1-4 : 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数 (届出のあった疾病)	5 6

### (2) 定点把握対象疾病の週 (月) 別患者数

付表 2-1 : 週報対象疾病の週別患者数 (2017年)	5 7
付表 2-2 : 週報対象疾病の週別定点あたり患者数 (2017年)	5 8
付表 2-3 : 月報対象疾病の月別患者数 (2017年)	5 9
付表 2-4 : 月報対象疾病の月別定点あたり患者数 (2017年)	5 9

### (3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数

付表 3-1 : 週報対象疾病の保健所別患者数 (2017年)	6 0
付表 3-2 : 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数 (2017年)	6 1
付表 3-3 : 月報対象疾病の保健所別患者数 (2017年)	6 2
付表 3-4 : 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数 (2017年)	6 2

### (4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数

付表 4-1 : 週報対象疾病の年齢階級別患者数 (2017年)	6 3
付表 4-2 : 週報対象疾病患者の年齢階級別割合 (2017年)	6 4
付表 4-3 : 月報対象疾病の年齢階級別患者数 (2017年)	6 5
付表 4-4 : 月報対象疾病患者の年齢階級別割合 (2017年)	6 5

### (5) 定点把握対象疾病 (月報) の性別患者数

付表 5 : 月報対象疾病の性別患者数と割合 (2017年)	6 5
--------------------------------	-----

付表1-1 全数把握対象疾病の年間患者数(2017年)

疾病名		計	疾病名		計
一類感染症	エボラ出血熱	0	四類感染症(2)	ニパウイルス感染症	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0		日本紅斑熱	7
	痘そう	0		日本脳炎	0
	南米出血熱	0		ハンタウイルス肺症候群	0
	ペスト	0		Bウイルス病	0
	マールブルグ病	0		鼻疽	0
	ラッサ熱	0		ブルセラ症	0
二類感染症	急性灰白髄炎	0		ベネズエラウマ脳炎	0
	結核	1166		ヘンドラウイルス感染症	0
	ジフテリア	0		発しんチフス	0
	重症急性呼吸器症候群* <sup>A</sup>	0		ボツリヌス症	0
	中東呼吸器症候群* <sup>B</sup>	0		マラリア	4
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0		野兔病	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0		ライム病	0
三類感染症	コレラ	0		リッサウイルス感染症	0
	細菌性赤痢	6		リフトバレー熱	0
	腸管出血性大腸菌感染症	96		類鼻疽	0
	腸チフス	2		レジオネラ症	71
	パラチフス	0		レプトスピラ症	0
四類感染症(1)	E型肝炎	3		ロッキー山紅斑熱	0
	ウエストナイル熱* <sup>C</sup>	0		アメーバ赤痢	40
	A型肝炎	21		ウイルス性肝炎* <sup>F</sup>	12
	エキノкокクス症	0		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	64
	黄熱	0		急性脳炎* <sup>G</sup>	34
	オウム病	1		クリプトスポリジウム症	1
	オムスク出血熱	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	7
	回帰熱	0	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	29	
	キャサナル森林病	0	後天性免疫不全症候群	36	
	Q熱	0	ジアルジア症	1	
	狂犬病	0	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	
	コクシジオイデス症	0	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	
	サル痘	0	侵襲性肺炎球菌感染症	188	
	ジカウイルス感染症	1	水痘(入院例)	12	
	重症熱性血小板減少症候群* <sup>D</sup>	1	先天性風しん症候群	0	
	腎症候性出血熱	0	梅毒	198	
	西部ウマ脳炎	0	播種性クリプトコックス症	6	
	ダニ媒介脳炎	0	破傷風	3	
	炭疽	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	
	チクングニア熱	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	
つつが虫病	1	風しん	7		
デング熱	7	麻しん	3		
東部ウマ脳炎	0	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0		
鳥インフルエンザ* <sup>E</sup>	0				

\*<sup>A</sup>病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。\*<sup>B</sup>病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

\*<sup>C</sup>ウエストナイル脳炎を含む。\*<sup>D</sup>病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。\*<sup>E</sup>H5N1及びH7N9を除く。\*<sup>F</sup>E型肝炎及びA型肝炎を除く。

\*<sup>G</sup>ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-2 全数把握対象疾病の週別患者数(届出のあった疾病)(2017年)

疾病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
二類感染症 結核	11	23	21	21	27	19	15	18	25	15	26	23	29	25	18	28	35	5	24	24	31	35	22	20	30	23	25
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 オウム病 ジカウイルス感染症 重症熱性血小板減少症候群* <sup>A</sup> つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 マラリア レジオネラ症	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	1	0	1	0	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	1	1	0	0
計	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計	
二類感染症 結核	28	22	27	26	21	21	26	24	16	15	20	29	18	20	21	23	14	19	25	20	28	21	28	21	15	1166	
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 オウム病 ジカウイルス感染症 重症熱性血小板減少症候群* <sup>A</sup> つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 マラリア レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	2	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	1	3	2	1	0	0	3	1	3	40	
計	3	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
六類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	1	2	0	0	1	2	1	1	0	3	2	0	0	3	3	1	2	2	1	1	0	2	1	1	1	64	
計	1	6	2	2	1	5	3	2	1	3	3	1	3	3	2	1	2	2	3	5	5	5	6	15	188		
七類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	12
計	1	2	4	2	4	3	3	6	4	5	6	3	4	5	6	3	4	5	8	0	5	3	0	1	5	198	
八類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
九類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* <sup>B</sup> カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性脳炎* <sup>C</sup> クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

\*<sup>A</sup>病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。\*<sup>B</sup>E型肝炎及びA型肝炎を除く。\*<sup>C</sup>ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-3 全数把握対象疾病の保健所別患者数(届出のあった疾病)(2017年)

疾病名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
二類感染症 結核	410	91	89	95	25	75	46	69	77	56
三類感染症 細菌性赤痢	2	0	1	0	0	2	0	0	0	1
腸管出血性大腸菌感染症	36	4	15	12	1	4	3	2	3	5
腸チフス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類感染症 E型肝炎	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A型肝炎	5	3	6	1	0	0	2	0	2	0
オウム病	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
重症熱性血小板減少症候群 <sup>*A</sup>	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
つつが虫病	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
デング熱	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0
日本紅斑熱	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
マラリア	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0
レジオネラ症	16	6	6	3	2	6	1	3	4	9
五類感染症 アメーバ赤痢	14	3	3	7	0	1	2	2	2	0
ウイルス性肝炎 <sup>*B</sup>	5	1	1	1	0	0	0	1	0	2
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	11	1	7	21	1	1	0	5	0	6
急性脳炎 <sup>*C</sup>	23	3	2	0	0	0	0	0	0	0
クリプトスポリジウム症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	0	1	2	0	0	0	0	0	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	14	6	2	0	0	0	0	2	2	1
後天性免疫不全症候群	14	4	5	1	0	1	0	1	1	0
ジアルジア症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	1	2	0	0	0	0	0	1	1
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
侵襲性肺炎球菌感染症	65	34	26	2	0	11	2	3	23	10
水痘(入院例)	2	1	0	3	0	1	0	0	1	2
梅毒	65	26	12	31	2	7	4	8	17	8
播種性クリプトコックス症	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1
破傷風	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
風しん	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1

疾病名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
二類感染症 結核	27	22	5	21	8	20	30	1166
三類感染症 細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	6
腸管出血性大腸菌感染症	1	0	0	0	1	2	7	96
腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	2
四類感染症 E型肝炎	0	0	0	1	0	0	0	3
A型肝炎	0	0	0	2	0	0	0	21
オウム病	0	0	0	0	0	0	0	1
ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
重症熱性血小板減少症候群 <sup>*A</sup>	0	0	0	0	0	0	0	1
つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	1
デング熱	0	1	0	0	0	0	0	7
日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	4	7
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	4
レジオネラ症	0	4	2	4	2	2	1	71
五類感染症 アメーバ赤痢	1	0	0	0	2	3	0	40
ウイルス性肝炎 <sup>*B</sup>	0	1	0	0	0	0	0	12
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	7	0	3	0	1	0	64
急性脳炎 <sup>*C</sup>	0	0	0	6	0	0	0	34
クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	1
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	7
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	0	0	0	0	0	29
後天性免疫不全症候群	1	1	1	2	1	1	2	36
ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	7	0	3	2	188
水痘(入院例)	0	0	0	0	0	1	1	12
梅毒	2	5	2	1	2	2	4	198
播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	6
破傷風	0	0	0	0	0	0	0	3
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	3
風しん	0	3	0	0	0	0	0	7
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	3

<sup>\*A</sup>病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。<sup>\*B</sup>E型肝炎及びA型肝炎を除く。<sup>\*C</sup>ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-4 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数(届出のあった疾病)(2017年)

疾病名		0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
二類	結核	18	6	6	3	4	36	38	40	36	28	55
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	13	9	7	6	5	7	6	4	11
	腸チフス	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	1	0	1	2	3	2	1	5
	オウム病	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	重症熱性血小板減少症候群* <sup>A</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	デング熱	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	3	0	7	11	
	ウイルス性肝炎* <sup>B</sup>	0	0	0	1	0	2	1	1	3	1	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	急性脳炎* <sup>C</sup>	4	14	4	2	0	1	0	0	1	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	4	8	5	6	3	1
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
感	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	28	6	2	0	2	1	4	5	3	0
	水痘(入院例)	2	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0
症	梅毒	0	0	0	0	9	35	30	25	20	19	13
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	
	麻疹	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0

疾病名		50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	不明	計
二類	結核	42	38	54	92	111	120	161	157	121		1166
三類	細菌性赤痢	1	0	1	1	1	0	0	0	0		6
	腸管出血性大腸菌感染症	4	4	1	1	2	1	2	1	0		96
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
四類	E型肝炎	0	2	1	0	0	0	0	0	0		3
	A型肝炎	1	0	3	1	0	1	0	0	0		21
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	重症熱性血小板減少症候群* <sup>A</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	つつが虫病	0	0	0	1	0	0	0	0	0		1
	デング熱	0	0	2	1	0	0	0	0	0		7
	日本紅斑熱	0	0	1	1	1	2	0	1	0		7
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0		4
	レジオネラ症	4	6	10	9	11	11	9	1	5		71
五類	アメーバ赤痢	5	1	5	4	1	3	0	0	0		40
	ウイルス性肝炎* <sup>B</sup>	0	1	0	0	0	1	0	1	0		12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2	1	7	8	12	11	10	6		64
	急性脳炎* <sup>C</sup>	1	2	0	1	1	3	0	0	0		34
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	2	1	2	1	0		7
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	4	5	2	3	1	3		29
	後天性免疫不全症候群	2	1	1	2	1	0	0	0	0	1	36
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
感	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	1	0	3	2	1	3		14
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	侵襲性肺炎球菌感染症	6	7	13	22	22	15	21	15	14		188
	水痘(入院例)	0	0	1	1	0	2	0	0	0		12
症	梅毒	13	8	8	11	2	3	0	1	1		198
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	2	1	2	0	1	0		6
	破傷風	0	0	0	1	1	0	0	0	0		3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	0	0		3
	風しん	2	0	0	0	0	1	0	0	0		7
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0		3

\*<sup>A</sup>病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。\*<sup>B</sup>E型肝炎及びA型肝炎を除く。\*<sup>C</sup>ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表2-1 週報対象疾病の週別患者数(2017年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ <sup>*A</sup>	1398	2510	5409	7810	7702	5301	3981	2515	1775	1275	1106	910	869	600	430	434	328	246
RSウイルス感染症	85	76	80	60	67	49	48	43	34	41	38	34	27	20	45	55	43	20
咽頭結膜熱	34	52	62	63	68	43	55	66	55	54	81	77	61	54	61	92	91	91
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	135	123	149	147	150	179	182	236	199	187	218	181	161	198	230	217	172
感染性胃腸炎	562	865	934	811	751	649	772	778	712	732	859	723	875	947	980	974	1073	792
水痘	70	55	52	38	26	26	42	30	35	35	52	47	52	46	56	34	26	34
手足口病	8	17	18	13	11	20	20	14	8	18	18	8	4	8	15	39	40	51
伝染性紅斑	8	14	7	15	9	8	9	6	8	5	14	12	15	8	16	10	21	15
突発性発しん	24	39	58	48	41	30	34	46	50	42	50	33	41	48	59	72	50	53
百日咳	0	1	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	2	3	1	2	0
ヘルパンギーナ	1	2	1	3	0	3	1	1	1	0	2	0	1	5	8	5	4	5
流行性耳下腺炎	153	129	118	104	93	77	80	99	88	118	93	85	83	95	110	66	76	65
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	0	1
流行性角結膜炎	5	18	7	10	6	11	15	10	10	15	8	7	14	13	14	16	9	4
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0
無菌性髄膜炎	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	4	9	11	8	7	13	6	7	7	2	2	2	4	0	1	3	2	5
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	2	1	1	0	2	4	0	1	4	3	10	13	30	17	14	7

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ <sup>*A</sup>	160	66	49	33	35	18	6	6	15	12	0	7	8	8	10	11	23	17
RSウイルス感染症	22	58	17	8	25	14	9	6	11	20	22	49	78	111	123	209	394	364
咽頭結膜熱	108	99	159	180	148	128	162	107	101	110	77	74	95	66	35	52	57	49
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	237	283	300	312	322	354	276	254	207	174	145	116	101	97	101	104	96	116
感染性胃腸炎	1200	1214	1239	1183	1086	1171	1183	1001	836	763	646	672	667	539	416	576	547	562
水痘	60	35	56	51	55	35	53	39	43	49	28	40	24	33	36	28	32	23
手足口病	75	140	159	253	348	461	566	934	1601	2253	2143	1755	1230	653	357	269	247	158
伝染性紅斑	23	20	21	32	10	26	25	21	19	23	21	18	8	4	7	3	11	4
突発性発しん	70	69	58	56	58	59	63	55	56	55	52	59	59	46	46	50	56	49
百日咳	0	2	0	2	2	1	0	1	6	1	0	3	2	1	2	1	0	1
ヘルパンギーナ	11	24	32	51	55	89	133	164	265	388	345	330	261	178	123	128	132	93
流行性耳下腺炎	92	89	75	92	73	72	71	77	75	70	75	74	61	43	43	42	35	35
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0	1
流行性角結膜炎	18	20	15	14	23	21	16	19	61	46	21	19	19	15	11	29	17	12
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0	4	0	2	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	1	2	4	0	0	0	2	1	1	2	4	0	1	4	2	2	2
マイコプラズマ肺炎	2	3	3	2	1	1	4	2	3	0	2	1	0	3	6	3	3	1
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	6	14	15	5	2	2	2	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計
インフルエンザ <sup>*A</sup>	26	21	27	33	23	42	39	73	69	163	241	274	446	937	1716	2601	51814
RSウイルス感染症	413	343	324	325	259	244	290	224	196	201	208	252	213	191	215	182	6485
咽頭結膜熱	41	29	39	37	29	41	44	30	45	36	42	42	85	75	90	65	3737
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	125	82	128	129	96	161	150	161	198	263	224	218	253	238	227	203	9588
感染性胃腸炎	561	412	524	512	451	516	511	522	611	674	705	903	866	1034	1063	984	41139
水痘	27	16	43	31	46	46	33	71	35	70	56	72	47	77	50	59	2255
手足口病	148	90	114	78	74	91	126	79	77	63	77	63	52	42	49	25	15180
伝染性紅斑	5	2	3	4	10	2	2	2	5	2	3	3	5	3	3	6	556
突発性発しん	61	41	41	39	40	40	57	36	48	44	51	42	41	41	44	42	2542
百日咳	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	45
ヘルパンギーナ	85	41	55	45	53	48	52	24	17	14	11	12	15	7	10	4	3338
流行性耳下腺炎	36	20	38	33	17	43	19	25	45	29	33	29	29	28	27	18	3395
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	17
流行性角結膜炎	23	13	20	19	8	11	10	11	15	8	24	20	17	26	19	26	858
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	1	0	2	0	0	2	0	0	4	0	1	1	1	0	0	0	32
無菌性髄膜炎	2	1	0	0	1	1	1	2	2	1	2	0	0	1	0	0	50
マイコプラズマ肺炎	2	2	3	6	4	2	2	0	2	2	3	3	2	2	0	2	170
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	164

<sup>\*A</sup>鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。<sup>\*B</sup>インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-2 週報対象疾病の週別定点あたり患者数(2017年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ <sup>*A</sup>	7.03	12.61	27.18	39.25	38.70	26.64	20.01	12.64	8.92	6.41	5.56	4.57	4.37	3.02	2.16	2.18	1.66	1.24
RSウイルス感染症	0.66	0.59	0.62	0.47	0.52	0.38	0.37	0.33	0.26	0.32	0.29	0.26	0.21	0.16	0.35	0.43	0.34	0.16
咽頭結膜熱	0.26	0.40	0.48	0.49	0.53	0.33	0.43	0.51	0.43	0.42	0.63	0.60	0.47	0.42	0.47	0.71	0.71	0.71
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.57	1.05	0.95	1.16	1.14	1.16	1.39	1.41	1.83	1.54	1.45	1.69	1.40	1.25	1.53	1.78	1.70	1.33
感染性胃腸炎	4.36	6.71	7.24	6.29	5.82	5.03	5.98	6.03	5.52	5.67	6.66	5.60	6.78	7.34	7.60	7.55	8.38	6.14
水痘	0.54	0.43	0.40	0.29	0.20	0.20	0.33	0.23	0.27	0.27	0.40	0.36	0.40	0.36	0.43	0.26	0.20	0.26
手足口病	0.06	0.13	0.14	0.10	0.09	0.16	0.16	0.11	0.06	0.14	0.14	0.06	0.03	0.06	0.12	0.30	0.31	0.40
伝染性紅斑	0.06	0.11	0.05	0.12	0.07	0.06	0.07	0.05	0.06	0.04	0.11	0.09	0.12	0.06	0.12	0.08	0.16	0.12
突発性発しん	0.19	0.30	0.45	0.37	0.32	0.23	0.26	0.36	0.39	0.33	0.39	0.26	0.32	0.37	0.46	0.56	0.39	0.41
百日咳	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.01	0.02	0.00
ヘルパンギーナ	0.01	0.02	0.01	0.02	0.00	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02	0.00	0.01	0.04	0.06	0.04	0.03	0.04
流行性耳下腺炎	1.19	1.00	0.91	0.81	0.72	0.60	0.62	0.77	0.68	0.91	0.72	0.66	0.64	0.74	0.85	0.51	0.59	0.50
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.09	0.06	0.00	0.03
流行性角結膜炎	0.14	0.51	0.20	0.29	0.17	0.31	0.43	0.29	0.29	0.43	0.23	0.20	0.40	0.37	0.40	0.46	0.26	0.11
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.08	0.00	0.00	0.00	0.07	0.14	0.00
無菌性髄膜炎	0.14	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.08	0.08	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.29	0.64	0.79	0.57	0.50	0.93	0.43	0.50	0.50	0.15	0.14	0.17	0.33	0.00	0.07	0.21	0.14	0.38
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.14	0.07	0.07	0.00	0.14	0.29	0.00	0.08	0.29	0.25	0.83	1.00	2.14	1.21	1.00	0.54

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ <sup>*A</sup>	0.80	0.33	0.25	0.17	0.18	0.09	0.03	0.03	0.08	0.06	0.00	0.04	0.04	0.04	0.05	0.06	0.12	0.09
RSウイルス感染症	0.17	0.45	0.13	0.06	0.19	0.11	0.07	0.05	0.09	0.16	0.17	0.38	0.60	0.86	0.96	1.63	3.05	2.82
咽頭結膜熱	0.84	0.77	1.23	1.40	1.15	1.00	1.27	0.83	0.78	0.85	0.60	0.58	0.74	0.51	0.27	0.41	0.44	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.84	2.19	2.33	2.42	2.50	2.77	2.16	1.97	1.60	1.35	1.12	0.91	0.78	0.75	0.79	0.81	0.74	0.90
感染性胃腸炎	9.30	9.41	9.60	9.17	8.42	9.15	9.24	7.76	6.48	5.91	5.01	5.25	5.17	4.18	3.25	4.50	4.24	4.36
水痘	0.47	0.27	0.43	0.40	0.43	0.27	0.41	0.30	0.33	0.38	0.22	0.31	0.19	0.26	0.28	0.22	0.25	0.18
手足口病	0.58	1.09	1.23	1.96	2.70	3.60	4.42	7.24	12.41	17.47	16.61	13.71	9.53	5.06	2.79	2.10	1.91	1.22
伝染性紅斑	0.18	0.16	0.16	0.25	0.08	0.20	0.20	0.16	0.15	0.18	0.16	0.14	0.06	0.03	0.05	0.02	0.09	0.03
突発性発しん	0.54	0.53	0.45	0.43	0.45	0.46	0.49	0.43	0.43	0.43	0.40	0.46	0.46	0.36	0.36	0.39	0.43	0.38
百日咳	0.00	0.02	0.00	0.02	0.02	0.01	0.00	0.01	0.05	0.01	0.00	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01
ヘルパンギーナ	0.09	0.19	0.25	0.40	0.43	0.70	1.04	1.27	2.05	3.01	2.67	2.58	2.02	1.38	0.96	1.00	1.02	0.72
流行性耳下腺炎	0.71	0.69	0.58	0.71	0.57	0.56	0.55	0.60	0.58	0.54	0.58	0.58	0.47	0.33	0.34	0.33	0.27	0.27
急性出血性結膜炎	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.03
流行性角結膜炎	0.51	0.57	0.43	0.40	0.66	0.60	0.46	0.54	1.74	1.31	0.60	0.54	0.54	0.43	0.31	0.83	0.49	0.34
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0.00	0.31	0.00	0.14	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.14	0.00	0.07	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.08	0.14	0.29	0.00	0.00	0.00	0.14	0.07	0.07	0.15	0.29	0.00	0.07	0.29	0.14	0.14	0.14
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.23	0.21	0.14	0.07	0.08	0.31	0.14	0.21	0.00	0.15	0.07	0.00	0.21	0.43	0.21	0.21	0.07
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.08	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.07	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.43	1.08	1.07	0.36	0.14	0.15	0.15	0.07	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	週平均
インフルエンザ <sup>*A</sup>	0.13	0.11	0.14	0.17	0.12	0.21	0.20	0.37	0.35	0.82	1.21	1.38	2.24	4.71	8.62	13.07	5.01
RSウイルス感染症	3.20	2.66	2.51	2.52	2.01	1.89	2.25	1.74	1.52	1.56	1.61	1.95	1.65	1.48	1.67	1.41	0.97
咽頭結膜熱	0.32	0.22	0.30	0.29	0.22	0.32	0.34	0.23	0.35	0.28	0.33	0.33	0.66	0.58	0.70	0.50	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97	0.64	0.99	1.00	0.74	1.25	1.16	1.25	1.53	2.04	1.74	1.69	1.96	1.84	1.76	1.57	1.43
感染性胃腸炎	4.35	3.19	4.06	3.97	3.50	4.00	3.96	4.05	4.74	5.22	5.47	7.00	6.71	8.02	8.24	7.63	6.14
水痘	0.21	0.12	0.33	0.24	0.36	0.36	0.26	0.55	0.27	0.54	0.43	0.56	0.36	0.60	0.39	0.46	0.34
手足口病	1.15	0.70	0.88	0.60	0.57	0.71	0.98	0.61	0.60	0.49	0.60	0.49	0.40	0.33	0.38	0.19	2.26
伝染性紅斑	0.04	0.02	0.02	0.03	0.08	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.05	0.08
突発性発しん	0.47	0.32	0.32	0.30	0.31	0.31	0.44	0.28	0.37	0.34	0.40	0.33	0.32	0.32	0.34	0.33	0.38
百日咳	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01
ヘルパンギーナ	0.66	0.32	0.43	0.35	0.41	0.37	0.40	0.19	0.13	0.11	0.09	0.09	0.12	0.05	0.08	0.03	0.50
流行性耳下腺炎	0.28	0.16	0.29	0.26	0.13	0.33	0.15	0.19	0.35	0.22	0.26	0.22	0.22	0.22	0.21	0.14	0.51
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.01
流行性角結膜炎	0.66	0.37	0.57	0.54	0.23	0.31	0.29	0.31	0.43	0.23	0.69	0.57	0.49	0.74	0.54	0.74	0.47
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0.08	0.00	0.14	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.29	0.00	0.07	0.08	0.07	0.00	0.00	0.00	0.04
無菌性髄膜炎	0.15	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.14	0.14	0.07	0.14	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07
マイコプラズマ肺炎	0.15	0.14	0.21	0.43	0.29	0.14	0.14	0.00	0.14	0.14	0.21	0.23	0.14	0.14	0.00	0.14	0.24
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.23

\*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。\*Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。



付表2-3 月報対象疾病の月別患者数(2017年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	77	81	72	84	108	81	103	85	80	93	73	88	1025
性器ヘルペスウイルス感染症	29	32	23	23	26	26	26	23	21	23	27	25	304
尖圭コンジローマ	15	17	18	13	24	21	16	15	19	18	12	15	203
淋菌感染症	41	26	19	20	23	20	34	30	23	27	24	22	309
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47	47	36	41	35	41	37	43	38	34	26	33	458
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	12	8	5	11	4	5	6	5	3	5	7	78
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3	6

付表2-4 月報対象疾病の月別定点あたり患者数(2017年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月平均
性器クラミジア感染症	1.67	1.76	1.57	1.83	2.35	1.76	2.24	1.85	1.74	2.02	1.59	1.91	1.86
性器ヘルペスウイルス感染症	0.63	0.70	0.50	0.50	0.57	0.57	0.57	0.50	0.46	0.50	0.59	0.54	0.55
尖圭コンジローマ	0.33	0.37	0.39	0.28	0.52	0.46	0.35	0.33	0.41	0.39	0.26	0.33	0.37
淋菌感染症	0.89	0.57	0.41	0.43	0.50	0.43	0.74	0.65	0.50	0.59	0.52	0.48	0.56
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3.36	3.36	2.57	2.93	2.50	2.93	2.64	3.07	2.71	2.43	1.86	2.36	2.73
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.50	0.86	0.57	0.36	0.79	0.29	0.36	0.43	0.36	0.21	0.36	0.50	0.46
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.21	0.04

付表3-1 週報対象疾病の保健所別患者数(2017年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ <sup>*A</sup>	10966	3698	7278	2444	642	3982	2390	2356	4009	3952
RSウイルス感染症	948	440	1051	274	32	181	324	343	975	699
咽頭結膜熱	550	160	447	143	9	350	325	189	332	662
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2080	613	1684	613	85	1096	466	217	846	607
感染性胃腸炎	8652	2094	6995	2744	564	1960	1119	2475	2347	3961
水痘	479	219	210	98	31	295	165	114	101	184
手足口病	3170	916	2756	695	113	1060	817	874	996	1405
伝染性紅斑	42	13	48	20	7	3	26	13	8	148
突発性発しん	553	121	347	213	40	127	145	125	206	234
百日咳	13	0	6	2	0	4	0	1	9	3
ヘルパンギーナ	841	126	428	249	39	221	176	119	227	169
流行性耳下腺炎	1065	133	565	81	36	191	457	172	83	291
急性出血性結膜炎	8	4	0	2	0	0	0	0	0	1
流行性角結膜炎	145	152	65	38	2	104	86	26	145	31
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	15	1	0	0	—	—	—	—	1	1
無菌性髄膜炎	9	0	0	0	—	—	—	—	14	3
マイコプラズマ肺炎	18	18	0	1	—	—	—	—	65	19
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	—	—	—	—	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	14	19	0	2	—	—	—	—	48	2

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
インフルエンザ <sup>*A</sup>	2261	1691	658	1637	995	913	1942	51814
RSウイルス感染症	137	192	11	204	29	164	481	6485
咽頭結膜熱	39	124	6	59	76	149	117	3737
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	104	336	15	187	79	127	433	9588
感染性胃腸炎	1618	1642	344	2129	287	768	1440	41139
水痘	56	85	15	88	38	19	58	2255
手足口病	392	590	165	590	136	201	304	15180
伝染性紅斑	14	11	0	147	23	30	3	556
突発性発しん	39	104	12	149	39	28	60	2542
百日咳	4	1	0	1	0	1	0	45
ヘルパンギーナ	132	59	19	181	56	107	189	3338
流行性耳下腺炎	98	37	76	43	32	13	22	3395
急性出血性結膜炎	0	—	2	0	—	—	0	17
流行性角結膜炎	19	—	2	32	—	—	11	858
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0	3	—	10	0	0	1	32
無菌性髄膜炎	0	4	—	19	0	0	1	50
マイコプラズマ肺炎	0	18	—	13	11	6	1	170
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	9	0	—	2	0	0	0	11
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	13	—	2	0	59	5	164

<sup>\*A</sup>鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 <sup>\*B</sup>インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-2 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2017年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ <sup>*A</sup>	228.46	246.53	383.05	174.57	214.00	331.83	265.56	214.18	286.36	304.00
RSウイルス感染症	30.58	44.00	80.85	30.44	16.00	22.63	54.00	49.00	108.33	87.38
咽頭結膜熱	17.74	16.00	34.38	15.89	4.50	43.75	54.17	27.00	36.89	82.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67.10	61.30	129.54	68.11	42.50	137.00	77.67	31.00	94.00	75.88
感染性胃腸炎	279.10	209.40	538.08	304.89	282.00	245.00	186.50	353.57	260.78	495.13
水痘	15.45	21.90	16.15	10.89	15.50	36.88	27.50	16.29	11.22	23.00
手足口病	102.26	91.60	212.00	77.22	56.50	132.50	136.17	124.86	110.67	175.63
伝染性紅斑	1.35	1.30	3.69	2.22	3.50	0.38	4.33	1.86	0.89	18.50
突発性発しん	17.84	12.10	26.69	23.67	20.00	15.88	24.17	17.86	22.89	29.25
百日咳	0.42	0.00	0.46	0.22	0.00	0.50	0.00	0.14	1.00	0.38
ヘルパンギーナ	27.13	12.60	32.92	27.67	19.50	27.63	29.33	17.00	25.22	21.13
流行性耳下腺炎	34.35	13.30	43.46	9.00	18.00	23.88	76.17	24.57	9.22	36.38
急性出血性結膜炎	0.80	1.33	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50
流行性角結膜炎	14.50	50.67	21.67	12.67	2.00	52.00	43.00	13.00	48.33	15.50
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	5.00	1.00	0.00	0.00	—	—	—	—	1.00	1.00
無菌性髄膜炎	3.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	14.00	3.00
マイコプラズマ肺炎	6.00	18.00	0.00	1.00	—	—	—	—	65.00	19.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	4.67	19.00	0.00	2.00	—	—	—	—	48.00	2.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
インフルエンザ <sup>*A</sup>	282.63	281.83	329.00	204.63	331.67	152.17	242.75	260.38
RSウイルス感染症	27.40	48.00	11.00	40.80	14.50	41.00	96.20	50.30
咽頭結膜熱	7.80	31.00	6.00	11.80	38.00	37.25	23.40	29.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20.80	84.00	15.00	37.40	39.50	31.75	86.60	74.40
感染性胃腸炎	323.60	410.50	344.00	425.80	143.50	192.00	288.00	319.22
水痘	11.20	21.25	15.00	17.60	19.00	4.75	11.60	17.49
手足口病	78.40	147.50	165.00	118.00	68.00	50.25	60.80	117.88
伝染性紅斑	2.80	2.75	0.00	29.40	11.50	7.50	0.60	4.32
突発性発しん	7.80	26.00	12.00	29.80	19.50	7.00	12.00	19.73
百日咳	0.80	0.25	0.00	0.20	0.00	0.25	0.00	0.35
ヘルパンギーナ	26.40	14.75	19.00	36.20	28.00	26.75	37.80	25.92
流行性耳下腺炎	19.60	9.25	76.00	8.60	16.00	3.25	4.40	26.34
急性出血性結膜炎	0.00	—	2.00	0.00	—	—	0.00	0.49
流行性角結膜炎	19.00	—	2.00	32.00	—	—	11.00	24.51
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	0.00	3.00	—	10.00	0.00	0.00	1.00	2.34
無菌性髄膜炎	0.00	4.00	—	19.00	0.00	0.00	1.00	3.62
マイコプラズマ肺炎	0.00	18.00	—	13.00	11.00	6.00	1.00	12.34
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	9.00	0.00	—	2.00	0.00	0.00	0.00	0.79
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	13.00	—	2.00	0.00	59.00	5.00	12.09

<sup>\*A</sup>鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 <sup>\*B</sup>インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-3 月報対象疾病の保健所別患者数(2017年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	265	195	185	62	17	16	40	21	100	52
性器ヘルペスウイルス感染症	92	48	22	11	1	6	32	27	15	9
尖圭コンジローマ	61	24	29	33	1	8	9	3	3	2
淋菌感染症	88	45	75	34	6	3	5	2	31	9
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124	62	48	57	—	—	—	—	14	11
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	32	0	1	4	—	—	—	—	3	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	3	2	0	—	—	—	—	0	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
性器クラミジア感染症	28	1	3	22	1	7	10	1025
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	16	18	0	3	4	304
尖圭コンジローマ	1	0	2	21	0	4	2	203
淋菌感染症	3	0	0	0	1	3	4	309
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32	11	—	15	4	43	37	458
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	0	—	17	0	0	13	78
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	—	0	0	0	0	6

付表3-4 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2017年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	22.08	48.75	46.25	20.67	17.00	8.00	13.33	10.50	25.00	17.33
性器ヘルペスウイルス感染症	7.67	12.00	5.50	3.67	1.00	3.00	10.67	13.50	3.75	3.00
尖圭コンジローマ	5.08	6.00	7.25	11.00	1.00	4.00	3.00	1.50	0.75	0.67
淋菌感染症	7.33	11.25	18.75	11.33	6.00	1.50	1.67	1.00	7.75	3.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	41.33	62.00	48.00	57.00	—	—	—	—	14.00	11.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10.67	0.00	1.00	4.00	—	—	—	—	3.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	3.00	2.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
性器クラミジア感染症	28.00	1.00	3.00	22.00	1.00	7.00	5.00	22.28
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.00	16.00	18.00	0.00	3.00	2.00	6.61
尖圭コンジローマ	1.00	0.00	2.00	21.00	0.00	4.00	1.00	4.41
淋菌感染症	3.00	0.00	0.00	0.00	1.00	3.00	2.00	6.72
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32.00	11.00	—	15.00	4.00	43.00	37.00	32.71
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8.00	0.00	—	17.00	0.00	0.00	13.00	5.57
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.43

付表4-1 週報対象疾病の年齢階級別患者数(2017年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ <sup>*A</sup>	177	567	1788	2088	2410	3116	3299	3199	2955	3011	2843
RSウイルス感染症	958	1228	2164	1089	574	269	108	41	16	9	6
咽頭結膜熱	17	256	986	603	543	452	332	206	92	76	55
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	49	351	584	926	1336	1389	1161	943	776	577
感染性胃腸炎	377	2366	6348	4776	4114	4124	3456	2601	2078	1724	1457
水痘	25	72	185	130	171	232	310	323	229	206	134
手足口病	135	1342	4749	3083	2012	1494	1037	477	251	157	115
伝染性紅斑	0	15	37	39	55	78	70	60	64	46	32
突発性発しん	69	920	1276	202	53	11	8	3	0	0	0
百日咳	4	5	3	1	1	2	4	1	4	2	1
ヘルパンギーナ	24	305	890	672	449	352	253	128	83	53	49
流行性耳下腺炎	0	14	63	160	302	474	527	444	389	309	248
急性出血性結膜炎	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0
流行性角結膜炎	5	8	37	48	32	31	18	8	12	9	6
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	2	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2
無菌性髄膜炎	3	6	5	3	2	2	7	3	0	0	3
マイコプラズマ肺炎	2	41	46	29	10	4	5	5	4	1	1
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	21	118	25	0	0	0	0	0	0	0	0
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ <sup>*A</sup>	9634	2865	2365	2772	2945	2042	1705	1072	961	51814	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	9	1	13							6485	
咽頭結膜熱	70	15	34							3737	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1011	103	375							9588	
感染性胃腸炎	3759	869	3090							41139	
水痘	202	15	21							2255	
手足口病	167	14	147							15180	
伝染性紅斑	55	1	4							556	
突発性発しん	0	0	0							2542	
百日咳	9	1	7							45	
ヘルパンギーナ	59	5	16							3338	
流行性耳下腺炎	385	26	54							3395	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	0	0	3	5	1	2	1	0		17	
流行性角結膜炎	26	23	84	185	107	65	59	95		858	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	2	2	5	5	10					32	
無菌性髄膜炎	2	2	0	3	9					50	
マイコプラズマ肺炎	0	4	3	3	12					170	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	1	9					11	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	0					164	

\*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。\*Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-2 週報対象疾病患者の年齢階級別割合(%) (2017年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ <sup>*A</sup>	0.34	1.09	3.45	4.03	4.65	6.01	6.37	6.17	5.70	5.81	5.49
RSウイルス感染症	14.77	18.94	33.37	16.79	8.85	4.15	1.67	0.63	0.25	0.14	0.09
咽頭結膜熱	0.45	6.85	26.38	16.14	14.53	12.10	8.88	5.51	2.46	2.03	1.47
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.07	0.51	3.66	6.09	9.66	13.93	14.49	12.11	9.84	8.09	6.02
感染性胃腸炎	0.92	5.75	15.43	11.61	10.00	10.02	8.40	6.32	5.05	4.19	3.54
水痘	1.11	3.19	8.20	5.76	7.58	10.29	13.75	14.32	10.16	9.14	5.94
手足口病	0.89	8.84	31.28	20.31	13.25	9.84	6.83	3.14	1.65	1.03	0.76
伝染性紅斑	0.00	2.70	6.65	7.01	9.89	14.03	12.59	10.79	11.51	8.27	5.76
突発性発しん	2.71	36.19	50.20	7.95	2.08	0.43	0.31	0.12	0.00	0.00	0.00
百日咳	8.89	11.11	6.67	2.22	2.22	4.44	8.89	2.22	8.89	4.44	2.22
ヘルパンギーナ	0.72	9.14	26.66	20.13	13.45	10.55	7.58	3.83	2.49	1.59	1.47
流行性耳下腺炎	0.00	0.41	1.86	4.71	8.90	13.96	15.52	13.08	11.46	9.10	7.30
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	11.76	0.00	0.00	0.00	0.00	11.76	5.88	0.00
流行性角結膜炎	0.58	0.93	4.31	5.59	3.73	3.61	2.10	0.93	1.40	1.05	0.70
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	6.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.13	0.00	3.13	6.25	6.25
無菌性髄膜炎	6.00	12.00	10.00	6.00	4.00	4.00	14.00	6.00	0.00	0.00	6.00
マイコプラズマ肺炎	1.18	24.12	27.06	17.06	5.88	2.35	2.94	2.94	2.35	0.59	0.59
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	12.80	71.95	15.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ <sup>*A</sup>	18.59	5.53	4.56	5.35	5.68	3.94	3.29	2.07	1.85	100.00	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	0.14	0.02	0.20							100.00	
咽頭結膜熱	1.87	0.40	0.91							100.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10.54	1.07	3.91							100.00	
感染性胃腸炎	9.14	2.11	7.51							100.00	
水痘	8.96	0.67	0.93							100.00	
手足口病	1.10	0.09	0.97							100.00	
伝染性紅斑	9.89	0.18	0.72							100.00	
突発性発しん	0.00	0.00	0.00							100.00	
百日咳	20.00	2.22	15.56							100.00	
ヘルパンギーナ	1.77	0.15	0.48							100.00	
流行性耳下腺炎	11.34	0.77	1.59							100.00	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	17.65	29.41	5.88	11.76	5.88	0.00		100.00	
流行性角結膜炎	3.03	2.68	9.79	21.56	12.47	7.58	6.88	11.07		100.00	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 <sup>*B</sup>	6.25	6.25	15.63	15.63	31.25					100.00	
無菌性髄膜炎	4.00	4.00	0.00	6.00	18.00					100.00	
マイコプラズマ肺炎	0.00	2.35	1.76	1.76	7.06					100.00	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	9.09	9.09	81.82					100.00	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					100.00	

<sup>\*A</sup>鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。<sup>\*B</sup>インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-3 月報対象疾病の年齢階級別患者数(2017年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0	0	0	1	89	298	184	154	101
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	7	39	44	31	49
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	11	27	41	33	16
淋菌感染症	0	0	0	0	16	82	53	43	38
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12	6	11	4	1	2	5	2	4
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	7	1	0	1	0	0	2	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	80	48	33	16	13	7	1	1025
性器ヘルペスウイルス感染症	30	36	19	15	9	11	14	304
尖圭コンジローマ	29	19	15	6	4	0	2	203
淋菌感染症	24	22	12	8	8	2	1	309
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	14	10	14	20	31	318	458
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	2	3	5	8	44	78
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	2	1	0	0	3	6

付表4-4 月報対象疾病患者の年齢階級別割合(%) (2017年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0.00	0.00	0.00	0.10	8.68	29.07	17.95	15.02	9.85
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	2.30	12.83	14.47	10.20	16.12
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	0.00	5.42	13.30	20.20	16.26	7.88
淋菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	5.18	26.54	17.15	13.92	12.30
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.62	1.31	2.40	0.87	0.22	0.44	1.09	0.44	0.87
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.28	8.97	1.28	0.00	1.28	0.00	0.00	2.56	3.85
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	7.80	4.68	3.22	1.56	1.27	0.68	0.10	100.00
性器ヘルペスウイルス感染症	9.87	11.84	6.25	4.93	2.96	3.62	4.61	100.00
尖圭コンジローマ	14.29	9.36	7.39	2.96	1.97	0.00	0.99	100.00
淋菌感染症	7.77	7.12	3.88	2.59	2.59	0.65	0.32	100.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0.87	3.06	2.18	3.06	4.37	6.77	69.43	100.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.28	0.00	2.56	3.85	6.41	10.26	56.41	100.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	33.33	16.67	0.00	0.00	50.00	100.00

付表5 月報対象疾病の性別患者数と割合(%) (2017年)

疾 病 名	男 (%)	女 (%)	計 (%)
性器クラミジア感染症	569 (55.51)	456 (44.49)	1025 (100.00)
性器ヘルペスウイルス感染症	99 (32.57)	205 (67.43)	304 (100.00)
尖圭コンジローマ	130 (64.04)	73 (35.96)	203 (100.00)
淋菌感染症	266 (86.08)	43 (13.92)	309 (100.00)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	292 (63.76)	166 (36.24)	458 (100.00)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	46 (58.97)	32 (41.03)	78 (100.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	4 (66.67)	2 (33.33)	6 (100.00)





# 兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

## 第1 目的

感染症対策については、近年の新たな感染症の出現とともに、これまで制圧されてきた感染症の再興など感染症の脅威と感染症を取り巻く状況の変化に対応するため、健康危機管理の観点から、迅速かつ的確な対応、感染症の発生、拡大に備えた事前対応型の行政の構築などを柱として、平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が施行された。

感染症発生動向調査事業は、県内の感染症の発生情報を正確に把握・分析、その情報を速やかに地域に公表することにより、地域住民の感染症に対する理解と協力を促し、医療機関における適切な初期診療や予防接種・衛生教育等の適切な予防措置を進め、感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報（検査情報も含む。以下同じ。）を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施する。

## 第2 法令等の遵守

本事業の実施にあたっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、「国要綱」という。）を遵守する。

## 第3 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

## 第4 実施主体

実施主体は、兵庫県（以下、「県」という。）及び神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市（以下「保健所設置市」という。）とする。

## 第5 実施体制

### 1 基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、県又は保健所設置市の感染症所管課に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、県又は保健所設置市ごとに、原則として、地方衛生研究所内に地方感染症情報センターを設置する。

また、基幹地方感染症情報センターを県の感染症情報センター内に設置し、保健所設置市の地方感染症情報センター等と連携のうえ県全域にわたる患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を地方感染症情報センター、県健康福祉部健康局疾病対策課（以下、「県疾病対策課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらをインターネット等により速やかに情報公開する。

なお、基幹地方感染症情報センターは情報の収集、分析の効果的、効率的な運

用を図るため、必要に応じて兵庫県健康づくり審議会感染症対策専門委員会の助言を求める。

## 2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として患者定点及び疑似症定点をあらかじめ指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

(2) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ指定する。

また、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

## 3 検査施設

県及び保健所設置市の管轄区域内における本事業に係る検体等の検査については、地方衛生研究所若しくは県健康福祉事務所（以下、「健康福祉事務所」という。）又は保健所設置市の検査施設において実施する。

地方衛生研究所若しくは健康福祉事務所又は保健所設置市の検査施設（以下、「地方衛生研究所等」という。）は、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める検査施設における病原体検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、所管する地方衛生研究所等において実施できない検査について、保健所設置市は県立研究所に協力を依頼し、県立研究所において実施できない検査については、県又は保健所設置市は国立感染症研究所等に協力を依頼するなど検査実施体制を確保する。

## 第6 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び全数把握対象の五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 健康福祉事務所・保健所

(ア) 感染症法第12条に基づく医師からの届出、または感染症法第13条に基づく獣医師からの届出を受けた健康福祉事務所又は保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持する医療機関に対して、病原体検査のための検体等の提供

について、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める様式の検査票（以下「検査票」という。）を添付して依頼等を行うものとする。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じてそれぞれの感染症所管課及び地方衛生研究所と協議する。

- (イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

#### イ 地方衛生研究所等

- (ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を健康福祉事務所又は保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに送付する。

- (イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査については、必要に応じて県立研究所に依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所に依頼する。

- (ウ) 患者が一類感染症と診断されている場合、県域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急的な場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

#### ウ 地方感染症情報センター

- (ア) 地方感染症情報センターは、管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所から情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 地方感染症情報センターは、管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報。以下同じ。）等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所や保健所等の関係機関に提供・公開する。

#### エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

#### オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合や国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

## 2 定点把握対象の五類感染症

### (1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

### (2) 定点の指定

#### ア 患者定点

感染症法第14条に定める定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

なお、保健所設置市内の患者定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

#### (ア) 小児科定点

別表2の小児科定点の対象感染症については、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は国要綱に基づき算定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努める。

#### (イ) インフルエンザ定点

別表2のインフルエンザ定点の対象感染症については、前記（ア）で指定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。内科定点の数は国要綱に基づき算定する。

#### (ウ) 眼科定点

別表2の眼科定点の対象疾患については、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は国要綱に基づき算定する。

#### (エ) 性感染症定点

別表2の眼科定点の対象疾患については、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及び二（2）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は国要綱に基づき算定する。

#### (オ) 基幹定点

別表2の基幹定点の対象疾患については、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

なお、基幹定点においては、別表2のインフルエンザ定点の対象感染症のうち、入院患者も届出対象とする。

#### イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、原則、患者定点として指定された医療機関の中から病原体定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の発生状況を把握できるよう考慮する。

同様に感染症法第14条の2に規定されている別表1の(97)に掲げるインフルエンザの病原体の分離等検査情報を収集するために、次の(エ)のインフルエンザ病原体定点を指定提出機関として指定する。

なお、病原体定点の数等については、次の基準の範囲内で、県が保健所設置市と協議して決定する。

##### (ア) 小児科病原体定点

アの(ア)により指定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

##### (イ) 眼科病原体定点

アの(ウ)により指定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として指定する。

##### (ウ) 基幹病原体定点

アの(オ)により指定された患者定点の全てを基幹病原体定点として指定する。

##### (エ) インフルエンザ病原体定点・指定提出機関

アの(ア)及び(イ)により指定された患者定点の概ね10%とし、それぞれ3定点と2定点を下回らないよう指定する。

#### (3) 調査単位等

(ア) 患者定点に係る調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(イ) 小児科病原体定点に係る調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

#### (4) 実施方法

##### ア 患者定点

(ア) 患者定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準（平成18年3月8日健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下同じ。）により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより指定された定点把握対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

##### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 小児科病原体定点においては、患者発生状況を踏まえ、県又は保健所設置

市が別に定めるところにより、別表3の対象感染症のうち複数の感染症について、毎月、原則として概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を、検査票を添えて、梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出するものとする。

(ウ) インフルエンザ病原体定点として指定された医療機関は、インフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに1検体程度を梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出する。

(エ) その他の病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより、検体等について、検査票を添えて、梱包のうえ、速やかに地方衛生研究所等に送付する。

#### ウ 検体等を所持している医療機関等

健康福祉事務所又は保健所から当該患者の病原体検査のための検体等を提供の依頼を受けた場合にあっては、健康福祉事務所又は保健所に協力し、検体等を提供する。

#### エ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 健康福祉事務所又は保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに報告する。

なお、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、検査票を添付して病原体検査のための検体等の提供の依頼等を行い、地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。病原体検査の必要性の判断及び実施等については、必要に応じて県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方衛生研究所等と協議する。

(イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

(ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

#### オ 地方衛生研究所等

(ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体を検査し、その結果を病原体情報として健康福祉事務所又は保健所を経由して病原体定点に通知するとともに、県疾病対策課及び保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報については、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター。以下同じ。）に報告する。

(イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査については、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても検査が困難な場合は、必要に応じて国立感染症研究所に協力を依頼するものとする。

(ウ) 地方衛生研究所等は、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められ場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

カ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

キ 基幹地方感染症情報センター

基幹感染症情報センターは、県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

ク 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

### 3 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の指定

県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を指定する。また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

なお、保健所設置市内の疑似症定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定すること。

(ア) 第一号疑似症定点

対象疑似症のうち、別表1の(113)に掲げるものについては、内科又は小児科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点とする。

また、第一号疑似症定点の数は国要綱に基づき算定する。

なお、小児科定点又はインフルエンザ定点を兼ねることができる。

(イ) 第二号疑似症定点

対象疑似症のうち、別表1の(114)に掲げるものについては、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として内科、小児科又は皮膚科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点とする。ただし、当面の間は第一号疑似症定点を第二号疑似症定点として指定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)の(ア)により選定された定点把握対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を保健所に連絡する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 届出を受けた健康福祉事務所又は保健所は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方感染症情報センター並びに中央感染症情報センターに報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは管轄区域の疑似症情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは管轄区域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に情報提供する。

オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

地方感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県と連携の上、迅速な対応を行う。

## 4 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、県の実情に



応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査を構築していくこととする。

(2) 本実施要領に定める事項以外の内容については、保健所設置市の意見を聴取したうえで、必要に応じて県健康福祉部健康局長が定めることとする。

## 5 保健所設置市との関係

兵庫県は、本事業を実施するため保健所設置市と協議し、連携を図る。

なお、本要領に定める保健所設置市内の保健所設置市感染症所管課、保健所、地方衛生研究所等及び地方感染症情報センターの機能及び役割分担等については、実情に応じて保健所設置市が別に定めることができる。

### 附 則

- 1 この実施要領は、平成22年9月1日から施行する。
- 2 兵庫県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱（昭和62年1月1日施行）は廃止する。
- 3 この実施要領の一部改正は、平成23年2月1日から施行する。
- 4 この実施要領の一部改正は、平成23年9月5日から施行する。
- 5 この実施要領の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。
- 6 この実施要領の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 7 この実施要領の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。
- 8 この実施要領の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。
- 9 この実施要領の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。
- 10 この実施要領の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。
- 11 この実施要領の一部改正は、平成28年2月15日から施行する。
- 12 この実施要領の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。

なお、第6（2）イ（イ）及び（エ）の規程にかかわらず、姫路市内、尼崎市内、西宮市内の病原体定点（インフルエンザ定点を除く）として指定された医療機関は、当面の間、検体等を県立研究所に送付するものとする。

別表1 兵庫県感染症発生動向調査事業の対象感染症

類型	疾患名	届出
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱	全数
二類	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)	全数
三類	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス	全数
四類	(20)E 型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)A 型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q 熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)B ウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兔病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱	全数
五類	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数
	(86)RS ウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎、(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎、(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く。）、(105)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症	定点
疑似症	法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (113)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）、(114)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）	定点
新型インフルエンザ等感染症	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ	全数

別表2 定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科定点	(86)RSウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎	1週間(月曜日から日曜日)
インフルエンザ定点	(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	1週間(月曜日から日曜日)
眼科定点	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎	1週間(月曜日から日曜日)
性感染症定点	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症	各月
基幹定点	(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) ※ただし、入院患者に限定する。	1週間(月曜日から日曜日)
	(89)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(105)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎	
	(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症	各月

別表3 病原体定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科病原体 定点	(86)RS ウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、 (88)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染 性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝 染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、 (95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎	各月
インフルエン ザ病原体定点	(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く。）	流行期（兵庫県におけるインフ ルエンザ定点の1定点あたりの 患者数が1を超えた時点から1 を下回るまでの期間には1週間 （月曜日から日曜日） 非流行期（流行期以外の期間） には各月
眼科病原体 定点	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎	各月
基幹病原体 定点	(89)のうち病原体がロタウイルスであるも の、(105)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、 髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く。）、(108)無菌性髄膜炎	各月



## 2017年 兵庫県感染症発生動向調査事業年報

---

発行 2018年12月25日  
発行者 大橋 秀隆  
発行所 兵庫県立健康科学研究所  
(兵庫県感染症情報センター)  
電話 079-440-9090 (代表)  
Fax 079-438-5570  
メール [webmaster@hyogo-iphes.jp](mailto:webmaster@hyogo-iphes.jp)



30健®1-003A4